

新宇土市史基礎資料 第一集

町在(一)

— 寛政十一 — 文政四年 —

宇土市教育委員会

(町在二) 目次

寛政十一年

一 芥川喜左衛門、小山改蔵	1
二 武三 他	1
三 助三 他	2
四 野田四郎太夫	3
五 松右衛門 他	4
六 中山茂左衛門 他	4
七 中山茂左衛門 他	7
八 岡村弥八郎	10
九 西山武左衛門、河瀬惣兵衛 他	11
寛政十二年	
一〇 郡浦三郎左衛門、小山改蔵 他	13
一一 江口儀兵衛	18
一二 平右衛門 他	18
享和二年	
一三 小田宇七、小田藤右衛門	21
一四 陣内綱次	23
一五 小山改蔵、井上甚平	23
一六 門田寿吉郎	25
享和三年	
一七 中熊新蔵	25
一八 安谷庄三郎、高浜林助、田辺源蔵 他	26

一九 宇土郡六三ヶ村	32
二〇 吉田清蔵	34
二一 政右衛門	34
文化元年	
二二 井上源三郎	35
二三 永井藤十郎	35
二四 中熊新蔵 他	36
二五 中村嘉右衛門	40
文化二年	
二六 久左衛門	44
二七 中村慶太	44
二八 久左衛門	45
二九 野田四郎太夫	45
文化三年	
三〇 江口理助	51
三一 右山長左衛門	52
三二 日限太郎右衛門	52
三三 門田久左衛門	53
三四 河野清左衛門	54
三五 佐田五郎八 他	54
文化四年	
三六 内田宅平	56
三七 野田四郎太夫	57
三八 松栄	58
文化五年	

三九 儀七.....59

四〇 茂左衛門.....59

四一 惠三郎.....60

四二 丈助.....61

四三 藤井常右衛門.....61

四四 江口理助 他.....65

四五 江本松太郎.....66

四六 柘植寿迪、浦上真広.....67

文化六年

四七 源藏.....68

四八 太平次.....69

四九 藤本茂作.....69

文化七年

五〇 井上源三郎 他.....70

五一 小山改藏.....71

五二 次平.....72

五三 松田三淳.....73

文化八年

五四 井上甚平.....75

五五 吉田清藏 他.....76

五六 西山武左衛門.....86

五七 柘植桂淳.....86

五八 岡村弥八郎 他.....87

五九 浦上真寿.....88

文化九年

六〇 吉田戸次郎.....89

文化十年

六一 野田嶋右衛門、米助.....89

文化十一年

六二 林原恵七 他.....91

六三 万七 他.....93

六四 喜十郎.....97

文化十二年

六五 岡村万藏.....97

六六 庄右衛門 他.....98

六七 楊元逸 他.....99

六八 伊藤玄圭.....101

文化十三年

六九 河野寿助.....101

七〇 井上甚平.....102

七一 小山己三郎.....103

文化十四年

七二 積 庄助、正垣常右衛門.....104

七三 佐田源次 他.....106

七四 茂七.....107

七五 桑原文七.....107

七六 橋本宗俊.....110

七七 森内甚兵衛、河野慶藏.....110

七八 積 庄助、西山武左衛門.....111

文政三年

七九 郡浦典太	113
八〇 加平 他	114
八一 定次	116
八二 中山武助	117
八三 嶋田源之助	118
八四 吉田徳十郎	121
八五 中村小左衛門	124
文政四年	
八六 松山丈八	124
八七 井上甚平	125
登録番号対照表	127

例 言

一、本書は、宇土市史編纂の基礎資料を集成したもので、その第一集として財団法人永青文庫所蔵の細川家史料『町在』^{まちざい}の宇土市関係分を抄録したものである。掲載の許可をいただいた財団法人永青文庫（細川護貞理事長）に感謝する。

一、底本は、熊本県立図書館架蔵の複製本によったが、複製本に齟齬があるものについては、熊本大学附属図書館寄託の原本と対照させ、それによって修正した。閲覧にあたってご便宜いただいた熊本県立図書館・熊本大学附属図書館に感謝する。

一、史料は、今回検索を行なった宇土市関係史料の中から任意に番号を付したものであり、便宜的に人名を表題とし、目次と対照させた。

一、表題となった人名の下に、原本の分類目録番号を付した。この番号は、細川藩政史研究会刊行の『永青文庫、細川家旧記・古文書分類目録 正編』に収められた整理番号である。熊本県立図書館の架蔵番号とは異なるため、巻末に登録番号対照表を付した。

一、釈文は、下記に従って活字化したものである。

一、それぞれの史料には適宜、句読点「、」「。」および並立点「・」をつけた。

一、文書の年月日、差出、当所等の位置や高さは、底本に係わらず統一した。

一、用字については、次のとおり配慮した。

旧漢字・異体字は固有名詞をのぞき原則として、現行の漢字に改めた。

変体仮名「ゑ」「ゐ」「へ」「え」は、原則として、現行の仮名にあらためたが、助詞の、者・茂・江・而・并・ニは、そのまま用い、活字を小さくした。

二字、又は三字繋の仮名（^り、^メ等）は、二字または三字の仮名になおした。

一、地名・人名等の固有名詞については底本に拠った。ただし補記の必要なものについては傍註を付した。

一、底本の不明部分は□とした。疑わしい文字については、ママを付した。

一、敬称のための欠字・平出・台頭等は行なわなかった。

一、史料収録にあたっては差別や人権について十分配慮したが、できるだけ原本に忠実に釈文を行なったために、現在の価値観では律しきれないような内容の文も含まれている可能性がある。歴史資料としての存在意義をそこなわなかったための止むを得ない判断であることをご了解いただきたい。

一、史料の検索・釈文・校訂は井上正（市史編纂委員長）、光永文照（市史編纂委員）、堤克彦（北稜高校教諭）、根本なつめ（市史編纂調査員）が行ない、校正・編集は右記のほか、市史編纂室において実施した。

(寛政十一年)

一 芥川喜左衛門、小山改蔵

(九一九一)

松山手永御惣庄屋

芥川喜左衛門

右^者 大津手永御惣庄屋所替被仰付、御知行高三拾石可被下置哉。

大津手永 右同

小山 改蔵

右^者 松山手永御惣庄屋所替被仰付、御知行高貳拾石可被下置哉。

右之通^ニ而、御代官を^茂兼帶可被仰付哉。

以上

二月

選舉方

御奉行中

右之通二月廿八日書附渡。

二 武三 他

(九一九一)

口上之覚

松山会所詰

一 錢五百目

武三

但去冬被仰付候御才覚銀、直^ニ寸志^ニ差上申度旨、当八月奉願、去冬当冬兩度^ニ上納、皆済仕候分。

一 同老貫五百目

同人

但松山会所御囲糶藏、当春御取締之儀承付、寸志^ニ指出申度旨

願出申候間、其段御達仕候處、願之通被召上、直^ニ御入目錢^ニ被渡下候分

右^者 松山手永御囲糶藏、至^而大破^ニ相成、いか体^ニ難關、御取締之儀、追々申談候得共、近年種々災害打続、御囲糶^茂段々拝領・拝借等^ニ相成、御備高余計無御座候^ニ付、其内より御出方之儀^茂御達難仕、当惑仕居候處、右之通寸志指出、且御才覚銀之儀も、直^ニ寸志奉願被仰付候高、去冬・今年兩度相納、其上右之者儀、安永七年松山会所小頭申付、天明六年永尾村庄屋役^ニ申付、猶又当夏より松山会所詰^ニ転役申付、都合当年迄二十一年役方を^茂出精相勤、親吉右衛門と申者も、会所役^并庄屋役共四十二年相勤居候内、安永八年六月数年之勤功^并寸志等指出申候訳旁^ニ被対、無苗^ニ而御郡代直触被仰付置、去年四月病死仕候儀^ニ御座候間、右之訳且其身、右之通数年役儀出精相勤、猶又前段寸志之儀も御座候間、旁被賞、乍恐苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付被下候様。

一 錢貳貫目

松合村

惣兵衛

但松山会所御囲糶藏御取締^ニ付、前条同断。

一 糶三斗五升

但天明三年十二月寸志指出、御囲糶被加置候分

一 錢三百目

但同四年五月松合村急飢之者取救申候分

一 大麦四俵

但寛政四年五月松合村右同断

一 米壹俵

但同八年笹原村洪水之節、為取救指出候分

一 大麦五俵

但同年松合村急飢之者取救申候分

右^者松山会所御田^者藏、御取繕之儀ハ、前條同様ニ御座候。且又乍聊追々取救等も仕、寄特之儀ニ御座候間、乍恐被賞、苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付被下候様。尤右之者安永六年寸志之^二而^一、礼服等御免被成置候。其後も兩度寸志指出候節、御間ニ御聞届ニ相成候旨、御達御座候。

右兩人共於其身^一者、何そ内望之筋等無之旨御座候得共、前段申上候通ニ御座候間、何とそ乍恐夫々被賞被下候様有御座度、於私奉願候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

十一月

河井藤兵衛

御郡方

御奉行衆中

武三儀、親ハ寸志・勤勞旁を以、無苗ニて、御郡代直触被仰付置、役方四十二年相勤病死。右之^二而^一武三役方出精・寸志旁を以、申立之通御座候得共、寸志^二而^一無苗之直触^者、一代限之究ニ有之、親之勤右之年數位ニて、忤御賞美之儀ハ、見合^茂無之、當時寸志^二而^一苗字・刀御免之御郡代直触^者四貫目以上、苗字迄御免之御惣庄屋直触^ニ者、貳貫五百目以上之究^ニ付、武三寸志高ニてハ、右御惣庄屋直触被仰付^ニ茂、五百目以上不足仕候得共、役方当年迄二十二年出精相勤申由^ニ付、勤方旁を以、苗字迄御免、御惣庄屋直触可被仰付哉。

右付札之通三月十三日^茂面達

選舉方
御奉行中

惣兵衛儀^茂苗字迄御免、御惣庄屋直触可被仰付哉。

右同断

選舉方

御奉行中

三 助三他

(九一—九一)

御内意之覚

錢塘会所^江被建置候御田^者藏貳軒共、痛様御手入不仕候^而ハ難相濟、内^者軒^者何分建修理届兼、新規建直不申候^而者、難叶御座候處、同所^江被建置候、油御藏解除被仰付候由^ニ付、相応之代錢上納を以御田^者藏ニ被渡下度段御達仕候處、其通被仰付右出方之儀御田^者藏之内より御出方を^茂可奉願處、纔之御備^ニ有之、零落之手永出銀割賦^茂難申付御座候處、手永内之者共少し完寸志差上申度段、尤右^ニ付内望之筋^茂無之由相達申候付、被召上右代錢被渡下殘分之儀^者御田^者藏修覆料被渡置被下候様御達仕、其通被及御達御田^者藏之御出方^并出銀割賦等^ニ茂及不申、油御藏代錢上納等^茂相濟申候、寄特之儀^ニ付乍恐寸志差出候者共之儀、夫々但書を以御達仕候通被為賞被下候様有御座度於私奉願候、

北南東錢塘村庄屋

一錢五百目

御惣庄屋直触

助三

但家内之者共菅笠傘等御免被仰付被下候様

一同貳百目

下内田新開村庄屋

伊三郎

一錢貳百目

北奥古閑村庄屋

弥三次

一同貳百目

惟重村庄屋

勇助

一同三百目

中無田村

甚八

一同三百目

小岩瀬村

安平

一同三百目

同村

嘉七

一 同貳百五十拾目	下奥古閑村	彦兵衛
一 同貳百五十拾目	北奥古閑村	円助
一 同貳百五十拾目	野田村	宇右衛門
一 同貳百目	北走瀉村	清助
一 同貳百目	貳町村	恵助
一 錢貳百目	西錢塘村	左平次
一 同貳百目	下内田新開村	伝助
一 同貳百目	同村	吉平
一 同貳百目	同村	源右衛門
一 同貳百目	同村	恵助
一 同貳百目	西走瀉村	用助
但右何レ ^茂 菅笠傘等御免被仰付被下候様		
一 錢五拾目	下奥古閑村庄屋	
一 同五拾目	御惣庄屋直触	坂田文助
一 錢貳百目	方丈村御惣庄屋直触	堺助次郎
	野田村	彦平
先年礼服御免被成宜候者と相見申候		
一 同百目	西走瀉村	弥次右衛門
一 同五拾目	八町村	兵右衛門
一 同五拾目	同村	源吉
一 同五拾目	同村	兵七
一 同五拾目	八町村	弥三次
一 同三拾目	中無田村	幸助
一 同三拾目	同村	用助
但右何レ ^茂 御間 ^ニ 御間届被仰被及御達被下候様		

右之趣乍恐於私奉願候、此段可然様被成御參談可被下候、以上
六月 井上平八

御郡方
御奉行衆中

助三儀願之通家内之者共、菅笠・傘等可被成御免哉、
一伊三郎より西走瀉村用助迄十七人寸志高不同有之候得共、當時者貳
百目已上之寸志傘迄被成御免究^ニ付、何れ^茂傘迄可被成御免哉、
一坂田文助以下何レ^茂御間承届候段及達可申哉、
右付札之通八月九日紙面達

選舉方
御奉行中

四 野田四郎太夫

(九一九一)

御内意之覚

宇土郡松山手永御山支配役并
御牧山見以兼帶

野田四郎太夫

右四郎太夫儀、宝曆八年親跡一領一疋被召出、安永四年御山支配役
被仰付、天明二年九月御山方出精仕候由^ニ而、御銀五兩被為拝領、寛
政元年六月御山方無懈怠相勤候^ニ付、八木拾五俵完を三人扶持^ニ被
直下、外^ニ勤料米五俵完被為拝領、同五年五月御山仕立方出精仕候
^ニ付、勤料米拾俵被増下、都合拾五俵完被為拝領候^ニ而、被召出候より
当年迄四十二年、御山支配役右同二十五年相勤申候。
右四郎太夫儀、御役方格別出精仕、諸木仕立方心懸能、御山々繁茂

仕、且安永六年以来、水足庄三郎方より杉・桧苗年々受取、網引御山内并網津・長浜・飯塚・三日、右掛りく之御山内江追々仕立方仕候処、三尺廻より以下、去春迄植立候木数、大数拾六万五千四百六拾本余^{ニ而}御座候。別^{ニ而}網引御山之内余計^ニ仕立、殊^{ニ而}能木^{ニ而}近年之内^{ニ者}急度御用^{ニ茂}相立可申旨、見聞仕候。其外請賜御山く指杉・桧苗・松等年々余計^ニ植差仕、御山ノ口・御山番等^{ニ茂}委ク申教仕候^{ニ付}、所々御山々共^ニ立茂り、御山内拟方^{ニ茂}宜敷、御役方数十年抜群出精仕、将又御牧山見拟方^{ニ茂}心懸能、精勤仕候間、旁乍恐各別^ニ被賞被下候様有御座度、於私奉願候間、重疊可然様被成御讃談可被下候。以上

三月

御郡方

御奉行衆中

河井藤兵衛

四郎太夫儀、役方出精付^{ニ而}、近年追々被附御心、御扶持方被下置、勤料米被増下候儀、本行之通御座候。心懸能出精相勤申由^{ニ付}、猶又勤料米^{ニ而}も被増下^{ニ而}可有之哉。然処出精付^{ニ而}、是迄金銀ハ追々被下置候得共、未作紋之品^{ニ者}被下置候間、此節^{ニ者}先作紋帷子一可被下置哉。如何程可被仰付哉。

選挙方

右付礼之通八月廿三日申渡

御奉行中

五 松右衛門 他

(九一―九一二の二)

御内意之覚

一 錢五百目

松山手永網津村

松右衛門

一 同五百目

同手永同村

太右衛門

一 同五百目

同手永同村

甚右衛門

一 同式百目

同手永同村庄屋助役 助十

右^{ニ者}宇土郡松山手永笹原村・大見村之儀、去々夏以来疫病入込、間々相煩居申候処、去春比より^{ニ者}次第^ニ流行仕、夏^ニ掛烈敷相煩、死亡之ものも有之、如何^ニ難^{ニ茂}難取続御座候処、右四人之者共、近村^{ニ而}難^{ニ茂}難^{ニ茂}之様子承及、右之鳥目為取救、寸志^ニ指出申度旨願出申候間、其段御達仕候処、御惣庄屋願之通被召上、直^ニ両村^{ニ江}被為拝領候間、内輪強弱精々相しらへ、如何^ニ難^{ニ茂}難取続者共迄^ニ配当仕、御影を以早ク快腹仕、田畑諸作手入万端無手拔、出精仕申候。右四人之ものとも、於其身^{ニ者}何そ内望之儀も無之旨御座候得共、前條之通寄特之取救仕、至^{ニ而}難^{ニ茂}難^{ニ茂}之者共、御救之助成^ニ相成、各別御難題之儀^{ニ茂}不奉願押移申候間、乍恐相応^ニ被賞被下候様有御座度、於私奉願候。此段可然様被成御参談可被下候。以上

二月

御郡方

御奉行衆中

河井藤兵衛

松右衛門・太右衛門・甚右衛門儀、傘・小脇差被成御免、助十儀ハ傘迄可被成御免哉

選挙方

右付礼之通二月廿五日^ニ希面達

御奉行中

六 中山茂左衛門 他

(九一―九一二の二)

口上之寛

松山手永下松山村庄屋

御郡代直触

中山茂左衛門

当申六十八歳

右茂左衛門儀、宝曆五年親跡庄屋役申付、当年迄四十六年相勤申候。尤右之内寛政五年松山村庄屋役兼帶申付、相勤居申候處、及老年、兩村之儀ハ届兼候由^{ニ而}、断願出申候間、同九年松山村之儀^者差免申候。

一 宇土郡海辺塘筋及破損汐留御普請、格別出精仕、平日村方取計等宜様子^ニ付、旁被賞、安永元年鳥目老實文被為拜領候。

一 安永三年十二月平日取計筋宜、御年貢・諸上納等、速^ニ皆済仕、万端出精相勤候旨^{ニ而}被賞、礼服御免被仰付候。

一 寛政六年十月庄屋役数十年手全^ニ相勤、出精仕候付被賞、苗字御免被成、御郡代直触^ニ被仰付候。

右之外先役共より追々支配銀等^茂差遣、賞置申候者^{ニ而}、格別精勤仕、第一農業出精仕、御年貢・諸上納とも^ニ速^ニ取立、村方申教行^レ屋、数十ヶ年出精相勤申候間、乍恐被賞、刀御免被仰付被下候様有御座度奉願候。

佐野村庄屋

御惣庄屋直触 林原市左衛門

当申五十四歳

右市左衛門儀、明和三年親跡庄屋役申付、相勤居申候内、天明八年庄屋役取計筋不行届儀御座候^而、役儀指除、猶又寛政四年庄屋再役申付、当年迄前後都合三十二年相勤申候。

一 安永六年六月、庄屋役手全^ニ相勤、村中取計宜、御年貢・諸出米

銀とも^ニ、格別出精、万端質素を相守、御百姓之風儀宜様子^ニ付被賞、無苗^{ニ而}御郡代直触被仰付置候處、寛政九年一統苗字御免被成、御惣庄屋直触被仰付候。

右村方之儀、零落之所柄^{ニ而}御座候處、諸事心を用、村中抑揚宜敷、御免方取計等之儀廉直有之、御年貢・諸出米錢・諸公役等、速^ニ相勤、格別出精仕候間、乍恐被賞鳥目被為拜領被下候様有御座度奉願候。

古保里村庄屋

喜三右衛門

当申六十九歳

右喜三右衛門儀、宝曆二年頭百姓相勤、同九年より村横目役相勤、安永四年庄屋役申付、当年まで二十六年頭百姓・村横目共都合四十九年相勤申候。

一 寛政六年十月役方数年心懸能、出精仕候旨^{ニ而}吉凶礼之節、麻上下着用・合羽・傘等御免被仰付候。

右^者役方心懸厚ク、御年貢・諸出米銀・諸公役等、速^ニ相納、村中押抱宜、近年凶作打続、色々内輪難渋之筋多、零落之村方^{ニ而}格別身勞も仕、諸事厚ク心を用、精勤仕。古保里村之儀ハ、中道往還筋^{ニ而}諸御役人通行多、人馬継彼是心遣多所柄^{ニ而}御座候處、無間抜取計、且又薩州様御上下之節々、右喜三右衛門宅^江御小休御座候處、前後之取計万端自勤^{ニ而}相勤、格別出精仕候間、乍恐被賞、苗字御免被成、御惣庄屋直觸^ニ被仰付被下候様有御座度奉願候。

篠原村庄屋

忠次

当申三十八歳

右忠次儀、安永四年会所見習^ニ呼出、同七年小頭役申付、天明二年

庄屋役申付。当年迄十九年、会所見習より二十六年相勤申候。

一 寛政五年六月、津波之節、急場之御用筋多有之候処、無間抜取計生残候者共、生産^ニ基方しらべ等厚ク心を用、出精仕候由^ニ而、鳥目老貫文被為拝領候。

右者、役方心懸能、篠原村之儀、津波、洪水等打続、災害を請、弥増零落指募、色々御難題^ニ茂罷来候村方^ニ而、内輪種々難渋強、年々高地取治、万端厚心を用、無類之零落所兎哉角と押移せ、難渋之村方なから、御年貢・諸出米錢・諸公役等、無滞相納、格別出精相勤申候間、乍恐被賞、礼服・小脇差等、御免被仰付被下候様有御座度奉願候。

築籠村庄屋

吉左衛門

当申七十六歳

右吉左衛門儀、安永元年庄屋役申付、当年迄二十九年相勤申候。

一 安永八年六月松山手永村々為取致、鳥目指出候付、被賞、礼服御免被仰付候。

右築籠村ハ、宇土御知行所^ニ而、御年貢者彼方江上納仕候得とも、諸出米錢・諸公役等^者、御郡方並之通相勤申候。右村之儀至^而零落所^ニ而、色々内輪難渋之筋多御座候処、村中押抱宜、農業出精仕、諸御用向速^ニ取計、最早極老仕候得とも、惣体壮健成者^ニ而、万端出精相勤申候間、乍恐被賞、無苗^ニ而、御惣庄屋直触^ニ被仰付被下候様有御座度奉願候。

松原村庄屋

伊助

当申六拾三歳

右伊助儀、明和七年より御取立払頭相勤、安永五年村横目相勤、同

七年庄屋役申付、当年まで二十三年払頭役より都合三十一一年手全^ニ相勤申候。右松原村之儀も、宇土御知行所^ニ而、御年貢方ハ彼方江相納申候得とも、諸出米錢・諸公役御郡並之通相勤、右村方之儀ハ、宇土往還筋^ニ而、諸御役人立寄、不時人馬繼、彼是余村と違、勤稜繁雜之所柄^ニ御座候処、万端心を用、諸事無間抜取計、零落之村方農業^ニ進せ、御百姓風儀も宜、役方出精相勤申候間、乍恐被賞、礼服・小脇差等御免被仰付被下候様有御座度、奉願候。

松山手代御惣庄屋直触

求八

当申四十二歳

右求八儀、安永二年より会所役申付、寛政七年まで相勤居申候処、同年郡浦手代役申付、同手永御給知在請込申付置候処、同十年松山手代役申付、右御給知在之儀も兼帶申付置、当年迄都合二十八年相勤申候。

一 寛政五年六月津波^ニ付而、潮留御普請以来根方^ニ成、昼夜相働、受込之役前始末、無間抜厚ク心を用、格別出精相勤候^ニ付被賞、鳥目貳貫五百文被為拝領候。

一 同十年六月役方数年手全^ニ出精仕、郡浦手永御給知在村々零落所^ニ而、教諭^茂届兼候処、厚ク教示仕、村々氣請能、農業致出精、且同八年洪水後、潮留御普請等骨折、別^而請込、村々水浸^ニ相成、急飢之もの多有之候処、米錢才覚等厚ク世話いたし、諸事無間抜取計候旨^ニ而、被賞、無苗^ニ而、御惣庄屋直触被仰付候。

右之外先役共より支配銀等追々差遣、賞置申候もの^ニ而、格別精勤仕、松山之儀近年度々御惣庄屋所替被仰付、入替引繼、万端別^而心遣強御座候処、代々厚ク手全相勤、才力も有之、諸事吞込能、一稜

御用ニ相立申候者ニ而、披群精勤之者ニ御座候。且又郡浦手永御給知在請込兼帶之儀ハ、零落之所柄ニ而、去春已来ハ相願、無給ニ而相勤申候間、出銀ニ而相減、下方為ニ而相成申候条、旁々恐被賞、苗字・刀御免被成、御郡代直触被仰付被下候様有御座度、奉願候。右之通何レニ而、出精相勤申候間、乍恐夫々被賞被下候様、於私奉願候条、此段可然様被成御參談可被下候。以上

閏四月

河井藤兵衛

御郡方

御奉行衆中

庄屋格別之者ニ而、四十年余ニ而、刀御免之見合有之、一通り出精之者ニ而、五十年余ニ而、被成御免儀ニ有之、茂左衛門儀、御郡御目附付御横目聞合之通有之候得者、各別之儀ニ而相見不申、其ノ上寛政六年被賞候已後七年ニ相成、年数ニ而相成不申候間、願之趣見合可被置哉。

市左衛門儀、鳥目老實文可被下置哉。

文四郎儀、御郡御目附付御横目聞合ニ而、格別精勤之者之由、相達候付、苗字可被成御免哉。

喜三右衛門儀、頭百姓以来ニ而、四十九年相成候由ニ候得共、庄

屋之勤ニ而、二十六年ニ相成、礼服御免以後七年ニ相成、年数ニ而

及不申、願之趣先当年迄ニ而見合可被置哉。

清左衛門儀、願之通可被仰付哉。

忠次儀、願之通可被仰付哉。

吉左衛門儀、礼服ニ而、被成御免置、役方ニ付ニ而之被賞者

無之候ニ付、願之通可被仰付哉。

伊助儀、願之通可被仰付哉。

求八儀、役方至ニ而精勤之由、御郡御目附付御横目聞合之書付ニ而相見、郡浦手永御給地在請込手代兼帶相勤申候處、其春已来ニ而、無給ニ而相勤、右之給米代・引高分共ニ而老實百目余ニ而、手永出銀減ニ而相成候由ニ付、旁被賞ニ而可有之哉ニ御座候得共、去々年役方出精旁ニ而、御惣庄屋直触被仰付、間近ニ有之、尤寸志之意ニ而、茂有之候處、無苗之御惣庄屋直触より苗字・刀御免、御郡代直触ニ而、式貫五百目以上之寸志ニ而、被仰付儀有之、前条之給米引高分之代ニ而、半高ニ而及不申、来年ニ至候ハ、高ニ而相増可申。被賞以後ニ而、四年ニ成、未間近ニ而、有之候得共、格別精勤寸志之意旁を以被賞ニ而可有之哉。先此節願之趣ニ而見合可被置哉。

右付札之通、六月廿一日夫々番面達。

七 中山茂左衛門 他

(九一九二の二)

覚

松山手永下松山村庄屋

御郡代直触

中山茂左衛門

右ニ而年数勤方之様子聞合、御達可申上旨ニ付、承合候處、左之通ニ御座候。

一 右茂左衛門儀、宝曆五年三月親跡下松山村庄屋被申付候由。

一 安永元年正月、役儀手全ニ相勤候旨ニ而、御郡代より被申渡候由。

一 同年宇土海辺塘筋及破損候節、汐留御普請格別出精仕、平日村方

取計等宜様子旁ニ而、鳥目老實文被為拜領候由。

一 安永三年十二月、役儀数年手全ニ相勤、村方農業致出精候旨ニ而、

麻上下・傘御免被仰付候由。

一 同八年十二月村中申教行届、御年貢諸出米銀共、限々速^ニ皆済仕、精勤仕候旨^ニ而、御郡代支配銀之内より鳥目老實文被為拜領候由。

一 寛政五年四月、松山村庄屋兼帯被申付、相勤居候处、老年^ニ相成難相勤相断、同九年五月松山村庄屋之儀^者被指免候由。

一 寛政六年十一月、役儀数十年手全^ニ相勤、出精いたし候旨^ニ而、苗字御免被仰付、御郡代直触^ニ被仰付候由。

一 同十年十二月、数十年役方出精相勤、村方諸事申教、厚帰服仕候由^ニ而、御郡代支配限々内より金子貳百疋被為拜領候由。

右之通茂左衛門儀、追々被賞候由^ニ而、弥役前入念、村方^{江茂}申教、農業方当前致出精、於村方唱^茂宜、宝曆五年より当年迄四拾六年手全^ニ精勤仕候由承申候。

同手永佐野村庄屋

御惣庄屋直触

林原市左衛門

右^者年数勤方之様子承合候处、左之通^ニ御座候。

一 右市左衛門儀、明和三年十二月親跡佐野村庄屋役被申付、安永四年六月役儀手全^ニ相勤、村方取計筋宜、各別出精、万端質素を相守、百姓之風儀宜旨^ニ而、無苗之御郡代直触^ニ被仰付候由。

一 天明八年十月佐野村弥三次と申者、廻江手永阿高村^江其比致居住居候本庄仁三郎方^江養子^ニ參候儀を不奉願、押移居候節、右弥三次不宜者^ニ而、御咎之筋有之、其節右養子^ニ參候儀不奉願、押移候段、不將之旨^ニ而、庄屋被指除候由。

一 寛政四年八月、庄屋帰役被申付、同九年十一月無苗之御郡代直触を苗字御免^ニ而、御惣庄屋直触^ニ被転候由。

右市左衛門儀、平日質素^ニ有之、零落之村方兎哉角致世話、且村中

申教等仕、御免方御年貢・諸出米銀・諸公役等、廉直^ニ取計、前後三十二年精勤相勤候由承申候。

同手永古保里村庄屋

喜三右衛門

右^者年数勤方之様子、且薩州様御上下之節、右之者宅^江御小休^茂有之、右取計万端自勤^ニ而相勤、格別致出精候由承合候处、左之通^ニ御座候。

一 右喜三右衛門儀、宝曆二年より頭百姓相勤、同九年より村横目相勤、安永元年村横目^者被指免、猶又頭百姓相勤、安永四年十一月庄屋被申付候由。

一 寛政六年十月役方数年心懸宜、出精仕候旨^ニ而、礼服御免被仰付候由。

一 右古保里村之儀^者、中通^ニ往来繁、出在御役人馬繼替、又^者休泊有之、世話多致心遣候由、且薩州様御通行之節、右之者宅^江被為入候^ニ付、格別自勤^ニ而相勤候儀^者無之候得共、御通行御前後万端致心遣、御迎送^ニ御目通^ニ罷出、御供中支度之世話^茂有之相應^ニ代錢請取、且御銀^茂被為拜領候由^ニ御座候得共、諸事心遣いたし候由^ニ御座候。

右喜三右衛門儀、村方零落付^而、御年貢・諸出米銀取立方、世話^茂多由之處、村方^{江茂}申教、諸事無滞取計、当年迄村役都合四十九年、役前心懸能、精勤仕候由承申候。

同手永篠原村庄屋

忠次

右^者追々在役相勤、先年津波之節、急場之儀多有之候处、無間拔取計、篠原村之儀、津波・洪水等打統、弥以致零落候处、心を用取計

候間、難波之村方なから、諸上納無滞相納、格別出精相勤候由承合候処、左之通御座候。

一 右忠次儀、安永四年十一月より会所見習、罷出、同七年七月小頭被申付、天明二年十一月庄屋被申付候由。

一 寛政五年六月津波之節、急場之御用筋多有之候処、無間抜取計活残候者共、生産基方之しらへ等、厚心を用、出精仕候旨、鳥目老貫文被為拜領候由。

一 右忠次儀、庄屋被申付候処、零落之村方、諸事世話多由之処、先年非常之高波、無間洪水兩度なから及飢候付、夫々相達、追々寸志差出候米穀を以、御救被仰付、御困艱拜借、彼是急場を相凌候仕合、付、弥及零落、地方之形付、御年貢、諸出米銀、諸公役等及難波候由之処、村方江教示を加種々取計、骨折相勤候由、諸上納無滞致皆納、会所見習より当年迄、都合二十六年、格別出精相勤候由承申候。

同手永築籠村庄屋

吉左衛門

右者年数勤方之様子承合候処、左之通御座候。

一 右築籠村之儀、先年宇土本町庄屋より兼帯相勤居候由之処、右吉左衛門儀、宝曆十一年宇土御役所より築籠村内分之庄屋申付、相成、御年貢取立、宇土御藏相納候由。依之宇土御役所より拜領物等被仰付置候由。

一 安永元年四月、本町築籠引分ケ相成、右吉左衛門、築籠村庄屋被申付、御年貢方ハ、宇土御藏江相納、諸出米銀、諸公役等之儀ハ、御郡並之通相勤候由。

一 安永八年六月、松山手永村々急飢為取救、鳥目差出候由、礼服

御免被仰付候由。

一 築籠村高三百九拾石余之処、漸竈数拾軒、男女惣人数六拾人余有之、高地余計、他村江出作遣置候由、御年貢、諸出米銀取立方、至而致難波候由、御座候得共、厚致世話、無滞上納方皆済仕候由。右吉左衛門最早七十歳余相成候得共、壯健有之、安永元年以來当年迄二十九年、出精相勤候由承申候。

同手永松原村庄屋

伊助

右者追々在役相勤、年数勤方之様子、且右村往還筋、人馬繼彼是繁雜之所柄、無間抜取計候由承合候処、左之通御座候。

一 右伊助儀、明和七年より御取立、拂頭相勤、安永五年より村横目相勤、同七年三月庄屋被申付候由。

一 右松原村御年貢方ハ、宇土御藏江相納、諸出米銀、諸公役、御郡並之通相勤候由。

一 右村往還筋、明松繼、夫立間々有之由、御座候得共、宇土駅所近村之事故、出在御役人馬繼替立寄等、繁々無之由、御座候。右伊助儀、零落之村方、兼々申教、農業相励せ、且風儀宜様心を付候由。依之於村方申分、無之、在役都合三十一年、精勤仕候由承申候。

松山会所手代・御惣庄屋直触

求八

右者安永二年以來、会所役相勤、格別致出精、追々御賞美被仰付、諸事吞込能、御用相立、且去年以來無給、相勤候由、承合候処、左之通御座候。

一 求八儀、安永二年正月より松山会所、罷出、相勤居候由之処、寛

政七年十月郡浦手代^{ニ而}同手永御給知在受込被申付、寛政十年五月松山手代^{ニ而}被申付、郡浦御給知在之儀^者兼帶^{ニ而}相勤居申候。右之内追々臨時之御用、無間抜取計、平日役前心懸宜、致精勤候由^{ニ而}、鳥目拝領・御褒詞等、度々被仰付候由。尤寛政五年十二月礼服御免被仰付、同十年六月無苗之御惣庄屋直触^{ニ而}被仰付候由。

一 右求八儀、去年以來無給^{ニ而}相勤候儀、左之通^{ニ而}御座候。

一 米九石六斗 郡浦会所手代給分

但三斗五升入尅俵三拾五匁^{ニ而}、代錢九百六拾目

一 引高三拾石 右同引高分

但此代百五拾目

錢合 尅貫百拾匁

右者郡浦手永御給知在受込手代兼相勤候^{ニ而}付、右之通給分郡浦より受取来候處、兼帶之儀、殊^{ニ而}御給知在^江打懸り居候^{ニ而}茂^{ニ而}無之、兩手永より之給米受取候儀恐多、郡浦分^者無給^{ニ而}相勤度、去春相願、去年一ヶ年分之給米^并引高代、右之通^{ニ而}御座候^而手永出米錢之減方助成^{ニ而}相成候由^{ニ而}御座候。尤求八儀、平日役前心懸厚近年御惣庄屋所替等被仰付候付^而者、格別心遣多御座候得共、役前能吞込居、受込之儀ハ勿論、諸事無間抜取計、惣年数二十八年至^而精勤仕候由承申候。

右承合候趣、御達申上候。以上

五月

魚住安之丞

大賀久次

八 岡村弥八郎

(九一一九一二の二)

御内意之覺

宇土町居住士席浪人格^{ニ而}、先達^而

病死仕候岡村伊三次二男

岡村弥八郎

当申三十一歳

右伊三次儀、連々実成者^{ニ而}、兩親存生之内、至孝を尽、追孝を茂厚ク仕、家内親類睦敷、且年久敷米穀・衣類等を以、広取救仕候付、明和七年正月被賞、無苗^{ニ而}御郡代直触被仰付、同年銀三拾枚寸志指上候^{ニ而}付、同九月被賞、苗字・刀御免被仰付候。寛政九年六月連々慈心深ク、町在難儀之者共^江米穀・衣類・鳥目等追々指遣、数十年來余計之取救いたし、篤実之至奇特之儀^{ニ而}付被賞、士席浪人格被仰付、御紋附、御單羽織一被為拝領、毎歳八木拾五俵完被下置之内、右之通御座候處、当三月病死仕候。二男岡村弥八郎儀、親同前篤実成者^{ニ而}、至極人柄宜敷、且親伊三次右之通数十ヶ年余計之取救等も仕、稀成者^{ニ而}御座候間、旁々恐伊三次跡、右弥八郎^江相統被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段可然様被成御参談可被下候。以上

六月

河井藤兵衛

御郡方

御奉行衆中

伊三次儀、篤実成者^{ニ而}、数十年來難渋之者共^江内密^{ニ而}米穀・鳥目・衣類等、余計^{ニ而}取救いたし候處、深ク隠シ居候^{ニ而}付、委ハ不相分候へとも、鳥目^{ニ而}直シ四拾八貫目余と相見候段、寛政九年六月御郡代より達有之、御郡代内意之通^{ニ而}、及老

年候間、御郡代直触被成御免、俸茂三次儀ハ寸志ニよって、町独礼被仰付置候付、士席浪人格被仰付、伊三次儀、茂三次育之父ニ付、御郡代内意之通、御紋附・御小袖・同御袴・羽織被下置、茂三次江考、同御上下・御帷子・御小袖可被下置哉。右之通ニ而ハ、式拾貫目余之余分ニ相成候へとも、屹ト稜目分り候寸志ニ而茂、無之候間、強右錢高ニ合申ニ不及ニ而可有之哉と、及食議相達申候得共、伊三次父子寸志之儀ハ、類少事ニ而、類引ニ相成申儀も有之間敷候間、伊三次江三人扶持程も可被下置哉と、猶相達申候処、御扶持方被下置候ハ、跡引茂可仕候間、八木被下置方ニ可有之哉之旨ニ付、茂三次士席浪人格被仰付、御紋附御上下・同御時服被下置、伊三次儀、每歳八木拾五俵完、御紋附・御單羽織可被下置哉と相達、追而猶又及食議候者、伊三次儀、茂三次育ニ相成候而も、やはり御郡代直触御免之浪人ニ而、士席之服ハ難相成、御紋之品被下置訊之者ニ而、無御座候ニ付、取救高ハ、余計之儀ニも有之、有余御座候事ニ付、伊三次をも士席浪人格可被仰付哉と相達、其通被仰付。御紋之品・八木共ニ前議之通被下置候処、当三月果候ニ付、本行之通内意願有之候。然処茂三次儀茂、篤実成者之由ニ而、父子申合、前条之通取救ニ付而、兩人共ニ被賞、士席浪人格被仰付候稜目、屹ト相分り、一同ニ差出候寸志トハ、様子も違、俸茂三次儀、右之通被仰付置候上、二男を寸志ニ二代目究之通ニ者被仰付ニ及申間敷哉。尤茂三次儀ハ、已前其身より之寸志ニ而、町独礼被仰付置候処、取救ニよって、士席浪人格被仰付候ニ付、伊三次病死跡ハやはり寸志ニ二代目見合之通ニ男弥八郎儀、父同前士席浪人格被仰付方ニも可有之

哉。如何程ニ可有之哉。御米ハ難下置儀と奉存候事。

選舉方

右付礼之通七月廿五日申渡

御奉行中

九 西山武左衛門、河瀬惣兵衛 他

(九一九一の二)

御内意之覚

一 粟五拾俵

松山会所詰ニ而、御惣庄屋直触

此代耆貫目

西山武左衛門

一同七拾五俵

御惣庄屋直触

此代耆貫五百目

河瀬惣兵衛

右者松山手永村々、去夏非常之旱魃ニ而、当春ニ至、何分難取統至而難波之様子承り付、寸志指出、取救申度旨、願出申候間、其段御達仕候処、願之通被召上、直ニ御惣庄屋江被為拜領候付、精々相札、配当仕、御影を以、定例養水御普請、其外堤浚・新堤・新井手等堀方仕、地起・田根付、夫々出精仕、御百姓無恙取統格別御難題等不奉願、一稜之御取救ニ相成申候。銘々内望等無之段者、委細承札置申候得とも、いつれ茂寄特之様子御座候間、乍恐被賞、兩人共刀を帶、御郡代直触被仰付被下候様。尤武左衛門儀ハ、安永七年松山会所詰申付、其後永尾村庄屋役申付、猶又寛政十年より会所詰ニ転役申付、当年迄都合二十三年役方心懸厚、出精相勤申候旁、前文之通被賞被下候様。

一 粟七百俵

宇土町油屋

此代拾四貫目

清次

右者前條同様ニ御座候間、乍恐被賞、士席浪人格被仰付被下候様。尤

右之者寛政六年寸志指出申候ニ付被賞、町別当列ニ被仰付置候。

一 鳥目五百目 松合村庄屋 彦三

右前條同様ニ御座候間、乍恐被賞、礼服御免被仰付被下候様。

一 同貳百目 大見村庄屋 太郎兵衛

一 同貳百目 高良村庄屋 喜三右衛門

一 同貳百目 松山村庄屋 喜平

右三人之者とも、前條同様御座候間、乍恐被賞、合羽・傘御免被仰付被下候様。

一 鳥目貳百五拾目 松合村 善五郎

右前條同様御座候間、乍恐被賞、傘御免被仰付被下候様。

一 同三百目 同村 利平

一 同三百目 同村 吉兵衛

一 同三百目 同村 伊右衛門

一 同三百目 高良村 卯右衛門

右四人之者共、前條同様御座候間、乍恐被賞、小脇差・菅笠御免被仰付被下候様。尤右之ものとも寛政六年寸志之詔ニ而、合羽・傘御免被仰付置候。

一 鳥目三百目 高良村 卯七

一 同 三百目 同様 善左衛門

右兩人之者とも前條同様御座候間、乍恐被賞、小脇差・菅笠御免被仰付被下候様。

右之通作恐夫々被賞被下候様有御座度、於私奉願候。松山手永村々之内、去冬以來至而難波之様子者、追々御内意を申上候通ニ御座候處、一稜之御取救ニ相成申候間、重畳可然様被成御參談可被下候。以上

六月

河井藤兵衛

御郡方

御奉行衆中

苗字御免之御惣庄屋直触よりハ、壹貫五百目已上之寸志ニ而刀御免、御郡代直触被仰付究ニ有之、本行之寸志高ニ而者五百目及不足候へとも、武左衛門会所詰庄屋共ニ二十三年出精相勤候由ニ付、旁願之通可被仰付哉。

選舉方

右付礼之通七月廿五日紙面達

御奉行中

惣兵衛儀、願之通可被仰付哉。

選舉方

右同断

御奉行中

拾七貫目已上之寸志ニ而士席浪人格被仰付究ニ有之、清次儀寸志ニよって、町別当列被仰付置候ニ付、下地三貫目ハ差継、本行之寸志高ニ而、願之通可被仰付哉。

選舉方

右同断同日申渡

御奉行中

彦三儀、願之通可被成御免哉。

選舉方

右同断同日紙面達

御奉行中

貳百目已上之寸志、傘迄被成御免究ニ付、太郎兵衛已下喜平迄、其通可被成御免哉。

選舉方

右同断

御奉行中

善五郎儀、願之通可被成御免哉。

選舉方

右同斷

御奉行中

五百目已上之寸志^ニ而、小脇差・傘被成御免究^ニ有之、利平より已下、^④外右衛門迄四人寸志^ニよつて、傘・合羽^ハ被成御免置候付、下地之寸志式百目ハ差繼、願之通可被成御免哉。

選舉方

右同斷

御奉行中

外七・善左衛門儀、願之通可被成御免哉。

選舉方

右同斷

御奉行中

(寛政十二年)

一〇 郡浦三郎左衛門、小山改藏 他

(九一・九二の二)

御内意之寛

宇土郡浦手永御惣庄屋

郡浦三郎左衛門

同松山手永御惣庄屋

小山改藏

右^者去十二月十二日、宇土網津村砂糖御製法場焼夫之節、早速百五拾人完、両手永^ニ而三百人之夫方相応成御用^ニ被召仕候様差出申候。尤右兩人御製法場作事之砌より、臨時之儀有之節ハ、出夫之手当手附役人^江茂、急度申付置候由^ニ而、此節失火、早速夫方差出申候。畢

竟右兩人共、御用之御場所之儀^ニ付、大切^ニ相心得、兼^而手配等申付置候由^ニ、奇特成様子^ニ相聞申候。右出夫之者、平井丹左衛門より召仕ハ不被致候得共、右兩御惣庄屋^江者、御賞詞被仰付^并懸々会所役人・村庄屋・御百姓迄相応^ニ御称詞之旨、御惣庄屋より申渡等有之候様被成御達可被下候。左候得ハ外々御製法場所^ニより、御惣庄屋不氣受之處も御座候間、右兩人已下共^ニ御称詞被仰付候ハ、一統之響も宜相成、已来自然之節、急速^ニ馳付等仕、御製法場詰之面々^茂力強相働可申候間、重畳宜被成御達可被下候。則平井丹左衛門より罷出候面々、名附・書附被相達候条、相添御達申上候。此段宜被成御達可被下候。以上

正月

西沢文助

本紙之通相達申候^ニ付、網津村^ニ砂糖製法場詰御横目黒川庄助^江承合候处、達之通相達之儀無之段、相達申候。いづれも奇特之儀御座候間、追々之励^ニも相成可申候条、御間^江御聞届^ニ相成申候段、筋々被及御達被下度奉存候。名前相添申候。

御勘定頭

本行^并御勘定頭付紙之通^ニ付、御惣庄屋已下懸り之会所役人、其外別帳名附之分、何れ^茂御間^ニ承届之及達可申哉。右名附之内、宇土御家来嶋田新右衛門養子嶋田軍平と申者有之候处、宇土^ニて之段格相知不申候^ニ付、問合せ候处、平井丹左衛門紙面之通有之候得ハ、輕輩之忤と相見候間、是又御間^ニ承届之段及達可申哉。

右付札之通郡浦ハ十二月十一日

選舉方

及達。松山^并河内村兵右衛門

御奉行中

赤見村清右衛門ハ西五月七日及達。

覚

当月十二日網津村砂糖製法所焼失之節、早速^ニ駈附之面々、左之通。

網津村庄屋

御門弟

助十郎

同

弥五兵衛

頭百姓

伝右衛門

村横目

御門弟

仁三次

右之外網津村中惣人畜^{ニ而}罷出、たけく^ニ相働、製法場近所之網津内わり井川と申所よりも、女も駈附申候へ共、格別出精仕候面々、左之通。

同村 宇左衛門

同村 太次右衛門

同村 長七

同村 新七

右四人者 抜群相働候事。

同村 喜三右衛門

同村 伊左衛門

同村 甚七

同村 伝右衛門

同村 幾右衛門

同村 吟右衛門

同村 徳兵衛

同村 安兵衛

同村 安平

網引村より^茂余計之人數駈付候へ共、格別相働候者とも左之通。

郡浦手永 網引村 尉助

同 同村 林右衛門

同 同村 善七

同 同村 恵兵衛

同 同村 助右衛門

同 同村 忠八

同 同村 安兵衛

同 御門弟同村和七 母

同 御門弟同村良平 母

同 同村善助 女房

右之外^ニも女働候もの七八人有之候へ共、慥^ニ見届不申候。右之女共溜余計^ニ出申候。

郡浦手永 同村 利七

同 網引村庄屋

右須平儀、翌十三日ニも為夫使罷越申候事
須平

笠岩村庄屋
新藏

同村小頭
清七

同村
武兵衛

同村
松兵衛

同村
利三次

同十二日之晩

松山御惣庄屋
小山改藏

郡浦右同
郡浦三郎左衛門

右兩人より小頭兩人差越、相応之御用も有之候ハ、無遠慮申越候様申遣候間、謝礼申遣置候事。

翌十三日

右両御惣庄屋より灰寄・焼材木等取囲之ため、小頭兩人差越、余計之人夫差添、昼比より差立申候人夫ハ、網引・網津之者ともニ而御座候。人別ニ荒縄一かた完持参仕候ニ付、改候処ニ兩村ニ而百かた有之候間、百人之人數と相考申候。縄ハ、番小屋其外かこい物ニ相成申候。尤右之縄之内、十二日ニも式拾かた程参候間、番小屋ハ十二日ニ取繕申候事。

翌十四日ニも人夫差出可申段、惣御惣庄屋より申付候由、小頭共より申聞候へとも、在中間敷時分柄ニ而有之候間、私より断ニ及申候。

同日野田四郎太夫早朝ニ罷越、厚キ世話仕候上、

下から竹 式拾五把 藁式拾五把

右網津村分

下から竹 式拾五わ 藁拾五拟

右網引村分

中から竹 八束

右笹原村分

右之通四郎太夫才覚を以、十四日迄ニ差越申候。尤在中間敷時分故私より笹原江者、半高程ハ取ニ遣候。右之外四郎太夫、格別之世話ニ而、十三日・十四日ニ手早ク出来致し候。尤仮屋普請之儀も、御門弟中甚はたらき申候間、存外ニ出来方早ク御座候。日雇も御門弟之内を雇申候而、格別出精仕候事。

同日網津村より加勢人、左之通。

伝右衛門儀ハ前後三日加勢仕候事。

惣次郎

伝右衛門

宇左衛門

和七

三左衛門

久左衛門

安兵衛

吉左衛門

恵助

宇右衛門

利助

儀七

金右衛門

平左衛門

松右衛門

右網津村分

嶋田新右衛門家来 彦人
喜左衛門儀ハ二日加勢仕候。 大工 喜左衛門

郡浦手永

右網引村分

御門弟中何^茂烈敷勸申候内、拔群相働候面々ハ書分申候。

宇土御家来嶋田新右衛門養子

嶋田軍平

野田四郎太夫嫡子

野田林太郎

付札

右林太郎儀十二日焼失之段承、早速駈付、今以相詰、無怠相働

申候事。

十二月廿四日

網津村山ノ口

伊平次

同庄屋嫡子

弥十郎

郡浦手永網引村

良平

同 神原村

忠七

同 同村

新右衛門

兵右衛門儀ハ五町手永

河内村 兵右衛門

船津村之者^ニ而候事。

右六人ハ別段ニ相働申候。

網津村庄屋

助十郎

同村

藤左衛門

同

祐助

同

祐右衛門

同 須平次

同村横目 仁三次

郡浦手永網引村 宇左衛門

同 兵助

同 同 善左衛門

同 同 和七

同 神原村 吉平

同 同 弥右衛門

同 石橋村 安兵衛

清右衛門儀ハ杉嶋手永赤見村^ニ而候事。

廻江手永赤見村 清右衛門

郡浦手永定日雇長崎村 和七

同 右同 市左衛門

右之者共いづれも優劣無之相働申候。着いたし居候衣類を水ニ踏込、頭かつき、溜かけ所^江飛入、上より焼落候も構不申候而、溜ハ不残出し申候得共、藁^{わら}の上、風烈敷急ニ焼落申候間、三ヶ二ハ灰交ニ相成、且焼こかし、途中^ニ溜われ捨り申候得共、右之通働不申候而ハ、中々急ニ焼申候間、少も残り申間敷と存候。御門弟中迄^ニ而無之、前条之者共働^ニ而右之通三ヶ一も御用ニ立申候。蜜瓶ハ溜を蓋ニ致し、土^ニ而塗候へとも、よほと水入申候。御門弟伊平次燃候中江馳込、拔群ニ相働候處、梁焼落シ、額の横ニ当候へ共、不構働申候ニ付、火鎮り候時分、暫^者絶入候程ニ有之、氣遣仕候へとも、無程氣分能相成申候。良平と申者溜かけ所^ニ、水をしかけ候處、積候もの無之、着いたし居候袷をぬき、水をせかけ申候。四ッ過之事^ニ而、少々焼疵を被り候者有之候へとも、障^ニ相成候程之怪我ハ無之候。

右之段御尋^ニ付、荒増書附入御覽申候。

十二月廿一日

平井丹左衛門

西沢文助様

覚

去十二月十二日網津村砂糖御製法所焼失之節、右近村之者共駈付消方、跡片付方等、出精仕候次第、平井丹左衛門殿より委細御達^ニ相成候書附御渡被成、右之通名前共相違無御座哉、吟味仕様子可申上旨被仰付趣、奉得其意吟味仕候處、名前共外繩・藁・竹等差出候儀、相違無御座段申出候。此段覚書を以申上候。已上

申

十一月

小山改藏

河井藤兵衛殿

覚

下長崎村	市左衛門
同	和七
神原村	吉平
同	弥右衛門
同	忠七
同	新右衛門
石橋村	安兵衛
網引村	尉助
網引村人数之内尉助・林右衛門・善七・恵兵衛・助右衛門	同
同	林右衛門
・忠八・安兵衛、此七人ハ格	同
同	善七
別相働候段、平井丹左衛門殿	同
同	恵兵衛

より村方へ御申通御座候由。

同 助右衛門

同 忠八

同 安兵衛

同 母

同 母

同 女房

同 利七

同 次平

同 喜左衛門

同 良平

同 宇左衛門

同 兵助

同 善左衛門

同 和七

一 下辛竹貳拾五束

網引村

但御山内より剪出申候

一 藁拾五枚 但村方より割符を以

同村

差出申候

右者 去未十二月網津村砂糖御製法場焼失之節、近村々より駈付、出精仕候者名前等、平井丹左衛門殿よりしらへ帳を以、西沢文助方江被差出候由、右之帳面小物成方より被指越達之名前等相違有無之儀、手永限村々承合、名付を取差出可申旨被仰付、奉得其意候、私手永内右近村々承繕申候處、網引・石橋・神原・下長崎、右四ヶ村より罷出、相働申候者共、名前并諸品差出候分、先達而相しらべ村々より之書付を取相添、御達申上候處、平井丹左衛門殿より御達之帳面ニ

引合不_二申由_一而、今一応しらへ直し、御達可申上旨被仰付、奉得其意、早速村々呼出、再しらへ仕候処、石橋・神原・下長崎此三ヶ村之儀_者、以前御達申上候通、相達_茂無御座候_二付、以前之書付_二付紙仕せ、御達申上候。網引村之儀_者、しらべ違之稜_茂有之候_二付、此節調直せ御達申上候。其節相働申候様子_者、平井丹左衛門殿より御達前之通_二御座候。尤郡浦手永分之儀_者、平井丹左衛門殿より御達方_二相成候帳面_二も付紙仕置申候。則村々書付四通相添指上申候間、宜敷様被成御達可被下候得_者添書を以申上候。以上

寛政十二年十二月

郡浦三郎左衛門^⑨

河井藤兵衛殿

一一 江口儀兵衛

(九一九二の二)

御内意之覚

苗字・刀御免_二而、御郡代直触

江口儀兵衛

右_者字土町人馬所横目役申付度奉存候間、乍恐在勤中一領一正格_二被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段可然様被成御参談可被下候。以上

十一月

御郡方

御奉行衆中

儀兵衛儀、願之通可被仰付哉。

選挙方

河井藤兵衛

右付札之通十二月十九日及達

御奉行中

一二 平右衛門 他

(九一九二の二)

口上之覚

大田尾村庄屋

平右衛門

右_者天明四年四月親跡庄屋役申付、当年迄十七年相勤申候。寛政四年津浪_二而村方過半打崩、家居人畜とも流失仕、田畑之儀_茂底土より打流、大小石打上、余計之荒地等_二而相成候之処、種々心を用出精仕候_二付、同五年被賞、鳥目老貫文被為拝領、其後村方極々及難波候処、兼々心懸宜敷村方申談一和仕、何れ_茂氣請能荒地開明、御年貢諸出米錢諸公役とも_二速_二相納手全_二出精仕候。

石橋村庄屋

新右衛門

右_者寛政六年三月庄屋申付、当年まで七ヶ年相勤申候。惣跡手全成者_二而役方心懸能、村方一和仕、諸出米錢・諸公役共速_二相納、出精相勤申候。

長崎村庄屋

伝十

右_者寛政八年四月親跡庄屋役申付、当年迄五ヶ年相勤申候。親孫平と申もの五十ヶ年余之勤功_二付、被賞御郡代直触被仰付置、勤死仕候者_二而、伝十儀_茂惣体手全成者_二而役方心懸能、村方一和仕、諸出米錢・諸公役とも速_二相勤精勤仕候。

右三人之者共何れ_茂勤之年数ハ無御座候得とも出精相勤申候、然処

先達而、郡浦手永御用綴藏御緒入目録、同所会所并帳藏門扉等建方之節、為冥加いづれ鳥目三百目完寸志指出申度旨、願出申候間、其段御達仕候處、願之通被召上、直右入目録御惣庄屋被為拜領候間、御影を以夫々作事出来仕候。尤右新右衛門・伝十儀ハ追而猶又鳥目式百目完寸志差出、何そ之御用之節、被召仕被下候様願出申候間、聊之儀ニ付直御惣庄屋手前預置、追而御用之節召仕候様及達置申候、銘々内望之筋等無之段者、委細承札置申候得共、何奇特之儀ニ御座候間、乍恐被賞麻上下・傘等御免被仰付被下候様。

郡浦会所詰

万七

右安永五年会所役申付、当年迄廿五ヶ年出精相勤申候。寛政四年津波之節諸御用出精仕候ニ付、同五年被賞、鳥目壹貫文被為拜領候。惣体手全成者而、役方心懸能、諸事無手拔取計、数年出精仕候、且亦前条同様而、鳥目貳百目寸志差出申候間、乍恐被賞、麻上下・小脇差御免被仰付被下候様。

右同

米助

右天明六年会所役申付、当年迄十五年相勤申候。寛政四年津浪ニ付所々御普請所等出精相勤申候付、同五年被賞、鳥目壹貫文被為拜領候。惣役方心懸能、出銀方受込を申付置候處、請弘等手堅仕、其外御用筋無間抜取計出精相勤申候。

右同

寿助

右天明六年会所役申付、当年迄十五年相勤申候。寛政元年より同三年三月迄、御用薪為剪出方御郡横目詰方有之、右ニ付而始末出精相勤

候ニ付、鳥目壹貫四百文被為拜領、同四年津浪之節前条同様而鳥目壹貫文被為拜領候。惣役方心掛能、所々御高札場并御番所等、御作事方受込を申付置候處、諸事心を用、精勤仕候。

右同

尉助

右天明六年より会所役申付、当年迄十五ヶ年相勤申候。寛政四年津浪之節、前条同様而、鳥目壹貫文被為拜領候。同八年洪水ニ而両新開村潮塘破損仕候節、始末出精相勤候ニ付、同十年御間江御聞届ニ相成候旨、被及御達候。惣役方心掛能、諸御用筋無間抜出精仕候。

右同所根拟

小頭

嘉平

右天明八年会所役申付、当年迄十三ヶ年相勤申候。寛政四年津浪之節、前条同様而、鳥目壹貫文被為拜領、同八年洪水ニ付而尉助同様、被仰付候。惣体手全成ものニ而、御用筋心掛能、宇土町人馬所其外往還筋等之御用受込を申付置候處、諸事無間抜、精勤仕候。

右同所小頭

寿三

右寛政三年会所役申付、当年迄十ヶ年相勤申候。寛政八年洪水之節、前条同様被仰付候。惣体御用筋心懸能相勤申候、

右五人之ものとも未勤之年数無御座候得とも、何れ役方出精仕候。

然処前条同様而、鳥目貳百目完寸志差出申候間、乍恐被賞傘・菅笠

・合羽等御免被仰付被下候様。

下網田村 仙助

栗崎村 恵七

波多村 甚兵衛
大田尾村 才八
網引村 小左衛門
右五人之ものと前条同様ニ而、鳥目五百目完寸志差出申候間、乍恐被賞、礼服・小脇差御免被仰付被下候様、

網田村 彦右衛門
下網田村 次左衛門
郡浦村 四郎助
同村 惣平
里浦村 儀兵衛
同村 新左衛門
同村 吟左衛門
新開村 又吉
同村 要助
飯塚村 寿右衛門
中村 庄七
長崎村 伊平次
下長崎村 善九
下長崎村 恵七
網引村 嘉平
同村 栄作
同村 久右衛門
同村 宇左衛門
同村 林右衛門
同村 四右衛門

波多村 惣四郎
同村 九左衛門
同村 弥兵衛
石橋村 安兵衛
手場村 次郎右衛門
大田尾村 伝次
戸口浦村 立平
戸馳村 百助
三角浦村 孫三
右貳拾九人之ものと、前条同様ニ而、鳥目三百目完寸志差出申候間、乍恐被賞、傘・菅笠・合羽等御免被仰付被下候様。

右之通乍恐夫々被賞被下候様、於私奉願候。郡浦手永村々之儀、去冬以来者別難波之折柄ニ而御座候処、何れ茂寄特之儀ニ而手永出銀ニ茂相成不申、下方一稜之為合ニ相成申候間、重畳可然様被成御参談可被下候。以上。

九月

河井藤兵衛

御郡方

御奉行衆中

平右衛門列三人達之通可被仰付哉

右付札之通十二月十九日及達

選舉方

御奉行中

万七儀達之通可被仰付哉、

選舉方

御奉行中

右同断

米助已下五人勤之年数少、各別之儀も相見不申候、
付、寸志旁を以傘・菅笠可被成御免哉

選舉方

御奉行中

右同断

仙助列五人五百目完之寸志、究之通傘・小脇差可被成
御免哉、

選舉方

御奉行中

右同断

彦右衛門列二十九人傘迄可被成御免哉

選舉方

御奉行中

右同断

(享和二年)

一三 小田宇七、小田藤右衛門

(九一九一二の二)

口上覚

私儀宝曆十三年九月、宇土郡松山手永御惣庄屋御取立役共被仰付、明
和九年正月、八代郡高田手永江所替被仰付被召仕、難有仕合奉存候、
然処病身罷成、御役儀難相勤御座候間、恐多奉存候得共、御役儀御免
被仰付被下候様奉願候、此段可然様被成御達可被下候、為其口上覚書

を以申上候、以上、

享和元年十一月

小田宇七

杉谷伊兵衛殿

松村英記殿

宇七儀願之通、役儀可被成御免哉、数十年抜群出精仕候、
独礼其佩、桜御紋御拾羽織被下置度由、別紙御郡代願之
通御座候、宇七儀宝曆十三年親跡松山手永御惣庄屋被仰付候、
以来四十年相成、心懸厚精勤仕候由、付、例有之旁独礼持
懸、御郡代支配可被召加置哉、拝領品柄之儀吟味仕候
处、重御賞美、作紋時服羽織被下、或各別之趣、桜御
紋之御上下被下候得共、桜御紋御羽織ハ見合無之、尤同御
紋御時服、先年大賀仙助儀、非常之洪水跡破損所御普請等急
場之儀有之候处、夫々手賦各別宜取計、且其以前高浪、
錢塘海辺開地之潮塘破損所築方并同所、新地少く出来候、
塘手等至、骨を折出精仕候付、別段を以桜御紋御帷子一被下
置候、御羽織之儀見合無之候間仙助見合を以、桜御紋附御
小袖一可被下置哉、

本文之通、御座候处、仙助儀両度之天災路急場取計、各別
相働候故、重御品柄被下置たる可有御座候得共、先
者臨時其事之始末を精勤仕候迄之儀歟と奉存候、宇七儀ハ
数十年之功勞外々同役、先ハ比類少キ程之者と相聞候
間、別段を以桜御紋御拾羽織被下置候ハ如何程可有御座
哉、

一宇七俵一領一疋被召出被下候様と、別紙之通御郡代より願出
有之候、先年南関御惣庄屋津留次郎左衛門俵一領一疋被召出

候節之様子、別紙書拔之通^ニ而外^ニ見合無之事^ニ御座候へ共、宇
七儀数十年各別精勤、御用^ニ相立候者之儀^ニ候間、忤藤右衛門
儀此節一領一疋^ニ可被召出哉、藤右衛門人柄之様子承合、別紙
田上文八書付相添申候、
右付礼之通二月十日紙面達

選舉方

御奉行中

一津留次郎左衛門忤一領一疋^ニ被召出候節之様子、書拔へ天明七
年八月達帳^ニ扣有之候^ニ付、此所扣略之、
覚

高田手永御惣庄屋

小田宇七

右宇七儀宝曆十三年九月、宇土郡松山手永御惣庄屋被仰付、安永元
年正月高田手永^江所替被仰付、当年迄都合三十九年相勤申候、追々
御賞美被仰付候筋、左之通、

一字七御奉公附へ八代郡先祖帳^ニ扣有之候付、此所扣略之、

右之通結構被仰付於私共^茂難有仕合奉存候、然処病身^ニ罷成難相勤、
別紙願書御達仕候通御座候、多年抜群精勤仕且高田塘去ル辰年非常
之洪水以後、石垣御普請之儀大造之儀^ニ御座候処、各別御出方等不
奉願、寸志等を以夫々願之通御普請被仰付、未全成就へ不仕候得共、
是又厚ク心を用取計候^ニ付、最早追々と惣出来^ニ相成申候間、願之
通御役御免被仰付候ハ、乍恐段式持懸^ニ而御郡代支配^ニ被仰付、桜
御紋御拾羽織一被為拜領被下候様有御座度、於私共奉願候、此段可
然様被成御參談可被下候、以上、

十二月

八代

御郡代

御郡方

御奉行衆中

覚

高田手永御惣庄屋

小田宇七忤

小田藤右衛門

当丙二十一歳

右藤右衛門儀惣体手全^ニ有之、武芸筆算等^茂心懸能往々御用^ニ相立
可申者と見及申候間、恐多奉存候得共、宇七儀奉願之通被成御免候
ハ、右之者老領一疋被召出被下候様有御座度、於私共奉願候、此
段可然様被成御參談可被下候、以上、

十二月

八代

御郡代

御郡方

御奉行衆中

覚

高田手永御惣庄屋

小田宇七忤

小田藤右衛門

二十一歳

右藤右衛門儀手全成者之由相聞申候得共、事馴不申由^ニ而^ニ不調法有
之、御惣庄屋之儀^者大役^ニ而相勤^リ可申見込無御座候得とも、相応之
在御役^ニも被召仕候ハ、相勤可申と見聞仕候、同役共申談候処いつ
れ^茂右之通見聞仕候、人物之様子御達可申上旨^ニ付、書付差上申候、
以上

戊
二月

田上文八

一四 陣内綱次

(九一九一の二)

口上之覚

宇土郡一領一疋^ニ而^ニ当九月病死仕候

陣内喜平次倅

陣内綱次

当四十二歳

右喜平次儀、宝曆十年十二月親跡一領一疋^ニ被召出、当年迄四十二年御郡並之御奉公、無懈怠相勤居申候処、当九月病死仕候。倅綱次儀、人物手全^ニ有之、武芸心懸能、筆算も可也^ニ仕、往々御用^ニ相立可申者と見聞仕候間、乍恐親跡一領一疋^ニ被召出被下候様有御座度、於私奉願候。右之者先祖之儀^者、先年一統御達仕置候通御座候。此段可然様被成御参談可被下候。以上

十二月

河井藤兵衛

御郡方

御奉行衆中

喜平次儀、数代一領一疋^ニ付、倅綱次儀、親跡一領一疋可被召出哉。

選舉方

御奉行中

右付札之通、三月四日紙面達

一五 小山改藏、井上甚平

(九一九一の二)

御内意之覚

松山手永御惣庄屋

小山改藏

当戊四十七歳

右^者安永七年七月養父小山勘助病中等之節、代役御免被仰付、天明元年十二月親跡坂梨手永御惣庄屋御代官兼常被仰付候。寛政二年三月御巡見衆様御通行御用御宿々、御手入等出精相勤、且通人馬上見^茂拟を^茂相勤候^ニ付、金子貳百疋被為拜領候。同三年大津御惣庄屋へ所替被仰付候。同四年六月大津手永村々、去ル亥夏洪水已後塘手損所御普請、且夫仕等委ク心を用、其外荒地開明^ニ付^而も出精相勤候旨^ニ而、金子貳百疋被為拜領候。同七年去ル子ノ年洪水^ニ付^而、塘手御普請厚ク心を用、且荒地開明をも出精相勤候旨^ニ而、作紋麻御上下一具被為拜領候。同八年二月御上金被蒙仰候節、手永々々より寸志之米銭指出候一件、初発委ク申談、取計筋出精仕候旨^ニ而、作紋御小袖一ツ被為拜領候。同年七月役方数年心懸能、出精相勤候旨^ニ而、自分苗字御免被仰付、同九年八月去ル辰夏洪水^ニ付^而、急場之取計筋、諸事無間被相勤、其後所々御普請御用等、始末出精仕候旨^ニ而、作紋御帷子一ツ被為拜領候。同十年五月御才覚銀一件取計、心遣仕候旨^ニ而、作紋御帷子一ツ被為拜領候。同十一年三月松山手永御惣庄屋^江所替被仰付、当年迄御役二十三年、代役共都合二十五年、出精相勤申候。惣体改藏儀、手全成者^ニ而、御役方心懸能、諸事吞込宜敷、御用筋速^ニ取計申候。松山手永村々之儀^者、早越所多ク御座候^ニ付^而者、養水第一^ニ無之候^而者、相成不申候処、右水掛之仕法等色々、村役人共^江も厚申談、去々春夏、新井手、新堤等追々^ニ堀方仕

候付、水懸も宜相成り、往々とハ御所務^茂相増、自然と御難題筋も薄相成可申と奉存候。且又篠原村之内、新開奉願候處、願之通開明被仰付候^ニ付、去春夏^ニ懸、開明相濟、右地割等も、夫々被仰付候通^ニ而、笹原村之義^者、至^ニ而^ニ畑方無多事旁零落之所柄^ニ而^ニ御座候處、一稜之為^ニ相成、漸々と^者零落立直可申と奉存候。右開明出夫等、近年不作打続、下方難決之折柄^ニ而^ニ御座候得共、格別御出方筋等も不奉願、村々^江委敷申談候間、氣受能出夫仕、速^ニ開明申候。右田塘手惣間數四百八拾四間余之内、各別波当強分、先百拾間石垣御普請積前^ニ而^ニ御座候處、諸事心を用、築方仕せ候間、式拾老間余積前より仕越^ニ相成、塘手も丈夫^ニ出来仕申候。右之通^ニ而^ニ万端心を用、相勤申候間、手永中も帰服仕候様子相聞申候。松山手永^江所替被仰付、未年數^者無御座候得共、坂梨已來數年出精相勤申候間、相応被賞被下候様有御座度奉存候。

宇土郡井樋方助役并御郡代手附

横目役在勤中一領一疋

井上甚平

当戊五十一歳

右甚平儀、明和七年松山会所詰申付、安永七年親跡三日村庄屋役申付、相勤居候處、天明元年五月宇土郡井樋方助役申付候節、在勤中一領壹疋格被仰付、飽田・詫摩・上下益城・宇土灰石井樋御用之石場見役をも兼帶仕居候處、寛政八年依願、右石場見役之義^者指免申候。同七年井樋方助役持懸^ニ而^ニ御郡代手附横目役当分申付、同十年二月手附横目役定役申付候節、在勤中一領一疋^ニ被召直候。同二年五月御巡見衆様御用出精相勤候段、御間^ニ御聞届^ニ相成候段、御達御座候。同五年三月津波一件^ニ付、御普請方出精相勤候旨^ニ而、

作紋麻御上下一具・金子貳百疋被為拜領候。同九年八月洪水後所々御普請諸事申談、出精仕候旨^ニ而^ニ金子貳百疋被為拜領候。同十年御才覚銀一件^ニ付^而、心遣仕候旨^ニ而^ニ金子二百疋被為拜領候。右之通^ニ而^ニ当年迄役方二十二年相勤、会所詰・村庄屋役共^ニ者、都合三十三年相勤申候。惣体手全成者^ニ而^ニ筆算も達者^ニ仕、才力も有之、諸事吞込能、各別出精仕候間、被賞、一領一疋本席被召直被下候様有御座度奉存候。

右之通兩人共數年精勤仕候間、乍恐夫々被賞被下候様有御座度、於私奉願候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

正月

河井藤兵衛

御郡方

御奉行衆中

改藏儀、本行之趣、去春被相達、御知行被増下度由、口達^茂有之候^ニ付及會議、御惣庄屋精勤之ものハ、二十六年已上^ニ而^ニ御知行被増下、抜群之者ハ、右之年數内^ニ而^ニ被増下候見合有之、改藏儀、松山手永^ニ所替以後、間近^ニ茂有之候付、先可被見合置哉と相達置申候處、此節再達有之、

三月廿一日伺、六月廿八日申渡

御知行被増下度由、猶又口達^茂有之候。甲佐手永御惣庄屋右田忠助儀、当役十三年目、天明五年七月御知行高拾石被増下、廻江手永御惣庄屋藤井常右衛門儀ハ、当役十九年目、天明八年三月右同断被増下、中富手永御惣庄屋新野尾伊平儀ハ当役十六年目、寛政六年十二月右同断被増下候見合も有之、改藏儀、坂梨手永御惣庄屋以來二十二年之内、松山^ニ所替以後四年^ニ相成、右所替已後別^而心を用、新開・新堤・古堤浚方等

之儀取計、出錢割賦も以前之見合^ニハ、格別減方^ニ相成、村々

一統気受も宜由、御郡御目附御横目聞合之書付^ニ茂、相見申

候付、数年之出精旁、御知行高拾石可被増下哉。

右付札之通三月廿一日、

選舉方

江戸^江奉願候處、如何被

御奉行中

仰出候^ニ付、六月廿八日申渡、

甚平儀、願之通一領一疋本席可被仰付哉。

右付札之通三月廿五日紙面達

選舉方

御奉行中

一六 門田寿吉郎

(九一・一九二の二)

口上之覚

宇土御郡代直触^ニ而病死仕候

門田甚左衛門倅

門田寿吉郎

当戊二十五歳

右寿吉郎親門田甚左衛門儀、天明二年寸志指出候付被賞、無苗^ニ而、

御郡代直触^ニ被仰付、同八年猶又寸志指上申候^ニ付被賞、苗字・刀

被成御免、当年迄都合二十一年手全^ニ相勤居申候處、先達^ニ而病死仕

候。右倅寿吉郎儀、性質手全成者^ニ而、筆算等も心懸能、往々御用

ニも相立可申者と見及申候。其上前文之通親代追々寸志之訳^茂御座

候間、乍恐親同前苗字・刀被成御免、御郡代直触^ニ被召出被下候様

有御座度、於私奉願候。此段宜被成御參談可被下候。以上

十二月

仁田四郎作

御郡方

御奉行衆中

甚左衛門儀、寸志^ニ因^ニ而、苗字・刀御免、御郡代直触^ニ被仰付

置、二代目迄^者相統被仰付管^ニ付、寿吉郎儀、願之通苗字・刀御

免、御郡代直触可被仰付哉、

選舉方

右付札之通十二月廿四日

御奉行中

紙面達。

(享和三年)

一七 中熊新蔵

(九一・一九一三)

御内意之覚

宇土町独礼^ニ而病死仕候

中熊久右衛門倅

新蔵

当戊三十九歳

右新蔵父中熊久右衛門儀、数十年宇土町別当役相勤居候内、安永六

年松山手永村々難波^ニ付、為取救鳥目指出候處、同八年亥六月被賞、

無苗^ニ而、御郡代直触^ニ被仰付候

一 久右衛門儀、天明二年之冬、村々取救^ニ付^ニ而、鳥目差出、且追々之

借方、又^者實地を^茂捨遣^并宇土町橋懸直之節^茂寸志指出候^ニ付^ニ而、

旁被賞、同三年正月苗字・帶刀被成御免、宇土町独礼^ニ被仰付、作

紋御麻上下一具被為拜領候。

一 同人儀、御巡見様御本宿御繕_ニ付_而、寸志差出、且宇土町難波之者共取救_ニ付_而、米錢等指遣_并米救売を_茂仕候_ニ付_而、天明八年五月、年始門松建候儀被成御免候。

右之通父久右衛門儀、追々寸志指出、此外先年江戸御類焼以来、御手伝之節_并津波洪水且手永一統寸志等之節、身上相応_ニ指出、町中難波之節取救、又_者救売等_茂、追々仕候由_ニ御座候得共、死後_ニ至り、稜立候寸志高さへ相分不申候程之儀_ニ而、勿論聊完之寸志等_者分り兼、此節委細御達難仕御座候得共、承糺候処、取救候段ハ相違も無之由、其外一体慈心深ク有之由_ニ相聞申候。

右新藏儀、性質手全御座候付、先年宇土町別当役申付置、五ヶ年程相勤居申候内、病氣指発、役儀断願出申候間、願之通指免申候者_ニ而、平日心得方宜有之候由_ニ相聞、亡父久右衛門前条之通、寸志之_茂誤_茂御座候間、乍恐新藏儀、苗字・刀且門松建方共_ニ被成御免、諸事親同様宇土町独礼_ニ被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段宜敷被成御參談可被下候。以上

十一月

仁田四郎作

御郡方

御奉行衆中

新藏親中熊久右衛門儀、寸志_ニ因_而、苗字・刀御免、町独礼被仰付置、門松を_茂御免被成置候。新藏儀二代目_ニ付、願之通苗字・刀被成御免、町独礼被仰付、年始門松建候儀も可被成御免哉。

選舉方

右付札之通二月十八日申渡

御奉行中

二月十日伺、同十八日申渡

一八 安谷庄三郎・高浜林助・田辺源蔵 他

(九一一九一三)

御内意之覚

一 錢百八拾目 各別寸志

御惣庄屋直触

安谷庄三郎

但此節相応被賞被下候様有御座度奉存候。

右同

一同百目 右同

高浜林助

但右同断

郡浦会所手代

御惣庄屋直触

一同老實目 各別寸志

田辺源蔵

但源藏儀後方数年、心懸能致出精、米錢御払手全有之、手永中一統氣請能且辰ノ夏洪水之節、所々塘筋破損所、別_而者新開村潮留御普請之節、始末相働出精仕候_ニ付、寛政十年午六月無苗_ニ而御惣庄屋直触被仰付、猶又役方心懸厚、外_ニ役人共_江茂申談宣敷、各別出精仕、去年迄之拾四年手全_ニ相勤候付、去戌四月苗字被成御免候。然此節本行之錢高寸志差出申候間、乍恐被賞刀被成御免、御郡代直触被仰付被下候様有御座度奉存候。

御惣庄屋直触

下網田村

一同老實五百目 各別寸志

伊助

但伊助儀去辰夏洪水損所塘筋御普請之節、寸志指出候_ニ付、寛政九年_已九月被賞、無苗_ニ而御惣庄屋直触_ニ被仰付、此節右之通寸志指出申候_ニ付被賞、苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付被下候

様、有御座度奉存候。

御惣庄屋直触

波多村

一同百目 各別寸志

嘉八

但此節相応被賞被下候様、有御座度奉存候、

郡浦会所下代

御惣庄屋直触

一同五百目 右同

文次

但文次儀庄屋代勤以來数年、役方格別出精相勤、御用筋取計宜數候_ニ付、先年礼服被成御免、猶又去戌四月被賞、無苗_ニ而御惣庄屋

直触被仰付候。其後弥以役方入念精勤仕、当年迄四拾々年手全_ニ

相勤申候。然此節本行之錢高各別寸志指出申候。且又同手永中

村御百姓五人_ニ之者共、所持之高作田畑壹町七畝余、価四貫四百八

拾目_ニ而質地_ニ遣置候處、右之者共根元地方_ニ放候_ニ付而ハ、漸々

と及零落極々難決仕候様子、及見聞質代錢請取不申、地方并證文

共元地主共_江指返申候_ニ付、地主共一稜助_ニ相成、御百姓_ニ取付可

申と相見申候段、右村庄屋村横目共より小前帳を以相違申候_ニ

付、村方精々吟味仕候處、相違無御座右_者外々詮議と違、御百姓

根元之地方指返一稜取救_ニ相成、其上乍聊此節寸志を_茂指出候次

第、重疊寄特成者御座候間、乍恐被賞苗字・刀被成御免、御郡代

直触_ニ被仰付被下候様、有御座度奉存候。

松山手永高良村

庄屋 喜三右衛門

一同五百目 但今度預減方_ニ付寸志指上候分

外貳貫五百目 但去々酉暮村方新堤床地代等_ニ、寸志指出申度奉願

候處、願之通被召上直_ニ村方江被為拜領余錢ハ松山手永為御備、御惣庄屋預り_ニ被仰付置候分

合三貫目

但喜三右衛門儀惣体手全成者_ニ而、庄屋役之儀も当年迄、拾五々

年各別出精相勤、且去ル申ノ春難決之者共為取救、寸志錢貳百目

指出申候付被賞、傘御免被仰付置候者_ニ御座候處、猶又此節本行

之通寸志指出、旁寄特成者_ニ御座候間、乍恐彼是之儀被賞、此節

苗字・刀被成御免、御郡代直触_ニ被仰付被下候様、有御座度奉存

候。

郡浦手永網田村

一同貳貫目 各別寸志

弥右衛門

但弥右衛門儀去ル辰夏洪水損所塘筋御普請之節、寸志差出候_ニ

付、寛政九年己九月被賞吉凶礼之節、麻上下着用・小脇差・傘等

被成御免候此節、右之通寸志指出申候_ニ付、乍恐被賞苗字・刀被

成御免、御郡代直触被仰付被下候様、有御座度奉存候。

郡浦手永戸馳村

一同壹貫目 各別寸志

清七

但清七儀今度本行之通寸志錢差上申候間、乍恐被賞無苗_ニ而御惣

庄屋直触_ニ被仰付被下候様、有御座度奉存候。

松山手永永尾村

一同三百目 右同

嘉三

但此節被賞、小脇差・傘御免被仰付被下候様、有御座度奉存候。

郡浦手永里浦村

一同三百目 右同

幸助

但右同断

同手永綱引村

一同式百目 右同

小左衛門

但小左衛門儀郡浦手永御用綴藏御繕之節寸志指出候、寛政十二年^申十二月傘・小脇差被成御免候。此節右之通各別寸志指出申候間、乍恐被賞菅笠・合羽御免被仰付被下候様、有御座度奉存候。

宇土町別当

一同百八拾目 各別寸志

又右衛門

但此節相応ニ被賞被下候様、有御座度奉存候。

同町魚屋

一同百八拾目 右同

源藏

但右同断

同町古手屋

一同百八拾目 右同

喜兵衛

但右同断

同町糺屋

一同百八拾目 右同

茂作

但右同断

松山手永松合村津横目

村横目兼役

一同百五拾目 右同

徳兵衛

但此節被賞、傘御免被仰付被下候様、有御座度奉存候。

同村

一同百五拾目 右同

弥兵衛

但右同断

松山手永松合村

一同百五拾目 各別寸志

儀八

但此節被賞、傘御免被仰付被下候様、有御座度奉存候。

同村

一同百五拾目 右同

初次

但右同断

同村

一同百五拾目 右同

幾平

但右同断

同村

一同百五拾目 右同

惣次郎

但右同断

同村

一同百五拾目 右同

弥平

但右同断

同村

一同百五拾目 右同

丈助

但右同断

松山手永小曾部村

一同百五拾目 各別寸志

專右衛門

但此節被賞、傘御免被仰付被下候様、有御座度奉存候。

同村

一同百五拾目 右同

彦四郎

但右同断

同手永松山村

一同百五拾目 右同

善左衛門

但右同断

佐野村之相調差候处

本書之通調達候也

同手永古野村

嘉右衛門

一同百五拾目 右同

但右同断

郡浦手永波多村

甚兵衛

一同百五拾目 右同

但甚兵衛儀郡浦手永御田糶藏御繕之節寸志差出候付、寛政十二年申十二月傘・小脇差被成御免候。此節右之通各別寸志指出候付、乍恐被賞菅笠・両羽織御免被仰付被下候様、有御座度奉存候。

同村

惣四郎

一同百五拾目 右同

郡浦手永波多村

九左衛門

一同百五拾目 各別寸志

同村

弥兵衛

一同百五拾目 右同

同手永網引村

久右衛門

一同百五拾目 右同

同村

林右衛門

一同百五拾目 右同

同村

四右衛門

一同百五拾目 右同

同村

宇左衛門

一同百五拾目 右同

但右七人之者共、郡浦手永御田糶藏御繕之節寸志差出候付、寛政十二年申十二月傘被成御免候。此節右之通各別寸志指出申候間、乍恐何れ被賞小脇指・菅笠御免被仰付被下候様、有御座度奉存候。

同手永戸馳村

一同百五拾目 右同

惣右衛門

但此節被賞、傘御免被仰付被下候様、有御座度奉存候。

郡浦手永長崎村

一同百五拾目 各別寸志

武三

但此節被賞、傘御免被仰付被下候様、有御座度奉存候。

同村

伊七

一同百五拾目 右同

但右同断

同手永下長崎村

吟左衛門

一同百五拾目 右同

但右同断

同村

理八

一同百五拾目 右同

但右同断

同村

善左衛門

一同百五拾目 右同

但右同断

同手永里浦村

孫七

一同百五拾目 右同

但右同断

同手永網田村

一同百五拾目 右同

勇右衛門

但右同斷

同手永網引村

一同百五拾目 右同

喜三次

但右同斷

宇土町万屋

一同百三拾目 各別寸志

善七

但此節相応被賞被下候様、有御座度奉存候。

同町万屋

一同百目 右同

利七

但右同斷

同町茶屋

一同百目 右同

忠三郎

但右同斷

同町古手屋

一同百目 右同

伊八

但右同斷

郡浦手永網田村

一同百目 右同

彦右衛門

但彦右衛門儀郡浦手永御用親藏御繕之節寸志指出候^ニ付、寛政十二年申十二月傘被成御免候。此節右之通各別寸志差出申候間、乍恐被賞菅笠御免被仰付被下候様、有御座度奉存候。

松山手永松合村

一同五拾目 右同

吉兵衛

但此節相応被賞被下候様、有御座度奉存候。

同手永高良村

一同五拾目 右同

善左衛門

但右同斷

松山手永高良村

一同五拾目 各別寸志

宇右衛門

但此節相応被賞被下候様、有御座度奉存候。

同手永馬瀬村

一同五拾目 右同

喜助

但右同斷

右之通去冬寸志指上申度段、願出申候^ニ付其段御達仕候處、願之通被召上旨^ニ付、及其達申候處去暮一同皆済上納仕候。此節之儀乍聊完何れ^茂寄特成様子^ニ相聞申候間、乍恐右之通夫々被賞被下候様、有御座度、於私奉願候。此段宣敷被成御參談可被下候。以上、

閏正月

仁田四郎作

御郡方

御奉行衆中

庄三郎・林助儀御間ニ承届之段及達可申哉。

右付札之通五月朔日紙面達

選舉方

御奉行中

源藏儀寸志高見合ニ当り候^ニ付、願之通刀被成御免、御郡代直触可被仰付哉。

右同斷

選舉方

御奉行中

伊助儀願之通、苗字・刀被成御免御郡代直触可

被仰付哉。

右同断

選舉方

御奉行中

嘉八儀御間ニ承届候断、及達可申哉。

右同断

選舉方

御奉行中

貸方捨遣候分ハ多少ニ依、御間承届之可及達旨、尤御救立ニ極り候。村方江捨遣候分者御賞服輕輩段格被召置候儀、又ハ御扶持方被下置候儀、而極り之寸志高一倍ニ被賞、併新古之差別_茂可有之候間、臨時之可加評議旨相極り居申候、本行文次儀貸方捨遣候儀ハ相對之儀ニ付、御間承届之可及達哉ニ御座候處、御郡御目附付御横目より_茂零落之百姓根元之地方ニ放し候付_而ハ至_而及難波候様子、文次御手付其身下代役相勤、御年貢御取立方を_茂取計候役前ニ付、親見捨質地代錢捨遣、地方證文共ニ御返遣候ニ付_而一廉救ニ相成候由相達候付、御救立ニ極り候。

右同断

選舉方

御奉行中

弥右衛門儀礼服・小脇差等御免之者ニ_而、寸志高見合ニ当り候付、願之通御郡代直触可被仰付哉。

右同断

選舉方

御奉行中

清七儀願之通無苗ニ_而、御惣庄屋直触可被仰付哉。

右同断

選舉方

御奉行中

割分壹貫七百九拾目余リ之見渡ニ_而、可被賞哉。左候ハ、今度本行之寸志五百目共ニ都合貳貫九拾目余之高ニ相成、無苗御惣庄屋直触よりハ貳貫五百目以上之寸志ニ_而、苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付儀ニ付、願之通一つ被仰付哉。

右同断

選舉方

御奉行中

嘉三・幸助儀願之通、小脇差・傘可被成御免哉。

如何程可有之哉。

右同断

選舉方

御奉行中

平常之寸志ニ_而ハ四貫目ニ_而御郡代直触被仰付究ニ有之、本行二稜ニ_而三貫目之内預減方付_而之寸志者五百目ニ_而少ク有之候ニ付、平常之寸志高ニ_而可被賞哉。喜三右衛門儀傘御免之者ニ付、貳百目差繼ニいたし候_而茂八百目及不足候得共、役方數年精勤之者之由、格別寸志_茂五百目有之候ニ付、旁を以願之通可被仰付哉。

右同断

小左衛門儀願之通、菅笠・合羽可被成御免哉。

選舉方

御奉行中

又右衛門以下茂作迄四人、御間承届之段及達可申哉。

右同断

選舉方

御奉行中

徳兵衛より嘉右衛門迄拾貳人、願之通傘可被成御免哉。

右同断

選舉方

御奉行中

甚兵衛儀願之通可被成御免哉。

右同断

選舉方

御奉行中

惣四郎より宇左衛門迄七人、願之通小脇差・傘可被成御免哉。

選舉方

御奉行中

惣右衛門より喜三次迄九人、願之通傘可被成御免哉。

右同断

選舉方

御奉行中

善七より伊八迄四人、御間承届之段、彦右衛門儀願之通菅笠可被仰付哉。

右同断

選舉方

右同断

吉兵衛より喜助迄四人、御間承届之段及達可申哉。

選舉方

御奉行中

一九 宇土郡六三ヶ村

(九十一九十三)

御内意之覺

一 錢貳貫五百三拾五匁

但松山手永村町之者共より、聊完候度、各別寸志指出申候分

内

五拾目

大口村

八拾目

大見村

五百拾貳匁五分

松合村

四拾七匁五分

永尾村

百三拾五匁

高良村

四拾五匁

御領村

貳拾目

柏原村

九拾目

小曾部村

三拾五匁

伊無田村

五拾貳匁五分

下松山村

八拾五匁

松山村

八拾目

境目村

五拾七匁五分

善道寺村

四拾目

中村

百七匁五分

古保里村

拾五匁

前越村

六拾目

立岡村

五拾五匁

戸馳村

三拾貳匁五分

三日村

五拾貳匁五分

波多村

四拾五匁

佐野村

拾五匁

三角浦村

三拾五匁

上古閑村

貳拾目

大田尾村

四拾貳匁五分

曾畑村

拾五匁

赤瀬村

拾匁

布古閑村

百目

網田村

拾匁

岩隈村

百目

下網田村

貳拾目

江部村

拾五匁

長浜村

拾七匁五分

松原村

拾五匁

網引村

貳拾目

馬瀬村

拾五匁

城塚村

拾五匁

築籠村

拾匁

下新開村

貳拾目

城神山村

拾匁

新開村

貳拾目

馬場村

拾五匁

伊津野村

七拾目

篠原村

七匁五分

鶴見塚村

百貳拾五匁

網津村

七匁五分

下恵里村

百貳匁五分

笠岩村

拾匁

恵里村

四百九拾貳匁五分

宇土町

七匁五分

飯塚村

一、錢八百八拾目

貳拾目

椿原村

但郡浦手永村々之者共より、聊完候度、各別寸志指出申候分

内

貳拾目

手場村

拾匁

宮庄村

三拾目

里浦村

拾匁

石橋村

五拾目

郡浦村

拾七匁五分

神山村

五拾七匁五分

栗崎村

六拾三匁五分

浦上村

三拾目

長崎村

三拾五匁

下長崎村

右^者今度預御漬方^ニ付、松山・郡浦両手永村町より右之通、各別寸志指出、去暮夫々上納相濟申候。此節之儀、聊^者寄特之至^ニ奉存候間、乍恐相応^ニ御褒詞被仰付被下候様、於私奉願候。尤村々小前帳^者私手前^ニ取置申候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

五月

仁田四郎作

御郡方

御奉行衆中

本行之趣、御間^ニ承届候段、及達可申哉

選舉方

右付札之通五月十九日紙面達

御奉行中

二〇 吉田清蔵

(九一九一三)

覚

宇土町居住、士席浪人格

吉田清蔵

今度町家株立候者^江七人扶持完被下置、御勘定所御用達被仰付候處、右清蔵儀、身上宜働^茂有之者之由、於宇土^茂考人御用達被仰付置候ハ、御用之弁利^茂宜可有之哉^ニ付、清蔵^江相応^ニ御扶持方被下置、御勘定所御用承候様被仰付置度奉存候。宜被成御參談可被下候。以上

五月

御勘定頭

清蔵儀、七人扶持被下置、御勘定所御用承候様可被仰付哉。其通被仰付儀^ニ御座候ハ、申渡、追^而可奉達尊聴哉。

選舉方

右付札之通五月十九日申渡

御奉行中

七月廿五日奉達尊聴

二一 政右衛門

(九一九一三)

口上之覚

錢塘手永走瀧村庄屋

政右衛門

右者御献上之かせいた出来、御用相成候^{おつぽう}榎梓木、右政右衛門植立置、年々菓子屋共宅^江払込申候。然処先年之津波之節榎梓木悉流失仕候。其後^者年々菓子屋共より奉願、大坂榎梓御買下^ニ相成申候^而、かせいた出来仕候。遠路之所より船廻^ニ被指越候得^者、船中隙取候節^者、余計之腐^ニ而、十之物三步通り^者御用立不申、捨り^ニ相成申候。直段^茂高直^ニ而御座候得^者、年々不怪御費成事^ニ御座候。其上御菓子、他国之産物^ニ而出来仕候儀、不都合御座候。右之通^ニ付、菓子屋共^江追々申聞候^而、菓子屋共よりも、右政右衛門^江申談、追々榎梓木差木仕せ、外々木主共^江政右衛門より申談候^而、差木仕せ、成実^茂余計^ニ近年^者成付申候。当年^者大坂より榎梓御買下^ニ不相成候^而、御積高出来仕候^而茂、余計御座候間、来年御積高之内^茂先達^而奉願候通、かせいた出来仕候畢竟右政右衛門心懸厚世話仕候處より、右之通御座候。依之奉願候儀、恐多奉存候得共、右政右衛門^江相応^ニ御賞美被下置候ハ、難有奉存、後年弥八出精仕、往々御用御指支無御座様可仕と奉存候、此段於私共

奉願候。宜被成御達可被下候。以上

十月

平井弥三

木村助三

石浦藤左衛門殿

本行之通相達候間、鳥目五百文程可被下置哉。

選舉方

右付札之通十一月十八日紙面達 御奉行中

(文化元年)

二三 井上源三郎

(九一九一四)

御内意之覺

宇土町居住^{ニ而}地士

井上源三郎

右源三郎儀、錢三貫五百目為冥加寸志指上申度段、急達^而願出候付、如願被召上、右之内九百四匁^者、松山会所御困艱藏為取繕料被渡下、殘貳貫五百九拾目余^者、右会所内追々取繕之節々、為備、御惣庄屋へ被預置被下候様奉願候處、夫々願之通被仰付候。右之通^{ニ而}追々手永出銀之被相減候儀^{ニ而}、一稜之ために相成申候。源三郎儀寄特之儀^ニ御座候間、乍恐被賞、町独礼^ニ被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

十月

後藤喜太夫

御郡方

御奉行衆中

源三郎儀、寸志高見合^ニ當り候付、願之通町独礼可被 仰付哉。右付札之通、十一月廿五日之御便、江戸^江奉覽候處、如何被仰出候付、二月十五日申渡。

二三 永井藤十郎

(九一九一四)

御内意之覺

松山手永居住、苗字・刀御免

御郡代直触

永井藤十郎

御手伝^ニ付寸志

一 錢貳拾五匁

御才覺御返済殘寸志

一 同四百拾匁

一 同壹貫六百八拾目

但郡浦手永中村之者^江借置候分、元利^{ニ而}、本行之通、此節捨方仕候分

合 貳貫百拾五匁

右之通、寸志指出、且借置候分捨方仕、寄特之儀^ニ御座候間、旁被賞、地士へ被仰付被下候様有御座候度、乍恐於私共奉願候。右捨方之儀^{ニ付而者}、御惣庄屋より相達候書付宅冊相添、御達仕候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

三月

築山与右衛門

後藤喜太夫

御郡方

御奉行衆中

本行二稜之寸志高^ニ而考、格別被賞様無之、貸方・捨方分^者、御間^ニ承届^ニ及達、見合^ニ付、何れも御間^ニ承届之段及達可申哉。願之通^ニ者、難及僉儀可有之哉。

選舉方

御奉行中

右付札之通、八月二日紙面達。

二四 中熊新蔵 他

(九一—一九一四)

御内意之覚

宇土町独礼

御手伝^ニ付寸志

一 錢壹貫八百目

御才覚御返済残寸志

一 同八貫貳百八匁

合 拾貫八匁

但本行之通差出候^ニ付被賞、式人扶持被為拝領被下候様。

宇土町独礼

御手伝^ニ付寸志

一 錢貳百五拾目

御才覚御返済残寸志

一、同拾四貫七百六拾目

合 拾五貫拾匁

但本行之通差出候^ニ付被賞、三人扶持被為拝領被下候様。

同町居住、御郡医師並

御銀所預御減方^ニ付寸志

松田三淳

一、同拾三貫五百目

但本行之通指出候^ニ付被賞、三人扶持被為拝領被下候様。

宇土郡一領一疋

草野安右衛門

御手伝^ニ付寸志

一 同貳百目

御才覚御返済残寸志

一 同貳拾五貫八百三拾目

合 貳拾六貫三拾目

但右同断^ニ付被賞、五人扶持^并作紋御上下一具被為拝領被下候様。

宇土郡一領一疋

伊佐寿右衛門

御手伝^ニ付寸志

一 錢貳貫七百目

御才覚御返済残寸志

一 同拾貳貫三百目

合 拾五貫目

但本行之通、寿右衛門父伊佐作右衛門より寸志差上置申候処、老衰仕難相勤、一領一疋之御奉公御断申上候処、願之通御免被仰付、粹寿右衛門儀、親跡一領一疋被仰付置候付、此節寿右衛門^江三人扶持被為拝領被下候様。

右同

御手伝^ニ付寸志

一 同貳貫七百目

江本甚十郎

御才覚御返済残寸志

一 同拾貳貫三百目

合 拾五貫目

但右同断。甚十郎父、江本喜兵衛より寸志差上置申候处、老衰仕、難相勤、一領一疋之御奉公御断申上候处、願之通御免被仰付、俸甚十郎儀、一領一疋被仰付置候付、此節甚十郎江三人扶持被為拝領被下候様。

宇土郡地土

御手伝ニ付寸志

河瀬惣兵衛

一 錢貳貫目

御才覚御返済残寸志

一 同考貫六拾六匁

合 三貫六拾六匁

但本行之通差出候ニ付被賞、一領一疋ニ被仰付被下候様。

宇土町居住、苗字・刀御免、御郡代直触

御才覚御返済残寸志

中熊喜左衛門

一 同貳貫四百六拾目

但右同断ニ付、喜左衛門儀者、根元宇土町産之者ニ而、同所居住仕、在御家人とハ誤違候ニ付、作紋御拾羽織一被為拝領被下候様。

宇土町居住、苗字・刀御免、御郡代直触

御手伝ニ付寸志

門田寿吉郎

一 錢貳百目

御才覚御返済残寸志

一 同拾貳貫三百目

合 拾貳貫五百目

但本行之通指出候ニ付被賞、式人半扶持被為拝領被下候様。

苗字御免・御惣庄屋直触松山手永小曾部村庄屋

竹馬文四郎

御才覚御返済残寸志

一 同考貫六拾六匁

但右同断ニ付被賞、刀御免・御郡代直触ニ被仰付被下候様。

苗字御免・御惣庄屋直触

右同

安谷庄三郎

一 同三貫七拾五匁

但右同断ニ付被賞、地土ニ被仰付、作紋御上下一具被為拝領被下候様。

宇土町別当

御才覚御返済残寸志

又右衛門

一 錢三貫六百九拾目

右同町庄屋

右同

茂作

一 同三貫六百九拾目

但本行之通指出候ニ付被賞、兩人共ニ苗字御免・御郡代直触被仰付被下候様。

松山手永松合村庄屋

右同

彦三

一 同考貫貳百三拾目

但右同断ニ付、彦三儀、已前寸志指出候ニ付、礼服御免被仰付置候者、御座候間、此節無苗ニ而、御惣庄屋直触被仰付被下候様。

右同村

德兵衛

一 同六百五拾六匁

右同村幾右衛門事

幾平

一 同四百九拾貳匁

但右同断ニ付、德兵衛・幾平儀、已前寸志差出候ニ付、傘御免被仰付置候者ニ付、此節小脇差・合羽・菅笠御免被仰付被下候様。

松山手永松合村、伊右衛門事

平兵衛

一 錢四百九拾貳匁

但右同断ニ付、平兵衛儀、已前寸志指出候ニ付、小脇差・傘・菅笠御免被仰付置候者ニ付、此節礼服御免被仰付被下候様。

同手永高良村 長兵衛悱

長太郎

一 同六百五拾六匁

但本行御才覚節^者、親長兵衛より上納仕置候處、去夏病死仕、去冬寸志^者悱長太郎より差上候ニ付、長太郎へ小脇差・傘・合羽・菅笠御免被仰付被下候様。

右同村

栄吉

一 同六百五拾六匁

但本行之通差出候ニ付被賞、小脇差・傘・合羽・菅笠御免被仰付被下候様。

松山手永御領村庄屋

忠七

一 錢壹貫貳百三拾目

御銀所預御減方ニ付寸志

一 同三百目

合老貫五百三拾目

但本行之通差出候ニ付、無苗^{ニ而}御惣庄屋直触被仰付被下候様。

同手永馬瀬村 貞右衛門事

喜助

一 同壹貫六拾六匁

但右同断ニ付、礼服・小脇差・傘・合羽・菅笠御免被仰付被下候様。

同手永松合村

善五郎

一 同五百五拾目

右同村

藤五郎

一 同三百目

但右同断ニ付、兩人共ニ已前寸志指出、傘御免被仰付置候共ニ付、善五郎儀^者、此節礼服・小脇差、藤五郎儀^者、小脇差・合羽・菅笠等御免被仰付被下候様。

松山手永松合村

利平

一 錢五百目

但本行之通差出候ニ付、利平儀已前寸志指出、傘・合羽・小脇差・菅笠御免被仰付置候者ニ付、此節無苗ニ而、御惣庄屋直触ニ被仰付被下候様。

右同村

右同

儀三郎

一 同老貫目

但本行之通指出候ニ付、無苗ニ而、御惣庄屋直触ニ被仰付被下候様。

右之通為冥加寸志指上申度段、去冬願出申候處、願之通被召上候。いつれ茂寄特之儀ニ御座候間被賞、但書之通被仰付被下候様有御座度、乍恐於私共奉願候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

三月

築山与右衛門

後藤喜太夫

御郡方

御奉行衆中

新藏儀、願之通式人扶持可被下置哉。

選舉方 御奉行中

源三郎・三淳儀、寸志高見合ニ當り候付、三人扶持完可被下置哉。

選舉方 御奉行中

安右衛門儀も寸志高見合ニ當り候付、五人扶持被下置、作紋麻上下一具可被添下哉。

選舉方 御奉行中

寿右衛門・甚十郎儀、願之通三人扶持完可被下置哉。

選舉方 御奉行中

惣兵衛儀、一領一疋可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

宇土町之儀ハ、五ヶ所町ニ被准候ニ而、喜左衛門儀、願之通作紋袴羽織一可被下置哉。

選舉方 御奉行中

寸志ニ而、式人半扶持被下置候見合ハ無之候付、式人扶持可被下置哉。右之通ニ而者、貳貫五百目余分有之候付、老貫目ニ而作紋上下一具、老貫五百目ニ而同時服一可被下置哉。

選舉方 御奉行中

文四郎儀、刀被成御免、御郡代直触可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

庄三郎儀、地土被仰付、作紋上下一具可被下置哉。

選舉方 御奉行中

宇土町者五ヶ所町ニ被准儀ニ付、町家之者宛之通、又右衛門・茂作儀、三貫目完ニ而苗字可被成御免哉。

右之通ニ而者、六百目余余分有之候間、追而尚寸志いたし候ハハ、其節取締ひ可被仰付哉。右之趣者、御郡代江内意ニおよひ置可申哉。

選舉方 御奉行中

彦三儀、無苗ニ而、御惣庄屋直触可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

徳兵衛・幾平儀、願之通可被成御免哉。

選舉方 御奉行中

礼服者、老貫目以上之寸志ニ而被成御免究ニ而、有之、小脇差・傘御免之者者、下地五百目指繼ニ而被成御免儀ニ有之候處、平兵衛寸志者四百九拾目余ニ而、不足ニ有之候得共、纔之事ニ付、願之通礼服可被成

御免哉。

選舉方 御奉行中

長太郎・栄吉儀、願之通可被成御免哉。

選舉方 御奉行中

忠七儀、無苗^二而、御惣庄屋直触可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

喜助儀、願之通可被成御免哉。

選舉方 御奉行中

善五郎儀、礼服御免^二者、五拾目程及不足候付、小脇差被成御免、家

内傘、菅笠被成御免、藤五郎儀^者、願之通小脇差等可被成御免哉。

選舉方 御奉行中

利平・儀三郎儀、無苗^二而、御惣庄屋直触可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

二五 中村嘉右衛門

(九一—一九一四)

御内意之覚

郡浦手永居住、諸役人段

御手伝^二付寸志

中村嘉右衛門

一 錢拾匁

御才覚御返済残寸志

一 同六百三拾七匁五分

合六百四拾七匁五分

但本行之通、寸志差出申候^二付、相応^二被賞被下候様。

宇土郡一領一疋

御手伝^二付寸志

本田伊右衛門

一 錢五匁

御才覚御返済残寸志

一 同四百貳拾五匁

合四百三拾目

但本行之通、寸志差出申候間、相応^二被賞被下候様。

右同

御手伝^二付寸志

中尾要助

一 同五匁

御才覚御返済残寸志

一 同八百五拾目

合八百五拾五匁

但右同断

右同

御手伝^二付寸志

松枝令蔵

一 同百目

御才覚御返済残寸志

一 同拾貳貫七百五拾目

合拾貳貫八百五拾目

但本行之通、寸志差出申候^二付、令蔵儀下地御扶持方被下置

候付、此節式人扶持被増下、并^二作紋御拾羽織一被為拝領被下

候様。

宇土郡地土

御手伝^二付寸志

日隈太郎右衛門

一 錢五匁

御才覚御返済寸志

一 同八百五拾目

合八百五拾五匁

但右同断^ニ付、太郎右衛門儀、先年より追々空地仕立置申候杉、大小本数貳千貳百五拾本、去冬差上候処、御山畝^ニ被加置、右ハ生立宣、右之内当前より御用立候立木も数十本有之、往々者一稜御用^ニ相立候と相見候間、右旁此節一同^ニ被賞、一領一疋^ニ被仰付被下候様。

右同

御手伝^ニ付寸志

一 同五匁

御才覚御返済寸志

一 錢六百三拾七匁五分

合六百四拾貳匁五分

但本行之通、寸志指出申候^ニ付、相應^ニ被賞被下候様。

苗字・刀御免、御郡代直触^ニ而下網田村庄屋

御手伝^ニ付寸志

一 同拾匁

御才覚御返済寸志

一 同八百五拾目

合八百六拾目

但右同断

苗字・刀御免、御郡代直触

御手伝^ニ付寸志

一 同八百五拾目

田中久次郎

御才覚御返済寸志

一 同八百五拾目

合壹貫目

但右同断^ニ付、地土^ニ被仰付被下候様。

苗字・刀御免、御郡代直触

御手伝^ニ付寸志

佐藤又次

一 錢拾匁

御才覚御返済寸志

一 同壹貫七百目

合壹貫七百拾匁

但本行之通、寸志差出申候^ニ付、地土^ニ被仰付被下候様。

右同

御手伝^ニ付寸志

一 同八百五拾目

御才覚御返済寸志

一 同八百五拾目

合壹貫目

但右同断

右同

御手伝^ニ付寸志

一 同八百五拾目

御才覚御返済寸志

一 同八百五拾目

合壹貫目

但右同断

中國弥右衛門

水口伊助

苗字・刀御免、御郡代直触

御手伝^二付寸志

永松左右衛門

一 錢貳拾目

御才覚御返済残寸志

一 同貳貫百貳拾五匁

合老貫百四拾五匁

但本行之通、寸志差出申候^二付、地土^二被仰付、作紋御上下一具被為拝領被下候様。

苗字・刀御免、御郡代直触、波多村庄屋

御手伝^二付寸志

岡村栄助

一 同拾匁

御才覚御返済残寸志

一 同老貫七百目

合老貫七百拾匁

但右同断^二付、作紋御上下一具被為拝領被下候様。

苗字迄御免、御郡代直触

御手伝^二付寸志

高尾源左衛門

一 同七匁五分

御才覚御返済残寸志

一 同老貫七百目

合老貫七百七匁五分

但本行之通、寸志差出申候^二付、地土^二被仰付被下候様。

郡浦手、永御惣庄屋直触

御手伝^二付寸志

大倉喜三右衛門

一 錢百五拾目

御才覚御返済残寸志

一 同八百五拾目

合老貫目

但右同断^二付、刀御免、御郡代直触被仰付被下候様。

無苗^二而御惣庄屋直触、戸馳村

御才覚御返済残寸志

清助

一 同老貫七百目

但右同断

右同波多村

右同

嘉八

一 同六百三拾七匁五分

但右同断^二付、嘉八儀、寛政九年九月無苗^二而、御惣庄屋直触被仰付置候^二付、此節本行之寸志^二被对、家内之者共不殘^江傘御免被仰付被下候様。

郡浦手永下恵里村、飯塚村之屋

御才覚御返済残寸志

弥兵衛

一 錢老貫七百目

但本行之通、寸志指出申候^二付、無苗^二而、御惣庄屋直触被仰付被下候様。

同手永下椿原村庄屋

右同

儀右衛門

一 同老貫貳百七拾五匁

但右同断^二付、儀右衛門儀、寛政九年四月吉凶礼之節、麻上下着用・傘等御免被仰付置候^二付、此節小脇差御免并家内之者共不殘^江傘御免被仰付被下候様。

右同

同手、永手揚村

茂左衛門

一 同八百五拾目

但右同断^ニ付、茂左衛門儀、寛政九年九月、吉凶礼之節、麻上下着用・傘等御免被仰付置候者^ニ付、此節小脇差御免^并家内之者共不殘^江傘御免被仰付被下候様。

郡浦手永新開村

御才覚御返濟殘寸志

吉左衛門

一 錢毫貳百七拾五匁

但本行之通、寸志指出申候^ニ付、吉左衛門儀、寛政九年四月、吉凶礼之節、麻上下着用御免被仰付置候^ニ付、此節小脇差・傘等御免^并家内之者共不殘^江傘御免被仰付被下候様。

同手永波多村

御手伝^ニ付寸志

安平

一 同三百目

但右同断^ニ付、傘・小脇差御免被仰付被下候様。

右之通、寸志指出、何れ^茂寄特之儀御座候間被賞、但書之通被仰付被下候様有御座度、乍恐於私共奉願候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

三月

築山与右衛門

後藤喜太夫

御郡方

御奉行衆中

嘉右衛門儀、御間^ニ承届之段、及達可申哉。

選舉方 御奉行中

伊右衛門・要助儀も、御間承届之段、及達可申哉。

選舉方 御奉行中

令藏儀、式人扶持被増下、作紋袷羽織一可被下置哉。當時五人扶持被下置候。

選舉方 御奉行中

御才覚錢寸志地土より者、貳貫目已上之高^ニ而、被仰付儀^ニ有之、本行寸志高^ニ而者、壹貫百目余不足^ニ有之候得共、空地^ニ仕立置候杉指上候由、書面之通^ニ者、旁を以願之通、一領一疋可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

恵助・要右衛門儀、御間^ニ承届之段、及達可申哉。

選舉方 御奉行中

久次郎儀、願之通可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

又次より弥右衛門迄三人願之通可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

奎右衛門儀、願之通地土被仰付、作紋上下一具可被下置哉。

選舉方 御奉行中

栄助儀、願之通作紋上下一具可被下置哉。

選舉方 御奉行中

源左衛門儀、願之通地土可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

喜三右衛門、清助、願之通可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

嘉八儀、願之通家内傘可被成御免哉。

選舉方 御奉行中
弥兵衛儀、願之通可被仰付哉。

選舉方 御奉行中
儀右衛門、茂左衛門儀、願之通可被成御免哉。

選舉方 御奉行中
吉左衛門儀、願之通可被成御免哉。

選舉方 御奉行中
五百目已上之寸志^{ニ而}、傘・小脇差被成御免^{ニ有之}、安平儀、
本行寸志高^{ニ而考}、及不足候間、傘迄可被成御免哉。

選舉方 御奉行中

(文化二年)

二六 久左衛門

(九一九一四)

口上之覚

先達^而致病死候宇土町別当友枝三左衛門養子

久左衛門

右三左衛門儀、寸志之依訳、町独礼被仰付、拾人扶持被下置、苗字
被成御免置候處、病死仕候。養子久左衛門儀、追々之御見合を以、
宜相談被仰付被下候様、於私共奉願候。已上

六月

町方

根取共

久左衛門儀、寸志二代目^{ニ付}、究之通父同前町独礼被仰付、
拾人扶持被下置、苗字可被成御免哉。

選舉方 御奉行中

右付礼之通、六月廿七日御便江戸^江奉伺候處、如何被仰出候付、閏八
月廿三日申渡。

二七 中村慶太

(九一九一四)

口上之覚

宇土郡地土^{ニ而}病死仕候中村尉平養子

中村慶太

当子二十七歳

右尉平儀、寛政六年閏十一月被对先祖之訳、地土^ニ被召出、当年迄
十一ヶ年御郡並之御奉公無懈怠相勤居申候處、当五月病死仕候。慶
太儀、人物才氣^茂相見、武芸^者、劍術・炮術入門仕候^而、出精仕、筆算
も太体^ニ仕、惣体心懸能、往々御用と相立可申者と見聞仕候間、親
跡地土^ニ被召出被下候様有御座度、於私奉願候。右之者先祖之儀^者、
先年一統御達仕候通^ニ御座候。此段可然様被成御參談被下候。以上

八月

築山興右衛門

御郡方

御奉行衆中

慶太祖父中村尉九郎と申もの、先祖^者先代浪人^{ニ而}、正保六年一
領一疋被召出、代々相統仕居、御山支配役被仰付置候處、寛政
五年不埒之儀有之、御山支配役被指除候。然処宇土郡之儀、宿
筋・海辺を受居、其上山付之所柄^{ニ而}、御家人之勤稜多、急場之
節^者、手足不申儀も有之候間、悴尉平儀、先祖訳有之、数代一
領一疋相統之者^ニも有之候間、旁^ニ被对、地土^ニ被召出被下候
様。同六年宇土御郡代より願有之候節、宇土郡之儀^者、御家人

少^ニ付^而者、新^ニも被召出候事^ニ付、願之通尉平儀、地土可被召出哉と相達、其通被仰付候。先祖之訃を以被召出候^ニ而ハ無之候へ共、数代一領一疋相統之者^ニ而被召出候儀^ニ付、慶太儀も願之通地土可被召出哉。

選舉方 御奉行中

右付札之通、十一月十三日紙面達。

二八 久左衛門

(九一九一五)

覺

致病死候友枝三左衛門養子

久左衛門

右三左衛門儀、御勘定所御用達被仰付置候處、先達^而病死仕候。久左衛門儀、御用達中^ニ而も、身代宜者^ニ御座候付、親跡御勘定所御用達被仰付、御扶持方をも引繼被下置候様有御座度奉存候。此段宜被成御參談被下候。已上

六月

中山源助

御勘定頭

久左衛門相談之儀、別紙相達申候通被仰付儀^ニ御座候ハ、親跡御勘定所御用達被仰付、親同前七人扶持被下置哉。

選舉方 御奉行中

右同断

二九 野田四郎太夫

(九一九一五)

御内意之覺

宇土御山支配役・櫛楮見拟并御牧山見拟兼帯

野田四郎太夫

右者 宝曆八年十月、親跡一領一疋致召出、安永四年宇土郡御山支配役、櫛楮見拟兼帯被仰付置候。当年迄御奉公都合四拾八年、右役方三十一一年相勤申候内、御郡代手付横目十八年、御牧山見拟十四年加役を^茂申付、相勤申候。右四郎太夫儀、性質至^而壯健成者^ニ而、役方心懸能、別^而御山方之儀^者、代役以来数十年之間、厚心掛、就中綱引村懸り御山諸木繁茂仕、杉木仕立方之仕法を立、年々餘斗之差杉仕候付、当時迄大概二拾八万本程之本数相成、右之内初年^ニ仕立候類者、四、五尺廻り程に相成候も多有之、根元地味相応仕候哉。都^而能木迄^ニ而、舟懸りも宜敷、向々一簾之御益^ニ可相成、拔群功業迄相見申候。且又近年宇土御牧山見拟をも申付被相成居申候處、是又拔群心掛、産馬番息之仕法、程々工夫仕、近年御牧山内^ニ小屋掛仕、産馬多キ時分ハ、自勘^ニ而数十日之間、必多度相詰居、昼夜意を用候付、烝年産馬育方多、惣馬数各別相増、是又御国益之寄端^ニも相成可申哉と奉存候。其外津浪・洪水等之節、臨時之請込申付候處、取計方能ク行届申候^ニ付、其儀^者其節々夫々御覺美をも被仰付、御山支配方^ニ付^而も、追々結講被仰付候儀^ニハ御座候得共、先^者数十年之間、右之通拔群精勤仕候者御座候間、相応^ニ進席被仰付、猶作紋之御品^ニ而^茂被為拝領被下候様、乍恐於私奉願候。左候ハ、其身之規模ハ勿論、脇々励^ニも相成可申と奉存候間、不闕御内意仕候。則四郎太夫追々被賞等之綾書并御山木数付、御牧山^ニ相詰候日数付、為御見合、別紙相添、御達仕候条、重疊宜被成御參談可被下候。以

上

六月

仁田四郎作

本行之通^ニ付、例吟味仕候處、矢部手永御山支配役木原才次儀、宝曆十三年親跡御山支配役被仰付、心懸能出精相勤、追々仕立候杉・檜百万本^ニ相成、抜群之心懸^ニ付、寛政五年三十一年目独礼被仰付、御足給貳石被下置、拾石三人扶持之高^ニ被仰付候。四郎太夫儀、安永四年一領一疋より御山支配役被仰付、是又三十一年^ニ相成、御山方之儀、厚心懸、諸米^{（米）}繁もいたし、杉仕立候木数貳拾八万本程^ニ相成候由、書付之通^ニ有之候處、才次仕立候木数^ニ者、余計之劣り相見候へ共、四郎太夫儀ハ、御牧山見拟をも心懸能出精相勤、抜群功業之者之由、達之通付、年数^者才次同様^ニも有之候間、独礼可被仰付哉。此上尚拜領方被仰付^ニ者及申間敷哉。在勤中三人扶持・外勤料拾五俵被下置、諸役人段被仰付置候。

選舉方 御奉行中

右付札之通、九月十八日御便江戸^江奉伺候處、奉伺被仰出候付、十二月十五日申渡。

ほふノ尾御山

一 杉苗木千本

但安永六年杉床奉願候苗木之儀^者、水足五郎兵衛殿御渡被成植付申候。

小舟迫

一 同千九百本

但安永六年、右同断。

阿保御山

一 同老万本

但安永七年、右同断。

するす

一 同老万五千本

但右同断。

猪伏浦

一 杉苗千五百本

但安永七年、植付申候。

阿そふ

一 同四千六百本

但天明二年、右同断。

白岩

一 同四千六百本

但天明三年、右同断。

白鹿浦

一 同四千本

但右同断。

水谷

一 同四千五百本

但右同断。

矢筈

一 同五千本

但天明四年、右同断。

白岩

一 同四千八百本

但右同断。

赤木浦

一 同三千五百本

但右同断。

清右衛門木場

一 同老万三百本

但天明五年、右同断。

赤崩

一 同千本

但天明六年、右同断。

白岩

一 杉苗千九百本

但天明七年、御仕立^ニ相成申候。

しらまが迫

一 同千八百本

但右同断。

矢筈

一 同千貳百本

但右同断。

阿そふ・赤崩・白岩・前がふとふ・彦四郎・この廻迄六ヶ所

一 同五千百本

但右同断。

とふず

一 同三千四百本

但天明八年、右同断。

矢筈

一 同九百五拾本

但右同断。

しらがま迫

一 同千百五拾本

但右同断。

との迫

一 同七百本

但右同断。

彦四郎御山

一 同三百本

但右同断。

白岩

一 同三百七拾五本

但右同断。

白岩

一 杉苗四百本

但天明八年、御仕立ニ相成申候。

白鹿浦

一 同貳百貳拾五本

但右同断。

矢筈

一 同三百五拾本

但寛政元年、御仕立ニ相成申候。

阿そふ

一 同貳百本

但右同断。

赤崩

一 同百本

但右同断。

白岩

一 同七百五拾本

但右同断。

白鹿浦

一 同四百五拾本

但右同断。

との迫

一 同百五拾本

但右同断。

彦四郎御山

一 同六百本

但右同断。

しらまが迫

一 同貳百五拾本

但右同断。

とふず

一 杉苗百五拾本

但寛政元年、御仕立ニ相成候。

白岩

一 同千百五拾本

但寛政二年、右同断。

赤崩

一 同千本

但右同断。

彦四郎御山

一 同百五拾本

但右同断。

とふず

一 同百本

但右同断。

矢筈

一 同四百本

但右同断。

はい坂

一 同三千九百五拾本

但右同断。

寛政三年植付申候分

一 同巻万貳千六百本

内

七百本 赤崩

三千七百本 白岩

四千八百本 勘右衛門木場

三百本 猪伏浦

千八百本 這坂

千貳百本 矢筈

百本 とふず

寛政五年植付申候。

一 杉苗三千八百本

内

貳千本 赤崩

六百本 白岩

百拾本 いぶし浦

九百本 はい坂

貳百本 矢筈

同六年植付申候分

一 同巻万三千三百七拾本

内

貳千三百七拾五本 勘右衛門木場・はい坂・赤崩・白岩

八千九百九拾五本 源体

同七年植付申候分

一 同八千五百本

内

貳千百五拾本 深迫

三千本 柳迫

貳千七百五拾本 赤崩

六百本 阿そふ

寛政八年植付申候

一 杉苗四千六百九拾本

内

千百七拾五本 赤崩

千四百貳拾本 深迫

貳千百三拾五本 柳迫

同九年植付申候分

一 同五千本

内

千六百五拾本 赤崩

貳百五拾本 猪伏浦

千七百本 深迫

千四百本 柳迫

同十年植付申候

一 同五百本 赤崩

合拾四万五千四百拾本

但安永六年より寛政十年迄、御仕立ニ相成申候。

御牧山内所々

一 杉苗貳千貳拾三本

但安永六年より御仕立ニ相成申候

網津村

長浜村

網引村分

五千本 ぼふのふ木場

千百本 奥場

千六百本 柳迫

八百本 白鹿浦

千本 するす

貳千五百本 源体

享保元年植付申候

一 杉・檜苗壹万百本

内

三百五拾本 赤崩

五千五百本 板之平

三千貳百本 源体

四百本 白鹿浦

四百本 奥場

貳百五拾本 柳迫

一 杉小苗壹万本

内

五千本 阿保

九百本 堂道

四千百本 柳迫

ぼふのふ

一 杉苗五千四百本 但享和三年御仕立ニ相成申候。

柳迫

一 杉苗千八百三拾本

阿保

一 同千貳百貳拾本

嶽

一 同七百本

板之平

一 同八百五拾本

合壹万本

一 檜小苗貳万本

白鹿浦

一 楠苗八百本

阿保・ぼふのふ植継

一 杉苗貳千本 但文化元年御仕立ニ相成申候。

奥場

一 同三百五拾本 但右同断。

柳迫

一 杉小苗五千本 但去子年迄仮植仕置申候。

白鹿浦

一 楠苗三百九拾三本

御山内二ヶ所

一 杉苗四千本 飯塚村

一 同五千本 但小苗ニ付仮植仕置申候。同村

鷹落シ

一 同貳千本 永尾村

うそ・白岩・深迫・板之平四ヶ所

一 同壹万千八百貳拾本 網引村

但文化二年御仕立ニ相成申候分。

白岩

一 同五百本

但村方江仕立置候苗植付申候。

御牧山内所々

一 杉苗三百本

合拾貳万九千九百七拾三本

一紙

惣合貳拾七万五千三百八拾三本

楠苗合千五百九拾三本

右者宇土郡網引村御山并御牧山内、其外村々御山内ニ杉苗植立申候。
小前帳相調差上申候。以上

文化二年四月

仁田四郎作殿

野田四郎太夫

(文化三年)

三〇 江口理助

(九一九一六)

口上之覚

宇土郡松山手永馬瀬村居住・一領一疋ニ病死
仕候江口儀兵衛粹

江口理助

当寅五十一歳

右理助父江口儀兵衛儀、宝曆五年九月より松山会所役相勤居申候処、
安永四年八月数年手全出精相勤候間ニ而、礼服御免被仰付候。同六
年二月地引合出精相勤候旨ニ而、鳥目老貫五百文被為拝領候。同九

年十月御取立方厚ク世話仕候旨ニ而、鳥目五百文被為拝領候。

一 天明二年十二月、御年貢御取立方、其外諸事請込之儀共、各別出
精仕、凶年柄速皆納ニ相成、厚ク心を用候旨ニ而、鳥目老貫文被為拝
領候。同三年十二月手代役申付候。同七年松山手永御田収蔵御建直
被仰付候節、御入目錢之内九百目且又同年松山手永村々窮飢為取赦、
鳥目百五拾目、都合老貫五拾目寸志差置申候処、役儀数十年之勤功、
旁被対、同年九月苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付候。

一 寛政五年丑三月、津波之節、諸御用筋根扨仕、始末無間抜取計、
且笠岩村御開塘御普請ニ付而ハ、引除米錢取引等手堅出精相勤候旨
ニ而、金子五百疋被為拝領候。同十年六月役方数十年手全出精仕、去
ル辰夏洪水之節、松山手永所々塘節破損所并郡浦手永新開塘手損所
・水留・潮留御普請等、根ニ成、各別出精仕、且右之節自分宅茂水浸
ニ相成候得共、近隣之者共為取救米穀等も差遣、旁ニ付、鳥目一貫文
被為拝領候。同十二年十二月宇土会所横目役申付、在勤中一領一疋
格ニ被仰付置候。

一 享和二年御銀所預御漬方ニ付而、各別寸志八百目且御才覚御返済
残利分共老貫貳百目、都合貳貫目寸志差上申候処、同三年五月一領
一疋本席ニ被仰付、人馬所横目役去丑年迄六年相勤申候。

一 宝曆五年より去丑年迄五十一年之内、寛政十年五月より病氣ニ
付、代役差免、同十二年之冬迄三ヶ年退役仕、役方都合四十八相勤、
去丑閏八月病死仕候。

一 右儀兵衛粹理助儀、安永八年四月より会所役相勤、寛政四年五月
井樋方小頭兼帶申付候。同五年六月津浪之節、荒地しらへ方ニ付、
数ヶ村ニ而、手数掛候処、夫々請込之役前、始末無間抜各別出精相勤
候旨ニ而、鳥目貳貫文被為拝領候。当年迄二十八年出精相勤、惣体人

物等宜、手全成者^ニ而、往々御用^ニ茂、相立可申者と見聞仕候。且儀兵衛儀、追々^ニ寸志錢都合三貫五百目差上、一領一疋本席^ニ被仰付置、前後四十八年之勤功、旁^ニ被対、理助儀親跡一領一疋相統被仰付被下候様、於私奉願候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

正月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

理助儀、寸志二代目之者^ニ付、父同前一領一疋可被仰付哉。

右付札之通三月廿七日

選舉方

御奉行中

紙面達

三一 右山長左衛門

(九一九一六)

口上之覚

松山手永高良村居住、宇土郡一領一疋

右山長左衛門

右長左衛門儀、安永五年二月養父跡一領一疋^ニ被召出、先祖^ニ被為、拜領候御赦免開を^茂、直^ニ被下置候。当年迄御郡並之御奉公三十一ヶ年無懈怠相勤居申候處、最早老極仕、御奉公難相勤、御断願出申候間、見聞仕候處、相遣^茂無御座、無余儀様子御座候間、願之通御免被仰付被下候様。

右長左衛門養子

右山勇吉

当寅貳拾三才

右勇吉儀、人柄宜筆算^茂相応仕、武芸等^茂心掛候様子^ニ相聞、往々御用相勤可申者と見聞仕候。且先祖松山手永御惣庄屋役をも被仰付候家筋之者^ニ而、御座候間、旁^ニ恐親跡一領一疋相統被仰付、右長左衛門^江被下置候御赦免開を^茂、直^ニ被成拜領被下候様。右之通被仰付被下候様、於私奉願候間、可然様被成御參談可被下候。以上

四月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

長左衛門儀、願之通一領一疋被成御免、御赦免開可被召上哉。

選舉方 御奉行中

勇吉儀、先祖右山伝右衛門と申たるもの、元禄年中松山手永御惣庄屋被仰付、夫より引統三代御惣庄屋相勤、曾祖父右山伝右衛門と申もの、寛延四年宇土郡一領一疋引継被仰付、其以後父迄引継被仰付たる儀^ニ付、願之通親跡一領一疋被仰付、御赦免開直^ニ可被下置哉。

選舉方 御奉行中

三二 日隈太郎右衛門

(九一九一六)

口上之覚

郡浦手永赤瀬村居住、宇土郡一領一疋

日隈太郎右衛門

右太郎右衛門、寛延二年赤瀬村庄屋役申付、相勤居申候處、寛政四年九月年功^并杉山三ヶ所仕立差上候^ニ付、苗字・刀被成御免、御郡

代直触^ニ被仰付、其後寸志之誤よつて地土^ニ被召直、猶又追々寸志差上、且仕立置候杉山^ニケ所指上候処、文化元年十一月一領吉足被召直、当寅年迄御郡並之御奉公、都合五十九年無懈怠相勤居申候処、年罷寄御奉公難相勤、御断願出申候間、見聞仕候処、無余儀様子御座候間、願之通御免被仰付被下候様。

右太郎右衛門養子

日限又助

当寅三十歳

右又助儀、人物宜、筆算等^茂相応仕、劍術・炮術之儀^茂内稽古仕、平日心懸能、往々御用相立可申者と見聞仕候。且又郡浦手永之儀^者海辺御郡^ニ而、天草^と受居候所柄^ニ付、御家人相減不申候様有御座度奉存候間、右太郎右衛門代、寸志之誤旁被対、乍恐親同様一領一疋被召出被下候様。

右之通於私奉願候間、可然様被成御参談可被下候。以上

五月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

太郎右衛門父子、願之通可被仰付哉。

選奉行 御奉行中

三三 門田久左衛門

(九一九一六)

御内意之覺

宇土町別当

門田久左衛門

久左衛門儀、宇土町別当申付置、寛政元年より文化三年迄十八年相勤居申候。当休宇土町別当兩人^ニ付、本町・新町兼帶相勤申候処、当休柄之儀^ニも有之、可成たけ出精相勤申候ハ、員数減少仕、勤料等相減候仕法も可有之と、精々しらへ仕候処、久左衛門儀、当役指免候^而も、勤方届兼候儀^者有之間敷見込御座候^ニ付、此節別当指免、当休庄屋藤本茂作と申もの^江、本町・新町別当兼帶申付、当休別当才兵衛と申もの儀^者、本町庄屋ト申付度奉存候。平日取計筋者、茂作儀一人^ニ而、届兼候儀^者無御座、不休御出御用等之節ハ、町頭共之内助勤申付候ハ、諸事指支候儀^者有御座間敷奉存候。依之奉願候儀、恐多次第奉存候へ共、久左衛門儀、数年役儀相勤、今度指免候儀^ニ付被賞、作紋御上下被為拜領被下候奉願候。

右山長左衛門倅

右山勇吉

勇吉儀、親長左衛門跡一領一疋引統被仰付被下候様、別紙御達仕候通^ニ御座候。然処当休宇土町之儀、多人数之上商売之儀も格別蕃昌不仕、且宿駅を受、旅人彼是往来繁有之故歟、風俗不宜、間^ニ不拟之筋も有之様、追々承及唯今通^ニ而者、心遣之所柄^ニ御座候間、屹ト拟方之仕法無之候^{而者}難相濟、是又此節宇土町人馬会所・町会所取計之仕法引改せ、余錢出来仕、後年町中之備^ニ相成候儀^ニ付、別^而諸事取拟申度、町別当・会所惣代とも任せ被仕置候儀、難相成筋も御座候^而、御家人之内一人町会所、人馬会所見拟之儀申付、勿論町内之儀^者諸事共右同様惣^而米錢之受^并市中物騒之儀等、精々糺候様、嚴重^ニ申付置度奉存候処、右勇吉儀、平日人物宜敷、武術・筆算等之儀も相嗜、近々御郡並之御用^ニ相試候処、御用立可申ものと相見申候付、今度親跡一領一疋被召出被下候ハ、於其身難有奉存、自

勘を以出精相勤可申候、左も御座候て、已来町方万端以方ニ相成候見込御座候付、重畳宜御参談可被下候。已上

四月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

久左衛門儀、達之通ニ付、作紋上下一具可被下置哉。

選挙方 御奉行中

右付札之通、六月十三日申渡

勇吉儀、親跡一領一疋相談可被仰付哉之儀者、此間相達申候通ニ御座候付、宇土町会所・人馬所見以之儀ハ、達之通被申付候様、及達可申哉。

選挙方 御奉行中

右付札之通、六月七日紙面達。

三四 河野清左衛門

(九一九一六)

御内意之覚

松山手永御惣庄屋直触

一 銭貳貫目

河野清左衛門

但去ル已年御才覚銭調達被仰付候節、宇土町利七と申者、上納高及難波候ニ付、清左衛門より貸方仕、上納仕せ候処、其後返済出来兼申候ニ付、双方申談、清左衛門寸志ニ奉願、如願被仰付候銭高、本行之通。

右清左衛門儀、安永四年四月、郡浦手永村々江、貸置申候銭高五貫百貳拾三匁五分、捨方仕候付、天明元年六月被賞、無苗御郡代直触被

仰付置候処、寛政九年六月御僉議之筋ニ而、無苗御郡代直触一統苗字御免ニ而、御惣庄屋直触被仰付候付、清左衛門儀も被召直、当年迄都合二十六ヶ年相勤申候。然処最早及老衰、御惣庄屋直触御免被仰付被下候様、願出申候間、承札申候処、相達之儀も無御座候間、願之通被仰付被下候様。

右清左衛門養子

嘉三郎

当寅三十九歳

右嘉三郎儀、平日手全成者ニも御座候間、右寸志之被対、親同前苗字被成御免、御惣庄屋直触被仰付被下候様。

右之通御座候間、則御達仕候。宜被成御達可被下候。比段於私奉願候。以上

六月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

清左衛門儀、願之通直触被成御免、養子嘉三郎儀、本行寸志ニ而見合い相当候而、苗字被成御免、御惣庄屋直触可被仰付哉。

選挙方 御奉行中

右付札之通、八月十三日紙面達。

三五 佐田五郎八他

(九一九一六)

口上之覚

宇土郡郡浦手永中村居住、一領一疋

佐田五郎八

右五郎八儀、安永五年七月依先祖之訖、親跡一領一疋被召出、当年迄御郡並之御奉公、都合三十ヶ年無懈怠相勤居申候處、近年病氣^ニ罷成、御奉公難相勤、御断願出申候間、見聞仕候處、相遣^{（違）}も無御座、無余儀様子御座候間、願之通御免被仰付被下候様。

右五郎八養子

佐田源次

当丑三拾四歳

右源次儀、人柄宜、筆算も相応仕、武芸等^茂心掛候様子相聞、往々御用相立可申者と見聞仕候間、乍恐被对先祖之訖、親跡一領一疋^ニ被召出被下候様。尤先祖之儀^者、先年一統御達仕置候通御座候。

右同村居住、地土^ニ而病死仕候積武左衛門

養子

積 恵作

当丑二十五歳

右武左衛門儀、安永九年三月親跡地土^ニ被召出、当年迄貳拾六ヶ年、御郡並之御奉公無懈怠相勤申候處、当六月病死仕候。右恵作儀、惣体人柄宜、筆算等も太体^ニ御座候。炮術・劍術之儀も内稽古仕、平日心懸能、往々御用^ニ相立可申者と見聞仕候。且又郡浦手永之儀ハ、海辺御郡^ニ而天草をも請居候所柄^ニ付、御家人相減不申候様有御座度奉存候間、旁々恐親同様地土^ニ被召出被下候様。

宇土町居住、御郡代直触^ニ而病死仕候

桑原作平次養子

文 七

当丑三十五歳

右作平次儀、安永六年松山手永難波村為取救、寸志錢指出候處、影踏之儀、家内共宿所^ニ而踏方被仰付候。天明四年右同断。寸志指出

候^ニ付、翌正月無苗^ニ而御郡代直触被仰付候。同五年御手伝御用^ニ付、寸志差上申候。同七年御巡見様御本宿御繕^ニ付、寸志指出、且其夏及難波候者共、取救仕候^ニ付而、翌五月苗字・刀被成御免候。寛政元年御上金^ニ付而、寸志指上候。同四年津浪所為取救、栗・古衣等も指遣、且塘筋被損所潮留之節^茂、夫方^江為氣付酒指遣候段、御間^ニ御聞届^ニ相成候而、翌年六月御達有之候。同八年洪水にて郡浦手永新開村潮塘破損所御普請御入目錢寸志差出候付、作紋御上下一具被為拜領候。享和二年御銀所預御減方^ニ付、寸志并御才覺錢御返濟分共、寸志指上申候付、翌年七月八人扶持被下置候。

右之通追々結講被仰付置候處、作平次儀、当五月病死仕候。惣体身上向兎哉角仕居候^ニ付、町中難波之者共取救申候様子相聞申候。養子文七儀、人柄宜、筆算等も仕、手全成者^ニ而御座候間、右作平次代寸志之訖被对、親同前苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付、御扶持方之儀^茂、無相遣被為拜領置被下候様。

右之通、於私奉願候間、可然様被成御參談可被下候。以上

十一月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

五郎八儀、願之通被成御免、数代之一領一疋^ニ付、養子佐田源次儀、親跡一領一疋可被召出哉。

選舉方 御奉行中

右付札之通、五月七日紙面達。

恵作儀^者寸志三代目^ニ付、御郡代^江掛合置申候處、追而相達可申候^ニ付、被見合置被下度由、口達有之候事。

選舉方 御奉行中

文七儀、寸志二代目ニ付、親同前苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付、八人扶持可被下置哉。

選舉方 御奉行中

右付札之通、四月廿五日江戸江奉窺候處、如同被仰出候付、七月廿九日申渡。

覚

宇土郡一領一疋 佐田五郎八悴

佐田源次

御郡代直触ニ而病死仕候桑原作平次悴

桑原文七

右者兩人共養子ニ而御座候處、寛政十二年よりは迄之人別達ニ者、悴と書出申候ニ付、下方及察討申候處、養子ニ仕候得者、直ニ悴と相唱候ものと相心得、當時迄書出氣取違仕、奉恐入候段申出候。右之通ニ付、別紙親跡相統願書より、養子と書出申候。比段御違仕候。以上

十一月

近藤英助

(文化四年)

三六 内田宅平

(九一—一九一七)

御内意之覚

在勤中諸役人段・唐物方御横目并御郡代手附横目ニ而、井樋方一切見聞受込、錢塘手永内田在居住

内田宅平

當寅六十三歳

右者宝曆十一年より御免方見習、錢塘会所江呼出、其後会所詰并下代手代役、寛政九年十月迄都合三十七ヶ年相勤申候。右ノ勤中寛政五年数年出精相勤并子ノ年津波ニ付而、万端出精取計候旨ニ而、苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付候。左候得而、寛政九年十月手代役相断、翌寛政十年十二月迄御郡並之御奉公相勤居申候内、翌寛政十一年正月、在勤中一領一疋格被仰付、鮑田託麻塘方助役、長浜石場受込申付相勤居申候内、同年九月在勤中一領一疋ニ被召置、御郡代手付横目役申付、鮑田託麻并樋方見聞兼受込申付相勤居申候内、去七月唐物技荷役方見拟御横目被仰付、在勤中諸役人段ニ被召置候。右塘方助役より当年迄種々受込見聞等八ヶ年相勤申候、惣勤年数都合四十六年出精相勤申候。右塘方助役暫相勤候内抱夫等之仕法ニ而、石手御普請出来方少御座候付、段々工夫を以抱夫賄ニ而、買石之積仕先役へ相達申候處、見込之通及達候付其年より石手御普請一倍程之出来増ニ相成、今以右改正之仕法取行申候間、御普請も余計ニ出来仕申候。且横目役ニ而并樋方見聞一切立会、印形申付置候處、其以前ハ井樋方集錢僅ニ計ニ而御座候處、七ヶ年之内三拾貫目近ク相成、追々下方諸出米錢之代ニ差越、下方一被之助成ニ相成、当時現之備、拾貫目近ク相集居申候。其上井樋板之儀、天明二年御郡受ニ被仰付、寛政十年迄十七ヶ年分之余板六十五枚余御座候處、僅ニ七ヶ年之内ニ貳百貳拾枚余之現有余板相備り申候。惣体筆算違者ニ仕、諸事取計厳格ニ相心得、拔群出精相勤申候間、右之通数年勤之被々功業屹ト相見江申候間、乍恐被賞諸役人段本席ニ被召置、作紋御羽織一ツ被為拝領被下候様、奉願候。当年よりハ尚又井樋方之儀段々御仕法も替り申候付、弥以此者之勤方第一之儀御座候間、右之趣重疊宜被成御參談可被下候。以上

九月

御郡方

御奉行衆中

小山門喜

宅平儀書面之通候ハ、格別之様子ニ相見申候付、願之
通諸役人段本席被召置、作紋拾羽織一被下置哉。先年
作紋上下者被下置候事。

選舉方 御奉行中

三七 野田四郎太夫

(九一九一七)

御内意之覺

宇土郡御山支配役

野田四郎太夫

右四郎太夫儀、宝曆八年寅十月親跡一領一疋ニ被召出、安永四年未
九月宇土郡御山支配役^并櫛・楮見^二以役兼帶被仰付、当年迄三十三年
各別出精相勤申候。同九年子十二月御郡代手附横目役申付、寛政九
年迄拾八年相勤、其後役数^{ニ而}届兼候間、横目役之儀^者、相断申候。

天明二年九月役方心懸能、出精相勤、御山立方宜敷相成候旨^{ニ而}御

銀五両被為拜領候。寛政元年六月御山方数年無懈怠心懸厚ク、御山
以方も宜敷、跡木仕立方宜敷、各別相勤申候付、今迄被下置候八木^(*)
拾五俵完を、御山支配役在勤中三人扶持完^ニ被直下、外^ニ毎歳勤料
五俵完被為拜領候。同二年十一月宇土山御転之節、出精仕候旨^{ニ而}、
金子貳百疋被為拜領候。同四年宇土御牧見^以申付、当年迄十六年出
精相勤申候。寛政五年五月御山仕立方厚心懸、追々餘計之指松等生
立、廻方無懈怠格別出精相勤候旨^{ニ而}、勤料米拾俵被増下、都合拾五

俵被為拜領候。右被仰付候節、津波^ニ付、塘筋御普請見^以、流失之
跡家建方^{ニ付而茂}出精いたし候旨^{ニ而}、金子三百疋被為拜領候。同

十年洪水後、御普請御用之竹木剪出方直^ニ取計、御普請^{五茂}罷出、出
精仕候旨^{ニ而}、金子貳百疋被為拜領候。同十一年役方多年心懸能、跡

木仕立方各別出精、御山^{ニ而}審^ニいたし、且御牧見^{以茂}心懸相勤候旨^{ニ而}、

作紋御帷子一ツ被為拜領候。文化二年十二月御奉公数十年之
内、当御役多年厚ク心懸、拔群相勤候旨^{ニ而}、独礼^ニ被召直候。

右之通追々被賞、結構^ニ被仰付候^{ニ付而者}、弥以精勤仕、御山方之儀

者不及申、御牧見^以方之儀も、近年格別出精仕、御牧山之内^江諸小屋

建方仕、定結程^ニ仕、自勘賄^{ニ而}相勤、尤^ニ打方万端屋夜心懸、其外櫛

仕立方見^以之儀、厚心懸、誠^ニ拔群出精仕、当年迄御奉公、都合五

拾年相勤申候。依之奉願候儀^者、恐多奉存候得共、被賞、一人扶持

御加増被仰付被下候様、於私奉願候。左御座候者、弥以出精相勤可

申と奉存候。且又永嶺嘉右衛門列より指越申候別紙書付、右一同御

達仕候間、両条之儀共、可然様被成御參談可被下候。以上

正月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

四郎太夫儀、当年^ニ至、御奉公五十年^ニ相成候へ共、亥之年十二
月独礼被仰付、御賞美間近有之候付、願之趣^者、先被見合置、
櫛・楮仕立方出精付^而、此節作紋麻上下被為拜領被下度由、別
紙永嶺嘉右衛門・馬場喜右衛門、達之通^ニ付、右上一具被下
置哉。

覚

選舉方 御奉行中

宇土御山支配役・独礼

野田四郎太夫

右者・櫓・格仕立付^{而者}、多年心懸厚出精相勤、且又近年各別櫓仕立方

一件、御達之趣^{二付而者}、内外厚世話仕候。依之此節作紋麻上下一具

被為拝領被下度奉願候。此段御達被下候。已上

卯正月

馬場喜右衛門

永嶺嘉右衛門

近藤英助殿

三八 松榮

(九一九一七)

御内意之覚

松山手・永馬場村在医

松榮

当卯五十歳

右松榮儀代々医業之家筋^{二而}、祖父金田道宅と申^者代迄^者馬場村法泉寺

支配^{二而}、医業伝来仕候由之処、父玄達と申者より村人数^二加在医^二罷

成申候由御座候。右松榮儀宇土御家中帆足玄齡養父帆足松寿門弟^{二而}、

若年より医業心懸厚、各別出精仕療治方宜敷候付、近郷^者不及申遠在

より^茂聞伝、療治頼参候者多、別^而小兒之医療心得居候由御座候。近年

凶作打続候付^{而者}難渋之者多施薬同前之病家も有之候得共、一統深切

ニ療治仕候付、村内^者勿論近村之難渋之者共為合^二も一稜宜候付、右之

通療治方手広出精仕、代々医業之家筋^{二而}、累世村方之為合^二相成候者

之儀^二も御座候。旁々恐被賞苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付被

下候様、於私奉願候。左候ハ、弥以出精仕猶々所柄為合^{二茂}相成可申

と奉存候間、此段可然様被成御参談可被下候。以上

三月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

松榮儀苗字・刀被成御免、御郡代直触可被仰付哉、医業吟味

役見聞之趣、書付相認申候事、

選舉方

御奉行中

覚

宇土郡松山手永

馬場村在医

松榮

右者家業心懸宜、治療篤志有之數代家業仕病用手広ク出精いたし

候様子見聞仕候、御郡代直触被仰付度奉存候、則右松榮附方相添

御達仕候、已上

八月

岡田宗雪

南 漸

附方三條

痰涎壅盛喉中作聲卒然暈倒脉洪滑^而急不能進薬^者

半夏未吹込干鼻中也

山嵐瘴氣有寒熱吐瀉^者

霍乱下利腹痛手足厥冷^者

右

の方

四逆湯

松榮

桔梗白散

五苓散

(文化五年)

三九 儀七

(九一九一八)

御内意之覚

宇土郡宇土町

儀七

一 錢五百目

但龍口御屋敷御類焼^ニ付、寸志差上候分。

一 同壹貫七百貳拾貳匁

但御才覚錢御返濟殘、右同断

一 同貳貫六百四拾九匁

但松山手永布古閑村之者共、右儀七より貸渡候錢辻并預馬

恩米代等、右村零落^ニ付、寛政五年御救立被仰付候砌、捨方

仕候由、此節寸志^ニ被召加被下候様、御惣庄屋より願出候付、

則別紙村方より之書付共相添、御達仕候。

合四貫八百七拾壹匁

右儀七儀、右之通、追々寸志差上、且難波之村方江貸渡置候錢辻捨

方を^茂仕、寄特之儀^ニ御座候間、乍恐被賞、苗字、刀被成御免、御郡

代直触被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜敷被成御參談可被下候。

以上

十一月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

御内意奉願覚

一 錢貳貫六百四拾九匁

右者 松山手永布古閑村零落^ニ付而、去ル寛政五年五月御救立被仰付

候砌、宇土町儀七と申者より、右村江貸渡置候錢辻并預ケ馬恩米代、

右之錢高捨方仕候由、此節儀七より申出候^ニ付、村方吟味仕候処、

其節本行之錢辻捨方仕候儀、少^茂相違無御座、一稜之救^ニ相成候段、

村役人共より申出候^ニ付、此節相しらべ、則村方書付別紙相添御達

申上候。委クハ村方書付之通^ニ而、寄特之至^ニ奉存候間、乍恐寸志

^ニ被為差加被下候様奉願候。此段宜様御參談被為成可被下候。為其

覚書を以申上候。以上

文化四年十一月

小山改蔵 ⑩

近藤英助殿

儀七儀、願之通被仰付哉。

選挙方 御奉行中

四〇 茂左衛門

(九一九一八)

御内意之覚

郡浦手永手場村

茂左衛門

一 錢五百目

但江戸御屋敷御類焼^ニ付、寸志差上候分。

右茂左衛門儀、先年寸志之訳被対、礼服御免被仰付置候処、此節猶

又右之通寸志差上、寄特之儀^ニ御座候間、乍恐被賞、苗字被成御免、

御惣庄屋直触被仰付被下候様。

同手永宮庄村

一 錢三百目

徳右衛門

右者 江戸御屋敷御類焼ニ付、寸志差上、寄特之儀ニ御座候間、乍恐被賞、傘・合羽御免被仰付被下候様。

同手永下恵里村

林作

一 同百五拾目

右同断寸志差上、寄特之儀ニ御座候間、乍恐被賞、傘御免被仰付被下候様。

右之通、夫々御賞美被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜敷被成御参談可被下候。以上

十一月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

茂左衛門儀、願之通ニ考、寸志高不足仕、無苗ニ而御惣庄屋直

触之見合ニ相当候間、其通可被仰付哉。

徳右衛門儀、傘・合羽可被成御免哉。

林作儀、傘可被成御免哉。

選挙方 御奉行中

四 一 恵三郎

(九一九一八)

御内意之覚

宇土町丁頭

一 錢五百目

恵三郎

但御類焼ニ付而寸志差立候分

一同三貫七拾五匁

但御才覚錢御返済残去ル亥冬右同断

一同三貫貳百參拾九匁

但宇土町惣兵衛・清七・弥平次・次七より調達仕候。

御才覚錢御返済残忠三郎引請去冬奉願寸志差上候分。

合六貫八百拾四匁

右忠三郎儀右之通寸志差上寄特之儀ニ御座候間、乍恐被賞苗字・刀被成御免、御郡代直触ニ被仰付被下候様。

松山手永網津村

一 錢貳貫目

但御類焼ニ付而寸志差上候分

太平次

右太平次儀天明二年宇土御館江寸志指出、礼服・傘等御赦免ニ相成居候処、此節右之通寸志差上、寄特之儀ニ御座候間、乍恐被賞苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付被下候様。

同村

一同貳貫五百目

太右衛門

右者 御類焼ニ付寸志差上寄特之儀ニ御座候間、乍恐被賞苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付被下候様。

宇土町

一 錢百五拾目

善七

但御類焼ニ付而寸志差上候分

一同貳貫四百六拾目

但御才覚錢御返済残去ル亥冬右同断

一同四百拾匁

但宇土町長次郎調達仕候、御才覚錢御返濟殘、右善七引受去冬奉
顯右同斷、

合三貫貳拾目

右善七儀右之通寸志差上寄特之儀、御座候間、乍恐被賞苗字被成御
免、御惣庄屋直触被仰付被下候様。

右之通々々御賞美被仰付被下候様、於私奉願候、此段宜被成御參談可
被下候。以上

二月

御郡方

御奉行衆中

忠三郎儀太平次・太右衛門儀苗字・刀被成御免、御郡代直触
被仰付、善七儀苗字被成御免、御惣庄屋直触被仰付哉、

選舉方 御奉行中

四二 丈助

(九一一九一八)

御内意之覚

松山手永御惣庄屋

直触築籠村

一錢壹貫六百四拾目

丈助

右丈助儀宇土町源次郎・吉左衛門・新七より調達仕候。御才覚錢御
返濟殘分、此節引受寸志、指上寄特之儀、御座候間、乍恐被賞丈助
儀苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付被下候様、於私奉願候。
此段宜被成御參談可被下候。以上

十二月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

丈助儀願之通可被仰付哉

選舉方 御奉行中

大津会所手代

齊藤尉次

右者合志郡大津手永御惣庄屋被仰付、御代官兼帶被仰付、御知
行高三拾石可被下置哉。

以上

選舉方

三月

御奉行中

四三 藤井常右衛門

(九一一九一八)

御内意之覚

下益城廻江手永

御惣庄屋 藤井常右衛門

当卯五十六歳

右者明和七年十一月親跡廻江手永御惣庄屋役、御代官兼帶被仰付、
安永四年藤井と相改申候。

一天明二年二月宇土御屋敷江御呼出、和泉守様御目通仕、御懇意被
仰付、彼方御知行所村々諸事誠実、世話仕候旨、一葉桐之麻上下
一具被下置候。

一先年淨庁院様御尊体薩州江御下之節、從公義織田圖書様御付下之
節、下益城・宇土人馬ハ八代江相詰、日奈久迄差立申候節、右人馬
為支配常右衛門出役申付、八代町正嚴寺境内、兩御郡人馬寄置、

印鑑別之人馬段々差立候處、印鑑外之人馬受取候面々多ク、極々及難渋候由、殊^ニ其夜^者風雨烈數不怪混乱^ニ而、取計筋必仕度差支候付、常右衛門儀彼方伝馬方御役人^江懸合、段々申談種々心配出精仕候付、諸事無滞相済申候由御座候。

一 天明四年薩州様御登候節、正月十八日小川御泊^ニ而、翌十九日御道筋御放鷹被成。六弥太通常右衛門宅^江御小休可被成候間、御供中昼賄八拾人を用意御頼被成候段、前晚於小川彼方御家来中より懸合有之候付、直^ニ引取早々手配仕候様、其節先役共より申聞付直^ニ引取夫々用意仕候處、御先番之面々相見、間内等見分有之御入奉待居候由之處、御様子違^ニ相成。直^ニ河尻之様被成御出候、然處即夕河尻御泊^江被召出、彼之方旅方より今日御小休間違^ニ相成候^ニ付^而者段々心配^ニ相成候由^ニ而、金子三百疋被為拜領候。

一 同年三月朔日於御奉行所、先達^而松平薩摩守様御通行之砌、廻江会所^江御小休可有之由急成ル儀候處、夫々無間抜取計別^而心遣いたし候付、被賞作紋麻上下一具被為拜領候。

一 同年六月大詢院様御獵之節、廻江会所^江被為入直^ニ御案内申上候様被仰付候付、御先^ニ立御案内申上候處、鳩二被遊御簡獵暫御小休之上被遊御帰座候。

一 天明八年三月廿三日於御奉行所、杉嶋・廻江・守富在田方養水不自由^ニ付多年致工夫、水取之仕法組立、数十日之間大造之御普請引受致出精、其外手永中通之厚心を用、抜群出精相勤候旨^ニ而、御知行高拾石被増下候。

一 同年七月十九日於御奉行所、篠原兵八郎砥用手永御惣庄屋所替被仰付、今迄之御知行高^ニ尚拾石被増下、御代官を^茂兼帶被仰付、同八月砥用^江引越之由、然處砥用手永之儀至^而及零落一休惰農^ニ有之、甚風

俗惡敷御年貢諸上納等極々不埒^ニ御座候由之處、段々教諭を加三十ヶ村御救立奉願、鳥目八拾疋貫五百目拜領仕、村々立直之仕法筋昼夜心を尽差はまり、格別出精仕候由之處、其後段々風俗引改力田^ニ基候由御座候。

一 同年七月廿二日宇土御屋敷^ニ而、彼方御知行所村々之儀多年厚世話仕候旨^ニ而、一葉桐羽二重・御單羽織一被下置候。

一 寛政元年二月砥用会所土喰村東上手^ニ引直、新規建方奉願、会所初御田綴藏御内検、詰小屋共同十月迄^ニ夫々成就仕候様出精取計申候。然處兼^而用水乏敷所柄^ニ而、出火等之節極々不弁利^ニ御座候處、津留川筋川上より数百間新井手を立、会所内より原町筋流通候仕法を付候付、只今^ニ至候^而者所柄一稜之為^ニ相成申候。是又前文会所建方造用錢之内五貫五百目^并寛政五年正月砥用御出之節会所向取繕雜用錢四貫五百目余前後、都合拾貫目余常右衛門自勘^ニ差出候趣。

一 同年十一月砥用手永再地引合御用出精相勤候段、御間^ニ御聞届^ニ相成候段、御達之趣申渡候。

一 寛政二年三月於御奉行所去六月御巡見様御通行之砌、出精相勤候旨^ニ而、金子百疋被為拜領候。

一 同三年正月十七日より砥用山々為御狩被遊御出候處、寛政元年建方^ニ相成候内、一間御居間^ニ相成、十八日十九日兩日被遊御滞座、同廿日矢部^江被遊、御引移前渡出精相勤申候由御座候。

一 同年八月七日当春為御狩砥用^江被遊御出候節、御本宿被仰付候處御本宿被仰付候處、御出方を^茂不奉願自勘^ニ而取繕、御狩一卷抜群心を用、出精相勤候^ニ付被賞、作紋紬・單羽織一被下置旨^ニ而、御奉書を以被為拜領候。

一 同年十一月廿七日御手船初日九当四月高波之節、御積登之御米濡俵

相成候を、杉嶋・廻江両手永村々^ニ蒸干・俵持等被仰付候砌、砥用より罷越急場之取計致出精候付、金子貳百足被下置候旨御奉書を以被為拝領候。

一同五年正月廿七日砥用山為御狩被遊御出、同廿一日迄御帶座、翌廿二日被遊御帰座候、右始末御用筋極々繁雜^ニ御座候由之處、諸事無間拔出精相動候由、右御狩内御意之趣も有之候付、其節之様子別紙相濟御達仕候。

一同年二月於御花畑先役水野伝左衛門^江左之通

先達^而砥用山御狩一件^ニ付^而考^ニ藤井常右衛門儀、厚致世話御射目其外共^ニ手都合宜、御獲も多有之、不斜御機嫌、仍思召^ニ而^ニ御陳鎌耆本御持、御記録五冊御内分を以常右衛門^江被下置候条、家宝^ニ可仕旨^ニ被為拝領候。

一寛政六年二月廿五日於御奉行所、砥用手永之儀至^而零落之所柄^ニ候処、先年所替被仰付候、以来教示等行届候様子相聞且御救立等^ニ付^而も、厚心を用出精相動候^ニ付、被賞目録之通被下置、今迄之御知行御加増分共持懸^ニ而^ニ廻江手永^江所替被仰付、御代官を^茂兼帯被仰付旨^ニ而^ニ作紋単羽織一・金子貳百足被為拝領候。

一同八年二月十三日於御奉行所、御上金被蒙仰候節、手永々々より寸志之米錢差出候、一件初発委敷申談取計筋致出精候^ニ付、目録之通被下置旨^ニ而^ニ作紋小袖一被為拝領候。

一同九年夏薩州様御下国之砌、山鹿御泊之節、仮番所御家人詰方無之、其上飽田より御先払之御家人罷出不申由之處、於小川駅彼之方旅方児玉万平衛より相尋候^考、每通行之節^考押之御人^ニ差出候処、此節右所御人不分差出、畢竟御省略被仰付候^而之事候哉、左候得^考明年登り之節よりハ於此方心得も有之候段、懸合有之、甚煩敷様子^ニ御

座候付、先役共より内済之儀取計候様申聞、万兵衛旅宿^江差越候由之處、万平衛儀其内出立仕候付跡を追、夜通芦北迄罷越、而所御家人出方間違^ニ相成候^ニ尤成ル訳を付、段々申達取計候付、表立不申無事^ニ相済申候由御座候。

一同年七月廿日宇土御用向兼^而世話仕、且又去夏洪水之節、御知行所川塘筋破損所御普請^ニ付^而も、格別世話仕候旨^ニ而^ニ一葉桐御帷子一被下置候。

一同年八月十九日於御奉行所、去夏洪水^ニ付^而御普請方致出精候付、目録之通被下置旨^ニ而^ニ作紋帷子一被為拝領候。

一同九年十一月於御奉行所、砥用手永在勤中、御狩御出之節之御本宿取締其外、会所御田初藏^并御惣庄屋居宅新規建替入目録之内、寸志差出寄特之至^ニ付被賞独礼被仰付、当目録之通被下置旨^ニ而^ニ揃御紋御給羽織一被為拝領候。

一同十年五月十一日於御奉行所御才覚錢一件取計筋致出精候付、目録之通被下置旨^ニ而^ニ作紋単羽織一・金子貳百足被為拝領相動居候処、享和元年三月除役被仰付、下益城一領一足被仰付候。

一享和二年八月九日於御奉行所御切米八石貳人扶持被下置、侍尔御横目役被仰付人扶持之加扶持^并並之通毎歳御銀被下置、御次番之支配^ニ被仰付候。

一同年十二月廿九日於御次鴨網漁船等取揚差出致出精候^ニ付、金子百足被為拝領候。

一同三年十二月、武町川筋^ニ流シ締^ニ而^ニ鴨を取候者見当り、飛船より追懸申候処、右之もの^考逃去候由^ニ而^ニ乗捨候、沖漁船老艘締共^ニ取揚差出申候由御座候。

一文化元年四月四日於御奉行所独礼被仰付、津留李太郎廻江手永御惣

庄屋被仰付、御代官を^茂兼帶被仰付、御知行高三拾石被下置、下益城御郡代支配^ニ被仰付候。

一文化二年河江手永下郷村海辺^ニ而、左馬助殿より差上^ニ相成候御赦免開塘筋、御普請志摩是助引受被仰付、右為立合出役申付候處、六月より同八月迄彼方^江小屋懸仕引越、数十日之間始末自勘^ニ而相勤申候。

一天明二年錢友手永道古閑井樋会所被差止、井樋御作事之儀御郡引受被仰付候^ニ付、下益城之儀^者杉嶋手永於国町村井樋小屋取建、井樋方助役兩人御家人之内より申付、定例不事御作事共取計来候處、去寅年より稠敷御儉約被仰付候^ニ付、井樋方助役被差止御惣庄屋共手永銀引受申付、会所内^ニ而井樋小屋取建切組指立等、一切取計候^ニ付、以前之助役勤新加扶持分共^ニ拾七石余御益^ニ相成申候、併夫丈手永々々御惣庄屋共手前之儀^者近年受免被仰付、下地之御用至^而繁雜之上尚各別手数相増、廻江手永之儀^者三百六拾艘余之井樋数^ニ而新規取繕共^ニ者年々余計之御作事^ニ御座候得共、各別出精仕、是迄^者少^茂無手拔取計申候。

一皆済目錄之儀^者御代官專御取立之精粗^ニ係り候儀御座候處、数十年來非常之凶作^者格別大体之年柄迄^者十二月朔日を限、御算用仕上來申候、利境古米御算用^者右^ニ准^シ、急速^ニ仕上申候儀余り類^者有之間敷哉と奉存候。畢竟是等^者兼々御取立方心懸厚、出精仕候故と相見申候。

一当春羽倉權九郎様御囲紐為御見分支配所御通行之節、御付廻申付候處、松橋豊福御小休差懸、小川御昼休^ニ相成、御賄等之儀急場之儀^ニ御座候處、大塚一五郎申談、厚世話仕、諸事速^ニ取計候付、万端無滞相済申候。

一常右衛門儀再勤以前、追々御知行式拾石御加増被仰付候處、再勤之御座席^者前々之通被仰付候得共、御加増分^者不被返下候。且又去ル亥年以來受免被仰付、上米等上納被仰付候付^而者、高巻万石以上之手永請持居候。御惣庄屋共^者被賞惣^而拾石究御知行被増下候得共、廻江手永之儀受免初一ヶ年ハ津留本太相勤居、翌子年より常右衛門再勤被仰付候付、其節一統、付^而者之御加増^茂拝領不仕候。然処受免以來年々非常之凶作迄打続候、付^而者内輪種々辛勞強キ様子^ニ相見申候得共、昼夜一身を委、各別出精仕候^ニ付、是迄御難題^ニ相成不申様取計申候。左候得ハ受免守成之功^者全常右衛門^ニ有之儀^ニ付、其上別条之通也。勤勞親代々役以來当年迄都合四十一ヶ年出精相勤申候間、乍恐被賞最前追々御加増之、御知行被為拝領猶受免^ニ付^而脇並之通御知行拾石被増下候様、有御座度於私奉願候。左候ハ^ハ於其身^者弥以出精仕、御郡中御惣庄屋共^者励^ニも相成可申奉存候間、不聞御内意仕候間幾重^ニも宜敷被成御讃談可被下候、以上、

文化四年十月

安藤清助

御郡方

御奉行衆中

常右衛門儀廻江手永御惣庄屋再役被仰付候以後四年^ニ相成年數無之候付、以前之御知行御加増分式拾石被下置儀^者難叶可有之哉。然処御知行取御役被差添候計^ニ而者、御加増分^者不被召上由^ニ御座候。御惣庄屋之儀^者役^ニ因^而、御知行被下置御加増も被仰付儀^ニ者、左候得共御老中前条之趣之由も有之候間、常右衛門儀以前在勤中^ニ被下置候。御加増分拾石。以前在勤中^ニ被下置候御加増分式拾石、此節可被下置哉。且又在中上ヶ米受免しらへ等申談、出精付^而御惣庄屋共ハ御知

行御加増被下置儀ハ文化元年^ニ而御座候。尤小手永御惣庄屋共^江ハ御加増不被下置、御賞賜被仰付たる儀^ニ御座候。其節常右衛門儀ハ在勤^ニ而無之候間、只今右之御加増分ハ難被下置可有之哉。

十二月廿九日江戸へ伺

選舉方

御奉行中

嶋田嘉津次方付紙

御郡代申達之通^ニ者可有之候得とも、詮議之通請免しらへ^ニ付^而も、増録^者不被仰付候方^ニ可有之被召上置候、御加増知此節被下置候ハ其辞令之内^ニ受免之事も錢^ツ申渡^ニ相成可然哉。

一常右衛門 先祖付扣略ス

四四 江口理助 他

(九一九一八)

御内意之覚

宇土郡一領一疋 馬瀬村居住

一 錢沓貫目

江口理助

右^者龍口御屋敷御類焼^ニ付、本行之通、寸志差上、奇特之儀^ニ御座候間、乍恐被賞、諸役人段被召直被下候様。

宇土町喜兵衛忒

一 同沓貫五百目

宇兵衛

右^者右同断^ニ付、父喜兵衛より寸志差上候分。

一 錢九貫貳拾目

右^者宇土町伊勢田弥兵衛列より調達仕候御才覚錢御返済残、右喜兵

衛引請、其身より調達仕候御才覚錢御返済残分、一同寸志指上候分。合拾貫五百貳拾目

右之通、追々寸志指上、奇特之儀御座候。然処父喜兵衛儀^者、最早老衰仕、且病身^ニ茂御座候間、乍恐忒宇兵衛を被賞、苗字・刀被成御免、町独礼被仰付被下候様。

右之通、夫々御賞美被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜被成御参談可被下候。以上

十一月

近藤英助

御郡方

御奉行衆中

利助儀、寸志高見合^ニ当り候間、願之通諸役人段可被仰付哉。喜兵衛儀寸志高も見合^ニ当候付、忒宇兵衛儀、願之通苗字・刀被成御免、町独礼可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

御内意之覚

宇土町別当列

一 錢百五拾目

清助

但御類焼寸志差上候分。

一 同九百目

但右同追寸志差上候分。

一 同四貫九百貳拾目

但宇土郡一領一疋宮嶋金次、父宮崎專助より調達仕候御才覚錢御返済残、先達^而奉願、右清助引受、寸志差上候分。

一 同沓貫四百七拾六匁

但宇土町九平次より調達仕候御才覚錢御返済残、右同断。

一 同八百貳拾目

但同町永平次より調達仕候御才覚錢御返済殘、右同斷。

一 同四百拾匁

但同町市兵衛より調達仕候御才覚錢御返済殘、右同斷。

錢合八貫六百七拾六匁

右清助儀、右之通追々寸志差上、奇特之儀、御座候間、乍恐被賞、

苗字・刀被成御免、町独礼被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜被成御參談可被下候。以上

四月

杉谷伊兵衛

御郡方

御奉行衆中

清助儀、苗字・刀被成御免、町独礼可被仰付哉。

選舉方 御奉行中

四五 江本松太郎

(九一—一九一八)

御内意之覚

御郡代直触^{ニ而}先達^{ニ而}病死仕候江本吉左衛門

養子

江本松太郎

当辰十七歳

右松太郎養父江本左衛門儀、明和元年閏十二月寸志指上申候付被賞、苗字・刀御免、御郡代直触^{ニ而}被仰付、其此迄^者、松山手永御家人手少^有之候付、御郡並之請御用等専相勤、烏乱者見拟をも、村分を以請持申付置、当年迄都合四十五年手全^ニ相勤居申候處、当閏六月病死仕候。

一 右吉左衛門伴江本庄太郎と申者、松山手永御家人手足不申、諸御

用指支候付、寛政元年四月宇土郡地土^ニ被召出、当年迄二十年出精相勤居申候處、是又当六月病死仕候。

右之通、吉左衛門・庄太郎兩人共^ニ病死仕、右松太郎儀、未若年^ニハ

有之候得共、筆算等之心懸宜、炮術も稽古仕、往々御用^ニ相立可申者と及見申候。松山手永之儀、今以地土手少御用指支候儀、間々有

之候付、去冬^茂地土式人新規^ニ被召出候程之所柄^{ニ而}御座候間、恐多奉存候得共、地土^ニ被召出被下候様有御座度、於私奉願候。此段御

内意仕候条、可然様被成御參談可被下候。以上

八月

杉谷伊兵衛

御郡方

御奉行衆中

松山手永之儀、地土少^{ニ而}御用差支候由、本行之通達有之、御

家人少^{ニ付而者}、新々^{ニ茂}地土被召出儀^{ニ付}、松太郎儀、願之通

地土可被召出哉。

選舉方 御奉行中

覚

宇土御郡代直触^{ニ而}相果候江本吉左衛門養子

江本松太郎

歳十七程

右^者人物相替儀無之哉、松山手永之儀、地土少、御用差支候由^{ニ付}、地土可被召出哉之旨^{ニ付}、承續申候處、柔和成人物之由。炮術ハ中村三左衛門代見、郡浦手永御家人高濱孫助申談、稽古仕、筆算も可也^ニいたし候由。右之通被召出、相勤可申由承申候。且役跡^{ニ付}、相替唱^茂相聞不申候。以上

辰

九月 日

御目附衆中

森川七右衛門

四六 柘植寿迪、浦上真広

(九一—九一八)

御内意之覚

松山手永篠原村居住、御郡医師並

柘植寿迪

当辰八十三歳

右寿迪儀、宇土町内応寺支配^{ニ而}居申候処、医業宜、療治方手広出精仕候旨^{ニ而}、安永六年六月御郡代直触^{ニ而}被仰付候。

一 松山手永等岩村中、安永九年之冬より翌年夏迄、疫疾流行仕、男女百三拾人余相煩申候処、右寿迪昼夜之無指別^{ニ而}出精仕、其上人参をも、寿迪調候^{ニ而}相用、一切施薬^{ニ而}深切^{ニ而}療治仕候付、天明元年九月作紋御給羽織一被為拝領候。

一 寿迪儀、連々心懸能、内外之療治方手広、且津波即下怪我・病人等之療治方心を用、施薬致、塘手御普請之節も罷出、出精仕候旨^{ニ而}、寛政五年三月御郡医師並^{ニ而}被召直候。

一 寛政十年以来、篠原村疫疾流行、大勢相煩候処、右寿迪父子昼夜打懸り、療治方各別出精仕候^{ニ付}、私共支配銀之内より銀三両宛、寿迪父子^江指遣申候。

一 再春館開講無懈怠出席仕候由^{ニ而}、文化三年正月銀老枚、於再春館被為拝領候。

右之通、追々結構^{ニ而}被仰付候付^{ニ而}、弥次御用向者勿論、村々病用之

儀心懸厚、出精仕、当時^{ニ而}者、父子孫三、四人^{ニ而}者、療治方昼夜立走り、手広出精仕、篠原・両新開・伊津野・鶴見塚・笠岩・上下網津・網引、其外長浜二丁辺^江も懸ケ、大曲・三ツ枝筋之儀ハ、船着^{ニ而}旅船必多度入込、相滞居候内、船頭・加子等之療治方^茂受持程^{ニ而}、出精仕、寿迪儀、当年八十三歳^{ニ而}罷成申候得共、今以達者^{ニ而}有之、日夜病家打廻り、至^{ニ而}珍敷老人にて、近年在中不作打続、謝礼等も乏ク、間^{ニ者}施薬同前之者^茂有之候得共、少も親疎之無隔意、深切^{ニ而}療治仕、兼々貧民之為^{ニ而}相成、数十年来、右之通各別心懸宜有之候間、恐多奉存候得共、相応被賞被下候様。

同手永佐野村居住、御郡代直触医師

浦上真広

当辰六十七歳

右真広儀、根元浦上十兵衛支配浪人浦上勘助育之弟^{ニ而}、祖父一雲と申者より三代医業之家にて、真広儀、幼年之比より下益城廻江手永阿高村居住、御郡医師並小林周軒門弟^{ニ而}相成、周軒方^江引越、数年医術執行仕候処、習熟仕候付、明和四年五月右周軒方より別業之儀奉願、御免被仰付候由^{ニ付}、師家を引取、当分佐野村^江入医相願、右村^江罷越、再春館^江も、其比ハ無懈怠出席仕、療治方出精仕居申候処、天明六年十二月医業心懸能、出精仕候旨にて、御郡代直触^{ニ而}被仰付、其以後之儀、御郡並之御用^者勿論、療治方弥以出精仕居申候。惣体真広儀、生得正直成者^{ニ而}、医道委ク学力等も相応^{ニ者}有之由、第一病用申参次第、其節速^{ニ而}罷越、貧福親疎之無指別、深切^{ニ而}療治仕候付、次第療治方多相成、近村ハ大形真広療治懸^{ニ而}相成候由、佐野村近在之儀ハ、山付・片鄙之所柄^{ニ而}、零落村多く、別^{ニ而}近年打続之不作^{ニ付}ニ而、謝礼等遺得不申者も間々多く、施薬同前之儀も有

之候得共、少^茂無隔心、数十年懇^ニ療治致遣、寄特之様子^ニ相聞申候間、恐多奉存候得共、相応^ニ被賞被下候様。
右之通於私御内意奉願候。願之通被仰付被下候ハ、弥以出精仕、貧民之為^ニも相成可申と奉存候間、可然様被成御參談可被下候。以上

七月

御郡方

御奉行衆中

壽迪儀、医業吟味役^江及間合申候處、家業心懸能、治療習熟、及老年候得共、病用手広いたし候由、違有之候。先年被賞、作紋拾羽織被下置候付、此節^著作紋小袖一可被下置哉。

選舉方 御奉行中

真広儀、医業吟味役^江及間合申候處、家業心懸能、治療習熟、病用出精いたし候由、違有之候間、銀五両程も可被下置哉。

選舉方 御奉行中

覚

松山手永篠原村居住、御郡医師並

柘植壽迪

右^著家業心懸能、治療習熟いたし、及老年候得とも、病用手広いたし候様子、見聞仕候。相応被賞、可然奉存候。此段御達仕候。以上

十月

岡田宗雪

南 漸

覚

松山手永佐野村居住、御郡代直触

浦上真広

右^著家業心懸能、治療習熟いたし候様子、見聞仕候。相応被賞、可然奉存候。此段御達仕候。以上

十月

岡田宗雪

南 漸

(文化六年)

四七 源藏

(九一—九一九)

御内意之覚

宇土町丁頭

一寸志錢六貫四百貳拾目八分

源藏

内

考貫五百目

但御類焼寸志三ヶ年上納^{ニ而}、皆済仕候。

三貫六百九拾目

但御才覚錢御返済殘、寸志^ニ指上申候分。

八百貳拾目八分

但宇土町又次郎、右同御返済殘分、右源藏引受、寸志^ニ指上申候分。

但同町作右衛門分、右同断。

四百拾匁

右之通、源藏より寸志差上申候間、乍恐被賞、苗字・刀御免、御郡代直触^ニ被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候間、可然様被成御參談可被下候。以上

十二月

杉谷伊兵衛

御郡方

御奉行衆中

源藏儀・苗字・刀被成御免、御郡代直触可被、仰付哉。

選舉方 御奉行中

四八 太平次

(九一九一九)

御内意之覚

宇土町新三丁目丁頭

一 錢五百目

太平次

但御類焼寸志、去暮上納仕候分。

一 同壹貫七百貳拾貳匁

但同町伯父太兵衛、去ル巳年被仰付候御才覚銀御返済殘、

寸志、差上置候を、甥右太平次、引讓申候分。

合貳貫貳百貳拾貳匁

右之通御座候間、乍恐太平次儀被賞、町人数、苗字御免被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候間、可然様被成御参談可被下候。以上

二月

杉谷伊兵衛

御郡方

御奉行衆中

太平次儀、願之通苗字可被成御免哉。

選舉方 御奉行中

五月廿七日申渡済。

四九 藤本茂作

(九一九一九)

御内意之覚

宇土町別当

一 錢壹貫目 御類焼寸志

藤本茂作

但上納相済申候

一 同六百九拾目 御才覚錢寸志

合壹貫六百九拾目

但茂作儀、天明二年十月新町庄屋役申付、同八年六月迄相勤申候處、同年同月庄屋役、差免、町別当助役申付、寛政元年別当本役、申付、同二年八月迄相勤申候處、病氣に付、断願出候間差免、其後快復仕候付、同六年九月別当再役仕せ、同十年迄相勤申候處、猶又病氣指発り、役儀断願出候、付差免、其後快復之上、享保三年九月本町庄屋役申付、文化元年七月新町庄屋役も兼帶仕せ置候處、同三年六月新町庄屋、差免、町別当役、兼勤仕せ置候。前々より別当役之儀、式人、相勤候所柄、老人役、申付、本町庄屋役も兼帶、相勤居申候得共、何分兩役老人、勤兼申候、付、断願出候間、庄屋役差免、町別当役迄相勤居申候。右之通天明二年以来、別当庄屋役も度々申付、其上当時、別当役老人、相勤候、付而者、平日骨折、心遺強、往還宿町、往来通行之宿役、或建馬等之取計、且和泉守様御屋敷下、彼方御用等も多有之、格別繁雜之役柄老人、庄屋役迄、暫者兼候、而相勤、諸御用筋無滞、其時々速取計、其上宇土町出銀之儀、近年改正、申付置候所、夫々行届、拔群出精相勤居申候間、寸志、不抱御賞美筋之儀、格別奉願見込、御座候處、右之寸志、去暮迄、上納相済候儀、付、此節一同御賞美奉願候間、乍恐旁被賞、刀御免、御郡代直触、被仰付被下、外、何ぞ相応之御品被為拝領被下候様有御座度奉願候。左候ハ、弥以出精相勤

可申と奉存候。

宇土町

木村又右衛門

一 錢考實目 御類焼寸志

但本行之錢高寅卯辰三ヶ年ニ上納相濟申候。

一 同六百九拾目 御才覚錢寸志

合考實六百九拾目

但又右衛門儀、前廉寸志錢四百目指上、家内共自分宅ニ而、影

踏被仰付置、宇土新町庄屋役数年相勤居申候處、病氣ニ付、

依頼役儀差免、快復仕候ニ付、寛政十一年宇土町別當役申

付、文化二年十一月迄相勤申候處、病氣ニ罷成、斷願出候ニ

付、差免申候。右之通別當・庄屋前後之勤功も有之候間、旁

被賞、乍恐刀御免、御郡代直触ニ被仰付被下候様奉願候。

右之通乍恐被賞被下候様有御座度、於私御内意奉願候。此段可然様

被成御參談可被下候。以上

六月

御郡方

杉谷久兵衛

御奉行衆中

茂作儀、本行之通寸志差上置、別當・庄屋役之儀も、全二十
年余相勤、出精仕候段、書面之通ニ付、願之通御郡代直触被、
仰付、作紋上下一具可被下置哉。

選舉方 御奉行中

又右衛門儀、本行之通寸志差上置候間、願之通御郡代直触可
被仰付哉。

選舉方 御奉行中

右之通被仰付候。以上

文化六年九月

町孫平太

奥田權之允

(文化七年)

五〇 井上源三郎 他

(九一一九一一〇)

御内意之覚

宇土町独礼

井上源三郎

一 錢七貫目

但御類焼寸志

一 同考實貳拾三匁

但御手当寸志米拾石五斗六升、三斗貳升入考俵ニ付、三拾匁
匁完。

合八貫貳拾三匁

御郡代直触、宇土町居住 桑原文七

一 錢六貫目

但御類焼寸志

一 錢九百三拾目

但御手当寸志米九石六斗、三斗貳升入考俵ニ付、三拾匁匁完。

一 同七貫百目

但松山手永去秋不作ニ付御損引、下り米不足分
ニ寸志。

合拾四貫三拾目

外ニ

錢拾八貫六百三拾五匁

但松山手永下松山村・江部村・城神山村・馬場村御百姓共之
内、田畑・家居等賃入仕置。年々恩米出シ来候由。

右之通^ニ而者、零落^ニもの共、年増及難^ニ成立之期も相見不
申候間、捨方之儀、重疊御惣庄屋より申談候處、納得仕、捨
方仕候分。

右者夫々上納相濟申候間、乍恐被賞、兩人共土席浪人格^ニ被仰付被
下候様。且文七儀^者、前条之通質代錢捨方仕、零落之御百姓共成立
之基^ニ相成申候間被賞、御紋附之御品被為拜領被下候様、重疊乍恐
奉願候。此段御内意仕候間、可然様被成御參談可被下候。以上

正月

御郡方

杉谷久兵衛

御奉行衆中

源三郎儀、願之通可被仰付哉。宇土町之儀、五ヶ所町^ニ被準
候事^ニ付、寸志御賞美筋等^茂、都而五ヶ所町同様之御取扱^ニ相
成申候間、文七儀、當時之身分^ニ四貫目持せ、此節之寸志高
拾貳貫目^ニ而、土席浪人格可被仰付哉。左候得ハ、貳貫目録過
^ニ相成、外^ニ質地代錢捨方仕候次第、本行^并別紙覚書之通
^ニ而、通例之捨方とハ様子も違、元高拾八貫目余^ニ而、一稜所
柄之為^ニも相成候由^ニ付、右過錢も有之、旁桜御紋附御小袖
一可被下置哉。

七月四日申渡

覚

一 錢老貫八百貳拾目	松山手永
一 同六貫七百五拾五匁	下松山村
一 同六貫七百四拾目	城神山村
一 同三貫三百貳拾目	馬場村
合拾八貫六百三拾五匁	江部村

右者田畑・家居等、右四ヶ村御百姓之内、御年貢支^ニ而、私方^江質売
仕、年々恩米相払来候處、先達而元錢拾遺、証文指返し候付^而ハ、右
証文村々より御会所^江指上、捨方之様子御内達仕候由。右之通相違
無御座候哉。様子可申上旨、御尋之趣奉得其意候。右地方等、質^ニ
召置候儀、近來之事^ニ而、未々年數^茂無御座、殊^ニ作毛宜敷年柄ハ、
錢百目^ニ米老斗之完を以、恩米作^ニ相極メ、不作之年柄ハ、右之内よ
り相応^ニ引方^茂仕来申候處、右之地方等、捨方仕候様^ニとの儀^ニ付而
ハ、村々庄屋中より申談之趣^茂有之、御会所より^茂追々御内意被仰
聞、小前々々難^ニ渡之様子、無余儀奉存候^ニ付、質地代等悉捨遣、証
文夫々差返候錢高、右之通^ニ御座候。此段覚書を以申上候。以上

文化六年五月

桑原文七[㊦]

小山改藏殿

杉谷久兵衛殿

五一 小山改藏

(九一九一〇)

御内意之覚

松山手永御惣庄屋

小山改藏

右者安永七年七月養父勤助病中等之節、代役御免被仰付、天明元年
十二月親跡坂梨手永御惣庄屋・御代官を^茂兼帶被仰付、相勤居申候
處、寛政三年六月大津手永^江所替被仰付、尚又寛政十一年三月松山
手永^江所替被仰付、当年迄都合三十年代役共^ニ三十三相勤申候。
一 御巡見様御用御宿之御手入等、出精相勤、且通人・馬上見^茂を
相勤候^ニ付、寛政二年三月金子貳百疋被為拜領候。

一 大津手永村々去ル亥夏洪水以後、塘手損所御普請、且夫仕等委心を用、其外荒地開明^{ニ付而茂}、出精相勤候由^{ニ而}、寛政四年六月金子貳百疋被為拝領候。

一 去ル子ノ年洪水^{ニ付而}、塘手御普請厚心を用、且荒地開明を^茂、出精相勤候^{ニ付}、寛政七年六月作紋麻上下一具被為拝領候。

一 御上金被為蒙仰候節、手永々々より寸志之米錢差出候一件、初発委ク申談、取計筋出精仕候付、寛政八年二月作紋御小袖一被為拝領候。

一 役方数年心懸能、出精相勤申候^{ニ付}、同年七月自分苗字御免被仰付候。

一 去ル辰夏洪水^{ニ付而}、急場之取計筋、諸事無間拔相勤、其後所々御普請御用等、始末出精仕候旨^{ニ而}、寛政九年八月作紋御帷子一・金子百疋被為拝領候。

一 御才覺銀一件取計、心遣仕候^{ニ付}、寛政十年五月作紋御帷子一・金子貳百疋被為拝領候。

一 役方多年相勤、松山手永之儀、旱魃所多有之候處、養水之仕法厚申談、新井手・新堤追々堀方仕、水懸宜相成、且新地開明之儀^茂、心を用取計、手永中帰服いたし、出精相勤候^{ニ付}、享和二年六月御知行高拾石被増下候。

一 反懸米^{并寸志ニ付而}之取計、格別出精仕候^{ニ付}、享和三年二月金子貳百疋被為拝領候。

一 在中受免、上米等之儀^{ニ付而}、出精相勤候^{ニ付}、文化元年十一月御知行高拾石被増下候。

一 御類焼寸志一件心遣仕候^{ニ付}、文化五年七月作紋御帷子一被為拝領候。

右之通追々結構^ニ被仰付候^{ニ付而者}、弥以厚心を用い、手永内水懸之場所見計、新堤数ヶ所奉願、古堤^茂漸々と浚方仕候^{ニ付}、一ト通之旱魃^{ニ而者}、用水不足不仕様^ニ相成、既^ニ去年非常之照統^{ニ而}御座候處、照統^ニ見合候得共、旱損薄有之、畢竟改藏儀、連年心を用取計候處より之儀と相聞申候。且前文之通、今年迄代勤共^{ニ者}三十三精勤仕候間、旁々恐被賞、独礼^ニ進席被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御參談可被下候。以上

四月

杉谷久兵衛

御郡方

御奉行衆中

五日晦日伺

改藏儀、精勤之趣、達之通^{ニ付}、見合も有之候間、獨礼可被仰付哉。

五二 次平

(九一九一〇)

御内意之覺

宇土町独礼^{ニ而}病死仕候吉田清八養子

次平

右次平養父吉田清八儀、前廉寸志之詔^{ニ付而}、町別当列^ニ被仰付置候處、御類焼^{ニ付}、去々辰年錢壹貫五拾目御才覺御返済錢七貫六百貳拾六匁、都合八貫六百七拾目余寸志差上申候付、同年閏六月被賞苗字・刀被成御免、町独礼被仰付置候處、去年八月病死仕候。右之通去々年御賞美被仰付、去八月病死仕、暫之間相勤、其上清八存生之内、御手当御用米寸志五匁、代錢百五拾目余寸志差上申候。尤此

分^者纔之儀、御座候得共、清八儀、余計之錢高寸志差上、御賞美被仰付、無程病死仕候跡之儀、御座候間、恐多奉存候得共、右次平儀、養父跡式相應、被仰付被下候様、於私奉願候。此段可然様被成御参談可被下候。以上

八月

杉谷久兵衛

御郡方

御奉行衆中

次平儀、寸志^二町独礼二代目極り之通、町別当列被仰付本行寸志百五拾目余ハ、御間^二承届之段及達、同意之趣ハ難及食儀可有之哉。

選舉方 御奉行中

五三 松田三淳

(九一九一〇)

御内意之覚

宇土町居住、御郡医師並

松田三淳

右三淳儀、八代御郡代直触医師松田三達と申者之弟^二而、明和八年宇土町^江入医奉願、御免被仰付、右町^江居住仕、医業仕居申候處、本科・外科相兼、療治方出精仕、平日心懸宜、所柄之為^二茂相成候付、安永二年七月宇土御郡代直触^二被召出候。

一 寛政元年御上金之節、錢五拾目寸志差上申候。

一 療治方出精、年々貧家之者共^江施薬いたし、且先年御巡見様御通行^二付^而者、出人馬諸出錢等、余斗之儀に御座候處、松山手永村々凶作^二而、甚々難渋仕候様子及承、錢疋貫五百目諸出銀之足^二寸志仕度

奉願、相納申候處、被賞、寛政二年四月御郡医師並^二被仰付候。

一 寛政八年二月立岡堤浚方之節、出夫等難渋^二付^而、錢三拾目寸志差出申候。

一 同年八月笹原村痢病流行^二而、村方難渋仕候付、家法之龍虎丹施薬仕、且同年洪水^二付^而、村方為取救、大麦五斗三升代錢^二而式拾目差出申候。

一 享和二年十一月、関東川筋御普請御手伝^二付^而、錢五拾目寸志^二差上申候。

一 享和二年御銀所預減方^二付^而、錢拾三貫五百目寸志差上申候處、文化元年十一月三人扶持被為拜領候。

一 同年、若殿様御初入^二付^而、為冥加錢三拾目寸志差上申候。

一 同年江戶龍口御屋鋪御類焼^二付^而、右被下置候御扶持方三人扶持五ヶ年之間、寸志^二差上、外^二錢八拾六匁寸志^二差上申候。

右之米錢員數、左之通御座候。

一 米拾九石五升 文化三年寅九月より同七年三月迄、三人扶持上納相済申候分。

此代壹貫八百四拾五匁九分壹厘

一 錢八拾六匁 同年十二月寸志上納仕候分。

二 口合壹貫九百三拾匁九分壹厘

一 錢七百貳拾六匁八分貳厘 午四月より来年九月迄分引越上納奉願、此間上納仕候分。

此米七石九斗九升五合 但御双場百目^二付^而、米壹石壹斗宛

惣錢合式貫六百五拾八匁七分三厘

右之通寸志差上申候。右三淳儀、往来之旅人其外近郷難渋之者共^江龍虎丹^并調合薬等、数十年來施薬仕来、御郡医師並之勤方^者勿論

宇土町之儀、薩州、求摩御家中往來止宿等、平日絶不用、其外旅人通行多く、病用等之節々、無懈怠深切ニ療治仕候。

一 安永三年四月境目村喜平次と申者、病乱ニ而、方々狂イ走候付、冊ニ入置候而、療治方右三淳江相頼、藥用仕候處、全快仕候由、其翌年小曾部村長助と申者、同病ニ而、有之候處、至而貧窮者ニ而、療治方任心底不申候付、其節之御惣庄屋より三淳江申談、藥用仕、是又無程全快仕候由。

右之通、医業心を用、出精仕候付、安永五年正月先役より支配銀之内を以、鳥目壹貫文差遣申候。

右之通數十年來療治方、今以心懸宜、御郡並之御用者勿論、年々余計之施藥等^茂仕、御郡代直触ニ被召出候而より、当年迄三十八年各別出精仕、其上前条之通、寸志を^茂差上申候儀ニ付、乍恐被賞、御目見醫師被仰付、直ニ御郡代支配ニ被差加置被下候儀有御座度、於私奉願候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

四月

御郡方

御奉行衆中

杉谷久兵衛

三淳儀、医業吟味役^江及間合申候處、家業心懸宜、治療篤志と有之、病用相勤、施藥をもちたし候様子見聞仕、此節寸志高ニ被心候ハム、御目見醫師ニも可被仰付哉之達有之候ニ付、例吟味仕候處、文化五年下益城河江手永居住、御目見醫師福田元格儀、病氣罷成難相勤、御断申上候節、養子福田元齡儀、家業心懸宜、治療篤志、家業出精、病用手広仕候段、医業吟味役より達有之、御類焼付而、寸志三貫目差上候付、家業寸志旁を以、御目見醫師被仰付候。三淳儀、家業之様子ハ、太

体元齡同様ニ相見申候處、寸志高ハ貳貫七百八拾目余ニ而、元齡見合ニ者、貳百目余不足相見申候得共、數年施藥をもちたし候由ニ付、家業寸志旁を以、御目見醫師可被仰付哉。如何程可有御座哉。

覺

選舉方 御奉行中

宇土町居住、御郡医師

松田三淳

右^者家業心懸宜、治療篤志ニ有之、病用相勤、施藥をもちたし候様子見聞仕候。此節寸志之高ニ被心候ハム、御目見醫師ニも可被仰付哉ニ奉存候。則右三淳施藥覺書相添、御達仕候。以上

七月

岡田宗雪

南 漸

口上之覺

私儀追々施藥等仕候。被為御聞通候付、何手永何村何某^江何程之藥を施候哉之儀、記録之写差上候儀、且何年より何年迄と申儀も可申上旨、御尋之趣奉得其意候。然處右施藥之儀、何年より何年迄と究候而、施藥仕候筋ニ而者、無御座、私儀明和八年宇土町^江入医ニ罷越、安永二年七月宇土御郡代衆御直触醫師ニ被召出候以後、極難決之者^江ハ施藥仕、天明三年十二月龍虎丹調合、御免被仰付候以後ハ、專龍虎丹施藥仕候儀多ク、尤症ニ寄、調合藥相用候儀も、間々御座候得共、龍虎丹之儀ハ平日不施懷中仕居申候ニ付、宿本迄ニ而も無御座、日々出浮候得ハ、其向々ニ而茂、出合候内、貴候もの多、半包・壹包完遣候儀、日々施不申、惣体宇土町之儀、往還筋ニ而往來繁ク薩州・球磨御家中衆、止宿之節、病用申參、療治仕候内、押立候衆ハ相

応之謝礼受候も有之候得共、輕キ面々・下々等之内ニハ、施藥仕候儀、間々有之、尤株立候施藥迎者不仕候得共、數十年來日々程之施藥ニ而御座候得ハ、何時何某江何程々之貼敷施候と申儀ハ、一向手扣等も仕置不申、平日宿本江尋參候ものハ勿論、行懸・向々ニ而も、心望ニ逢施候儀御座候得ハ、貼敷、人數等之儀ハ、何分相分不申候間、宜被仰付可被下候。右御尋ニ付、口上書を以申上候。以上
午七月
松田三淳

(文化八年)

五四 井上甚平

(九一—九一二)

唐物拔荷改方御横目・御郡代手付横目、
宇土町人馬所横目兼帶、在勤中諸役人段

井上甚平

右者各別御用ニ相立申候間、御賞美之儀、去年四月願書御達仕置候處、未如何様とも被仰付無御座候。依之再応恐多奉存候得共、委細先書ニ申上候通御座候間、御別段を以被賞被下候様奉願候。則去年御達仕置候書付写相添申候。以上

正月

杉谷久兵衛

甚平儀、本行之通、内意再達有之、去年達之書付写も、別紙相添被相達候付、聞合之及達候處、頭百姓以來四十五年、小頭以後四十二年、一領一正格被召出候而三十二年ニ相成、役數無間抜出精いたし候由、別紙達之通有之候。去年諸役人段本席被仰付被下候様、願有之候處、文化二年唐物拔荷御横目、

在勤中諸役人段被仰付候以後、六年相成、間近ニ有之候ニ付、見合可被置哉と、相違置申候處、本行之通再達有之、各別御用ニ相立候者之由、聞合候趣、數十年精勤いたし候由に付、当年ニ至候而も、在勤中諸役人段以後七年ニ相成、此年數少有之候得共、各別御用ニ相立候者之由ニ付、別段を以、諸役人段本席可被仰付哉。

御内意之覺

唐物拔荷改方御横目・御郡代手付横目、

宇土町人馬所横目兼帶、在勤中諸役人段

井上甚平

右者明和四年より松山手永三日村頭百姓役相勤、同七年三月松山会所小頭ニ相成、安永三年三月根拟小頭ニ相成、同四年二月会所詰ニ申付、同七年六月親跡三日村庄屋役申付、相勤居申候處、天明元年五月宇土郡井樋方助役申付、在勤中一領壹正格ニ被仰付、同年十一月鮑田・託摩・上下益城・宇土灰石井樋御用、網津村石場見拟役兼帶申付、寛政七年八月井樋方助役持懸ニ而、手附横目役当分申付、同年二月定役ニ申付、在勤中一領壹正格ニ被仰付、相勤居申候處、在中請御免ニ付而者、見聞方繁多ニ有之、數役届兼候付、享和三年十月依願井樋方助役之儀差免申候。文化二年七月唐物拔荷改方御横目被仰付、在勤中諸役人段ニ被仰付、同年閏八月宇土人馬所横目当分兼勤申付、当年迄役儀、都合四十四年相勤申候。
一 寛政五年三月津波一件ニ付而、井樋御普請之節、昼夜相詰、各別出精仕候ニ付・作紋麻上下一具・金子貳百疋被為拝領候。
一 同八年二月數役相勤候ニ付、網津村石場見拟之儀、依願差免申候。尤數年精勤仕候付、支配銀之内を以、金子貳百疋指遣申候。

一 同九年洪水後、所々御普請所江罷出、諸事申談等、出精仕候付、金子貳百疋被為拝領候。

一 同十年五月御才覚錢一件^二付^而、心遣仕候付、金子貳百疋被為拝領候。

一 享和二年四月役方多年手全^二出精相勤候付、一領疋足本席被仰付候。

一 文化元年八月御才覚錢被返下候殘、寸志差上、且役方心懸能、出精相勤候付、旁被賞、作紋御小袖一被為拝領候。

一 同年十二月在中請御免^二付^而、出精相勤候付、作紋麻上下一具被為拝領候。

右之通、追々結構被仰付候、弥以厚心を用、精勤仕、各別御用^二相立申候。且前文之通、当年迄惣年数四十四年^二相成申候間、旁乍恐被賞、諸役人段本席被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御參談可被下候。以上

午四月

杉谷久兵衛

御郡方

御奉行衆中

五五 吉田清蔵 他

(九一九一十二)

御内意之覚

宇土郡士席浪人格、宇土町居住

吉田清蔵

御手当米寸志

一米拾九石貳斗

代錢壹貫八百六拾目

但家代名前^二而差上置候分。

右者乍恐忝相続之節、繼日被仰付置被下候様。

宇土郡一領一疋、松山手永高良村居住

御手当米寸志

伊佐寿右衛門

一米九石六斗

代錢九百三拾目

宇土御郡代直触、宇土町居住

右同

門田寿吉郎

一同拾石六斗七升

代錢壹貫三拾三匁六分五厘

但家代名前^二而差上置候分。

右同、同町居住

右同

木村又右衛門

一同拾石三斗

代錢九百九拾七匁八分壹厘

但右同断

右者何れも作紋御上下一具宛被為拝領被下候様。

御惣庄屋直触、宇土町居住

右同

満永善七

一同壹石六斗

代錢百五拾五匁

一 錢三百五拾目

但松山手永去秋不作^二付、御損引下米不足分之内、寸志差上

候分。

合五百五匁

右^者 家内不殘影踏御免被仰付被下候様。

松山手永大見村庄屋

御手当米寸志

太郎兵衛

一 米九斗六升

代錢九拾三匁

右^者 庄屋役も相動居候者之儀^ニ付、傘御免被仰付被下候様。

同手永高良村

右同

宇右衛門

一 同壺石六斗

代錢百五拾五匁

右^者 先年追々寸志差上候^ニ付、合羽・傘・小脇^ヲ着・菅傘御免被仰付置、御類焼^ニ付而、百五拾目寸志差上申候處、忤米蔵^江傘御免被仰付候。此節本行之通、寸志差上置申候間、忤米蔵^江小脇差御免被仰付被下候様。

松山手永笠岩村

御手当米寸志

吉兵衛

一 米壺石六斗

代錢百五拾五匁

右^者 御類焼^ニ付而、百五拾目寸志指上申候處、傘御免被仰付置候。此節本行寸志^ニ付而、合羽・菅笠御免被仰付被下候様。

宇土町

右同

儀七

一 同四石八斗

代錢四百六拾五匁

右^者 家内共^ニ影踏御免被仰付被下候様。

松合村御番人、在勤中諸役人段、河瀬惣兵衛家代、松山手永松合村

御手当米寸志

庄兵衛

一 米六石四斗

代錢六百貳拾目

宇土郡地主永井藤十郎家代、松山手永松合村

右同

藤太郎

一 同五石六斗七升

代錢五百四拾九匁貳分八厘

右^者 兩人共^ニ合羽・傘・菅笠・小脇指御免被仰付被下候様。

松山手永松合村

右同

徳之助

一 米三石貳斗

代錢三百拾匁

右^者 傘・小脇指御免被仰付被下候様。

松山手永御領村、傘御免

御手当米寸志

十平

一 米壺石壺斗七升

代錢百拾三匁三分四厘

右^者 小脇差御免被仰付被下候様。

同手永古保里村

右同

卯平次

一 同壺石壺斗七升

代錢百拾三匁三分四厘

同手永高瀬村

右同

平七

一 同卷石七斗七升

右同

同町

庄兵衛

代錢百拾三匁三分四厘

一 同四百九拾貳匁

同手永松合村

同町弥右衛門事

右同

米次

右同

弥左衛門

一 同卷石七斗

一 同四百拾匁

代錢百三匁六分五厘

御手当米寸志

同村

一 米六斗

右同

嶺次

代錢五拾八匁壹分貳厘

一 同卷石七斗

合四百六拾八匁壹分貳厘

代錢百三匁六分五厘

右^著何れも家内共ニ影踏御免被仰付被下候様。

右^著何れも傘御免被仰付被下候様。

唐物技荷改方御横目、在勤中諸役人段、御郡

宇土町

代手附横目兼帶、松山手永三日村居住

御才覚錢御返濟殘分寸志

庄七

御手当米寸志

井上基平

一 錢壹貫五百九拾九匁

右^著作紋御上下一具被為拜領、家内共ニ影踏御免被仰付被下候様。

代錢百拾六匁貳分五厘

同町

諸役人段、松山手永馬瀬村居住

右同

又左衛門

右同

江口利助

一 同八百貳拾目

一 同九斗六升

同町伊八事

代錢九拾三匁

右同

利三次

宇土郡一領一疋、同手永大口村居住

一 同八百貳拾目

右同

宮嶋金次

同町伊右衛門事

右同

儀平次

一 同五斗貳升

代錢五拾目三分七厘

一 同八百貳拾目

但家代名前ニ而差上置候分。

右同 宇土町独礼

榎嶋宇兵衛

右同

橘尉平

一 同四石八斗

代錢四百六拾五匁

一 同三石貳斗 代錢三百拾匁

宇土御郡代直触、高良町廻

右同、松山手永築籠村居住

右同

河野宇七

右同

中野吉兵衛

一 同九斗六升

代錢九拾三匁

一 同壹石六斗 代錢百五拾五匁

右同、御牧馬医、宇土町居住

右同

右同松山手永、小曾部村庄屋

右同

守田柳平

一 同壹石貳斗

代錢百拾六匁貳分五厘

一 同壹石六斗 代錢百五拾五匁

御惣庄屋直触、宇土町居住

御手当米寸志

宇土御郡代直触、松山会所下代

御手当米寸志

門田久左衛門

一 米六斗

代錢五拾八匁壹分貳厘

一 米六斗四升 代錢六拾貳匁

右同、宇土町居住

御類焼寸志

御郡代直触中野吉兵衛悱、松山手永築籠村庄屋

右同

沢田忠三郎

一 錢三百目

中野恵助

一 同四石八斗

代錢四百六拾五匁

無苗御惣庄屋直触、松山手永御領村

右同

右同、松山手永網津村居住

御手当米寸志

忠七

一 同三石貳斗

代錢三百拾匁

橘新平

代錢五拾八匁壹分貳厘

同手永永尾村庄屋

右同、同村居住

右同

和三

一 同六斗四升

代錢六拾貳匁

同手永松山村右同

源藏

右同

一 同六斗

代錢五拾八匁壹分貳厘

同手永御領村

徳兵衛

右同

一 同四斗

代錢三拾八匁七分五厘

松山手永小曾部村

藤右衛門

御手当米寸志

一 米六斗

代錢五拾八匁壹分貳厘

同手永同村

藤兵衛

右同

一 同六斗

代錢五拾八匁壹分貳厘

同手永松山村

文左衛門

右同

一 同六斗

代錢五拾八匁壹分貳厘

同手永松合村

弥次右衛門

右同

一 同九斗五升

代錢九拾貳匁三厘

喜三右衛門

一 同六斗

代錢五拾八匁壹分貳厘

同手永同村

右同

一 同八斗八升

代錢八拾五匁貳分五厘

同手永同村

同手永同村

右同

一 同六斗四升

代錢六拾貳匁

松山手永松合村

御手当米寸志

一 米九斗六升

代錢九拾三匁

同手永同村

右同

一 同六斗四升

代錢六拾貳匁

同手永古保里村

右同

一 同六斗

代錢五拾八匁壹分貳厘

同手永笹原村

右同

右同

一 同六斗

代錢五拾八匁壹分貳厘

同手永同村

十兵衛

一 同五斗三升

代錢五拾壹匁三分四厘

同手永同村

太左衛門

右同

一 同六斗

代錢五拾八匁壹分貳厘

同手永同村

彦右衛門

一 同六斗三升

代錢六拾壹匁三厘

同手永同村

甚左衛門

右同

一 同六斗

代錢五拾八匁壹分貳厘

松山手永笠岩村

伝右衛門

一 同三斗八升

代錢三拾六匁八分壹厘

宇土町

清助

御手当米寸志

一 米九斗六升

代錢九拾三匁

同手永網津村

新左衛門

一 米四斗九升

代錢四拾七匁四分七厘

同町

利七

右同

一 同六斗七升

代錢六拾四匁九分

同手永佐野村

太左衛門

一 同六斗七升

代錢六拾四匁九分

同町

次兵衛

右同

一 同壹石

代錢九拾六匁八分七厘

同手永高良村

嘉右衛門

一 同壹石六斗七升

代錢百六拾壹匁七分八厘

右者 何れも相応被賞被下候様。

宇土郡土席浪人格、郡浦手永郡浦村居住

右同

長太郎

御手当米寸志

松枝令藏

一 米拾九石貳斗

代錢壹貫九百貳拾目

但家代名前^二而差上置候分。

右^者乍恐倅相統之節、繼目^二被仰付置被下候様。

宇土郡地土、郡浦手永郡浦村居住

御類焼寸志

永松本右衛門

一 錢壹貫五百目

御手当米寸志

一 米拾貳石八斗六升七合

但家代名前^二而差上置候分。

一 同三石七斗六升

但右同斷^二付、惣米高御藏入仕候節、寸志粟不足仕候^二付、右不足分本行之米高追寸志仕候分。

米合拾六石六斗貳升七合

代錢壹貫六百六拾貳匁七厘

合三貫百六拾貳匁七分

右^者乍恐本右衛門二男永松吉十郎儀、別段親同前地土^二被召出被下候様。

御郡代直触、岡村栄之允家代、郡浦手永波多村

御手当米寸志

宇右衛門

一 米三石八斗六升七合

代錢三百八拾六匁七分

同手永手場村

右同

栄次

一 同貳石九斗三升四合

代錢貳百九拾三匁四分

右^者兩人共、傘・小脇指御免被仰付被下候様。

同手永網田村、傘御免

右同

勇右衛門

一 同壹石六斗

代錢百六拾目

右^者小脇差御免被仰付被下候様。

郡浦手永郡浦村

御手当米寸志

儀助

一 米壹石貳斗八升

代錢百貳拾八匁

同手永戸馳村

右同

武平次

一 同壹石貳斗八升

代錢百貳拾八匁

右^者兩人共傘御免被仰付被下候様。

郡浦手永井樋方助役并櫛楮見拟兼帶、在勤中諸

役人段

右同

岩崎十藏

一 米四石四斗壹升四合

代錢四百四拾壹匁四分

但家代名前^二而指上候分。

諸役人段、郡浦手永前越村居住

右同

中村嘉右衛門

一 同壹石六斗貳升九合

代錢百六拾貳匁九分
但家代名前^二而指上候分。

宇土郡一領一疋、郡浦手永戸馳村居住

御手当米寸志

佐田忠右衛門

一 米三石貳斗

代錢三百貳拾目

同郡右同、同手永前越村居住

右同

本田藤右衛門

一 同三石貳斗

代錢三百二拾目

同郡右同、同手永戸馳村居住

右同

佐藤宇右衛門

一 同三石貳斗

代錢三百貳拾目

同郡地土、同手永同村居住

右同

佐藤又次

一 同三石貳斗

代錢三百貳拾目

御惣庄屋直触、同手永中村居住

右同

永嶺惣右衛門

一 同壹石貳斗八升

代錢百貳拾八匁

郡浦手永新開村

御手当米寸志

和七

一 米四石貳升七合

代錢四拾貳匁七分

同手永長崎村

右同

次助

一 同三斗三升四合

代錢三拾三匁四分

同手永下長崎村

右同

万作

一 同三斗三升四分

代錢三拾三匁四分

同手永里浦村

右同

三右衛門

一 同貳斗六升七合

代錢貳拾六匁七分

同手永中村

右同

平七

一 同三斗

代錢三拾目

同手永三角浦村

右同

新蔵

一 同三斗六升七合

代錢三拾六匁七分

郡浦手永三角浦村

御手当米寸志

久助

一 米壹斗七升四合

代錢拾七匁四分

右同

同手永下網田村

文太郎

右同

四郎兵衛

一 同老斗七合

代錢拾匁七分

同手永戸口浦村

久次郎

右同

九左衛門

右同

一 同五斗四升七合

代錢五拾四匁七分

苗字迄御免、御惣庄屋直触、同手永里浦村

代錢三拾貳匁

同手永同村

右同

一 栗老石貳斗

代錢四拾八匁

無苗、御惣庄屋直触、同手永前越村

後藤七兵衛

右同

左吉

一 同八斗

代錢三拾貳匁

同手永同村

右同

一 同八斗

代錢三拾貳匁

右同、同手永手場村

孫八

右同

惠七

右同

一 同老石貳斗

代錢四拾八匁

郡浦手永郡浦村

茂左衛門

右同

才八

一 同老石貳斗

代錢四拾八匁

郡浦手永網田村

御手当米寸志

一 栗八斗

代錢三拾貳匁

同手永同村

甚平

御手当米寸志

一 栗老石六斗

代錢六拾四匁

同手永同村

喜三右衛門

右同

彦右衛門

一 同卷石六斗

代錢六拾四匁

同手永下網田村

右同

源八

一 同八斗

代錢三拾貳匁

同手永同村

右同

仙助

一 同貳石

代錢八拾目

同手永栗崎村

右同

仁左衛門

一 同八斗

代錢三拾貳匁

同手永同村

右同

惠七

一 同八斗

代錢三拾貳匁

郡浦手永飯塚村

御手当米寸志

寿右衛門

一 同八斗

代錢三拾貳匁

右者何れも相応被賞被下候様。

右之通、夫々被賞被下候様有御座度、於私奉願候。此段可然様被成

御参談可被下候。以上

八月

御郡方

御奉行衆中

杉谷久兵衛

清蔵儀、願之通繼目之節ニ可被置下哉。

寿右衛門より又右衛門迄、願之通作紋上下一具宛可被下置哉。

善七儀、願之通可被成御免哉。

太郎兵衛儀、庄屋ニ而も、傘御免ハ寸志高差別無之、本行之寸志高

者不足ニ付、願通ニ者難成御免、外ニ被仰付扣無之候付、御間承届

候段、及達可申哉。

宇右衛門儀、願之通倅_五小脇差可被成御免哉。

吉兵衛儀、願之通可被成御免哉。

儀七儀、右同断。

庄兵衛・藤太郎儀、右同断。

徳之助儀、右同断。

十平より嶺次迄五人、右同断。

庄七儀、願之通作紋上下一具被下置、家内共ニ影踏可被成御免哉

又左衛門より弥左衛門迄五人、願之通可被成御免哉。

井上甚平より宇土町次兵衛迄、何れも御間承届之段、及達可申哉。

令蔵儀、願之通倅繼目之節可被置下哉

本右衛門儀、願之通二男永松吉十郎儀、地土可被召出哉。

宇右衛門より勇右衛門迄、願之通可被成御免哉。

儀助・武平次儀、願之通可被成御免哉。

岩崎十蔵より飯塚村寿右衛門迄、御間承届之段、及達可申哉。

五六 西山武左衛門

(九一九一)

御内意之覚

御郡代直触^{ニ而}松山会所詰

御才覚銭残分寸志

西山武左衛門

一 銭貳貫百目

但宇土町利七・又七と申者共、御才覚銭御返済残、文化二年十二月引受奉願、寸志差上候分

御手当米寸志

一 米三石式斗

代銭三百拾匁

但家代名前^{ニ而}差上置候分。

合貳貫四百拾匁

右武左衛門儀、追々寸志銭三貫目差上申候處、御郡代直触^ニ被仰付置、安永七年七月松山会所小頭役相勤居申候處、天明六年十一月親跡永尾村庄屋役申付、寛政十年六月松山会所詰^ニ転役任せ、当年迄都合三拾三年相勤、平日役方心懸厚、数十年来格別出精相勤申候。其上前文之通、寸志をも差上、且松山手永之儀、一体御家人手少、平日諸御用向手足不申候儀も有之候^ニ付、人柄見立奉願所存^{ニ而}居申候處、右武左衛門儀、往々一稜御用^ニ相立可申と見及申候間、勤之年数・寸志彼是被賞、乍恐一領一疋^ニ被仰付被下候様。

無苗、御惣庄屋直触、郡浦手永波多村御山ノ口

御類焼寸志

嘉八

一 銭壹貫五百目

御手当米寸志

一 米壹石式斗八升

代銭百貳拾八匁

合壹貫六百貳拾八匁

右嘉八儀、天明七年八月波多村御山ノ口申付候處、松山仕立方平日心懸能、御山敷より竹木剪出方等之節々、始末相詰、精密^ニ取計、其上御仕立櫥之儀、御山ノ口より年々根さらへ、且櫥実採方之節も罷出、無手拔、当年迄都合貳拾四年出精相勤申候間、旁被賞、乍恐苗字・刀御免、御郡代直触^ニ被仰付被下候様。

右之通被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段可然様被成御参談可被下候。以上

八月

杉谷久兵衛

御郡方

御奉行衆中

武左衛門儀、達之通^ニ付、寸志・役方各別出精、旁を以、願之通一領一疋可被仰付哉。

嘉八儀、願之通苗字・刀被成御免、御郡代直触被仰付哉。

五七 柘植桂淳

(九一九一)

御内意之覚

松山手永笹原村居住、御郡医師並^{ニ而}病死仕候柘植寿迪孫

柘植桂淳

当未二十七歳

右桂淳先祖柘植形右衛門代迄^者、御知行被下置候由^{ニ而}、御書出等

茂 転伝居申候。然処、其後家断絶仕、右形右衛門弟柘植甚右衛門と

申者浪人仕、宇土町円応寺支配_ニ成、医道_ニ志、花田流之針罷を極申候由、其子同字兵衛代、金津又十郎支配_ニ成、其子丈右衛門代、猶又円応寺支配_ニ成、居申候由、右寿迪儀_者丈右衛門俸_ニ而、不相替円応寺支配_ニ而、居申候處、医業宜、療治方手広出精仕候_ニ付、安永六年六月御郡代直触_ニ被仰付、其以後御郡並之御用_者不及申、療治方弥以出精仕候_ニ付_而者、追々結構_ニ被仰付、当年迄都合三十五年格別出精相勤居申候處、当二月病死仕候。

一 右寿迪、天明元年九月松山手永笠岩村疫疾流行之節、療治方出精仕、人參を茂施シ、惣而施薬_ニいたし候旨_ニ而、被賞、作紋御拾羽織一ツ被為拜領候。

一 寛政五年三月連々心懸能、内外之療治方手広、且津波即下怪哉・病人等之療治方心を用、施薬仕、塘手御普請之節_茂罷出、出精仕候旨_ニ而、御郡医師並_ニ被召直候。

一 寛政十一年十二月篠原村疫疾流行之節、昼夜打懸、療治方格別出精仕候_ニ付、寿迪父子_江銀三両_者支配銀之内より差遣候。

一 文化三年正月再春館開講、無懈怠五十年出席仕候旨_ニ而、白銀壹枚被為拜領候。

一 文化五年十一月家業心掛宜、及老年候得共、病用手広出精仕候旨_ニ而、作紋御小袖一ツ被為拜領候。

一 右寿迪養子理格儀、病身_ニ罷成、家業相統難成御座候_ニ付、孫桂淳を嫡孫蒸祖_ニ被仰付被下候様_ニ、当二月奉願候處、願之通被仰付置候。

一 右桂淳儀、医業心掛能、学文等_茂相応_ニ仕、再春館_江茂出席仕、祖父手_ニ付、本道・外_料共_ニ出精仕、近郷手広療治方出精仕居申

候。

一 右桂淳儀、療治方致出精、附方会之節、心懸能出席仕、附方進歩之旨_ニ而、文化七年正月於再春館銀貳両被為拜領候。

右之通桂淳儀、祖父同前之出精_ニ而、療治方万端心掛厚ク、所柄為合_ニ茂相成、其上篠原村之儀、海辺船付之場所_ニ而、往還筋同様之所柄_ニ御座候得_者、旅人病用等も必多度有之、御郡医師並無之候_而者、筋_ニより難相濟儀も御座候間、祖父寿迪数十年之勤勞旁_ニ被対、祖父同様御郡医師並_ニ被召出被下候様、於私奉願候。左候ハ、弥以療治方手広出精仕、所柄近在之為合_ニ茂相成可申候間、此段可然様被成御參談可被下候。以上

三月

杉谷久兵衛

御郡方

御奉行衆中

桂淳儀、本行之通達有之候付、医業吟味役_江及向合申候處、家業心懸宜、治療篤志_ニ有之、病用手広出精いたし候由、相達申候間、祖父同前御郡医師並可被仰付哉。

五八・岡村弥八郎 他

(九一・九一二)

御内意之覚

宇土郡土席浪人格、宇土町居住

御類焼寸志

岡村弥八郎

一 銭老貫五百目

御手当米寸志

一 米四石八斗

代錢四百六拾五匁

合老貫九百六拾五匁

宇土郡地土、宇土町居住

御類焼寸志

安谷庄三郎

一 錢壹貫目

御手当米寸志

一 米四石八斗

代錢四百六拾五匁

合老貫四百六拾五匁

同郡地土、郡浦手永下網田村居住

一 錢壹貫目

御手当米寸志

一 粟四石四斗

代錢百七拾六匁

合老貫百七拾六匁

右同、同手永網田村居住

御類焼寸志

中園弥右衛門

一 錢壹貫目

御手当米寸志

一 粟八石

代錢三百貳拾目

合老貫三百貳拾目

宇土郡地土、郡浦手永下網田村居住

御類焼寸志

高尾源左衛門

一 錢壹貫目

御手当米寸志

一 粟八石

代錢三百貳拾目

合老貫三百貳拾目

右之通寸志差上申候間、乍恐何れ^茂倅相統之節、繼目^ニ被仰付置被下候様有御座度、於私奉願候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

八月

杉谷久兵衛

御郡方

御奉行衆中

弥八郎より源左衛門迄五人、願之通繼目之寸志^ニ可被立下哉。

五九 浦上真寿

(九一―一九一二)

御内意之覚

御郡代直触医師^ニ而病死仕候浦上真広倅、松山手永佐野村居住

浦上真寿

当年三十五歳

右真寿父真広儀、根元浦上十兵衛支配浪人浦上勘助育之弟^ニ而、祖父一雲と申者より三代医業相統仕、真広儀、宝曆十年下益城廻江手永阿高村居住、御郡医師並小林周軒門弟^ニ相成、周軒方^江引越、数年医術執行仕候处、習熟仕候^ニ付、明和四年五月右周軒方より別業之儀奉願、御免被仰付、師家を引取、松山手永佐野村^江入医奉願引越、

再春館^江も無懈怠出席仕、療治方出精仕居申候処、天明六年十二月
医業心懸能、出精仕候旨^{ニ而}、宇土御郡代直触医師被仰付、其以後御
郡並之御用^者勿論、療治方弥以出精仕、惣体生得正直成者^{ニ而}、医道
委敷、学力等^茂相応^{ニ者}有之、療治方宜敷、第一病用申参次第、早
速々罷越、兼^而無怠病家打廻、急病等之節、勿論昼夜を不分、貧福
・親疎之無差別、深切^ニ療治仕候^{ニ付}、次第^ニ療治方多相成、尚々出
精仕、右別業以来、当年迄四十四年、御郡代直触被仰付候より二十
五年、御郡並之御用、無懈怠相勤、療治方心懸厚、出精仕候^{ニ付}、^而
文化五年十一月被賞、銀五両被為拝領候。其後弥以出精仕居申候処、
当八月病死仕候。

一 右真広粹真壽儀、寛政七年三月下益城中山手永安見村居住浦上三
壽門弟^ニ相成、師家^江引越、四十年まで医術稽古仕、再春館^江折々
出席仕居候処、同年七月三壽儀、病死仕候^{ニ付}、師家より引取、其
後^考父真広手^ニ付キ、必多度代脉等^ニも罷出、医業出精仕、其後文化
二年南漸門弟^ニ相成、彼方^江折々罷出、医術稽古仕、近年^考父真広
儀次第^ニ及老害存分駐廻り等出来兼候^{ニ付}、真壽儀専療治方出精仕
居申候、右之通真壽儀親同前之出精^{ニ而}療治方心懸厚所柄為合^{ニ茂}相
成、徳之御用^{ニ茂}可相立者と見及申候間、乍恐親同前御郡代直触医
師^ニ被召出被下候様有御座度於私奉願候左候て、弥以所柄之為^ニも
相成可申候間、可然様被成御参談可被下候。以上

十一月

杉谷久兵衛

御郡方

御奉行衆中

真壽儀、本行之通^ニ付、医業吟味役及問合候処、家業心懸宜、治
療篤去^ニ有之、病用手全出精いたし候由、達有之候間、願之通父

同前御郡代直触可被仰付哉。

(文化九年)

六〇 吉田戸次郎

(九一〇一)

御内意之覚

宇土郡地土^{ニ而}病死仕候吉田伴之允養子

吉田戸次郎

当未五十歳

右戸次郎養父吉田伴之允儀、明和七年十二月親跡地土被召出、当年
迄御郡並之御奉公、都合四十二年相勤申候処、去ル五月病死仕候。
然処、右戸次郎儀、手全成者^{ニ而}、武芸之儀、劍術小崎又兵衛、炮術
中村三左衛門門弟^{ニ而}稽古仕、往々御用^ニ相立可申者と見聞仕、其上
数代相統被仰付候家柄之者^ニ御座候間、旁親跡地土被仰付被下候様
有御座度、於私奉願候。此段御内達仕候条、可然様被成御参談可被
下候。以上

十月

吉村嘉善太

御郡方

御奉行衆中

戸次郎儀、本行之通^ニ付、親跡地土可被召出哉。

(文化十年)

六一 野田嶋右衛門、米助

(九一〇二)

御内意之覚

宇土郡御山支配役^{ニ而}、櫛緒見^ヲ・御牧山見^ヲを^茂兼帶仕、独礼被仰付置候

野田嶋右衛門

右^者堅剛成者^{ニ而}、宝曆八年十月、親跡一領一疋被召出、安永四年御山支配役被仰付候以来、稜々兼帶仕、出精仕候^{ニ而}追々被賞、勤料米被増下、進席も被仰付、其外御品々被下置、弥以手全^ニ各別精勤仕、御山仕立方心懸候^{ニ付}、次第^ニ繁茂仕、近年御牧山之義^者、別段詰小屋出来、山中^ニ詰切、尤打方等惣^而御馬仕立方^{ニ付而}者、昼夜心配仕、自勘^{ニ而}相勤、心懸厚、都合五十五年出精相勤、支配下^{ニ而}者、抜群之者^{ニ付}、御別段を以作紋御時服一ツ被下置候様有御座度、於私共奉願候。

郡浦会所詰^{ニ而}、出銀方受込

米助

右^者安永七年より村役申付、手全成者^{ニ付}、天明六年会所小頭申付、其以来追々出精仕候内、其砌天草大矢野柳之瀬戸にて、御米船破損之砌、無手抜相働、先年高波之節、宇土郡所々御普請出精仕、惣体役方心懸能、請込御用手全^ニ相勤候^{ニ付}、文化四年礼服・小脇^ヲ着被成御免、依寸志傘・菅笠等も被指免置候^{ニ付}、相勤弥以出精仕候。右之内同所下代辛川文次病氣^{ニ付而}者、右助役を^茂相勤、尚御免方を^茂兼、御年貢御取立御算用方を^茂引受、速^ニ仕上、稜々共^ニ都合三十五年出精仕候。惣体郡浦手永之儀、辺鄙^{ニ而}、人質正直文、役人共不調法^{ニ有之}、猶又見習等^{ニ者}、脇々と違、無給^{ニ而}相勤候類^茂御座候程^{ニ而}、先^者会所役人共之抑揚、間^{ニ者}不当之筋も有之候得共、

有来之様^ニ相心得、夫丈指はまり、カヲ尽候義、薄相聞候^{ニ付}、追々見込^茂有之、相断候様^ニ示諭仕度奉存候間、聊^{ニ而}も精勤之もの^者被賞被下候ハ、若年之者共迄競を得、漸々引立励合候法則^ニ相成可申候^{ニ付}、別段を以、御郡代直触被仰付被下候様^ニ有御座度奉存候。且同所御家人共、棒火矢打方之節^ニ、毎歳御貨渡之御道具余計^{ニ有}之候処、遠路往返持越御道具も損^并夫仕及難波候を見兼、右之御品々、米助自勘^{ニ而}出来指上、定付被仰付置度奉願置候通被仰付候。猶又同手永前越村貧民^江質地代錢心を付、捨方仕、米助身代^{ニ者}余計之高殊^ニ近年之事^{ニ而}、利潤等^ニ拘り不申候心底、殊勝之様子^ニ相聞、難波之もの共^{ニ者}、一稜之助成^ニ相成候。尤近來寸志等不被召上段^者、相響居申候事^{ニ而}、其身^ニおゐて^者、実々何ぞ内望^茂無之、誠^ニ彼是之難波難見捨置より之義と相聞候得^者、尚更奇特之事^{ニ付}於私共^者、右様之事跡、御惣庄屋より相達候上^者、難聞御聞^ニ入置申候間、彼是可然様被成御參談被下度、重疊奉願候。以上

九月

宇土

御郡代

御郡方

御奉行衆中

嶋右衛門儀、宝曆八年一領一疋被召出候以後、当年^ニ至五十六年之内、役方数々出精相勤候趣本行之通達^{ニ有}之聞合之趣も、付紙之通^{ニ而}、右年数之内、御山支配役三十九年各別精勤いたし候由^{ニ付}被賞、作紋時服一可被下置哉。

米助儀、役方出精且質地代捨方之儀達之趣、書面之通有之、聞合之趣、申付紙之通^{ニ而}、文化六年以来之儀^{ニ而}、各別得利潤申たる事^{ニハ}無之候得共、難波難見捨捨遣、貧民一廉基^ニ

相成候由、右^者去春捨替候様子^ニ付、寸志不被改以前之儀^ニ有之候。且同手永御家人中、棒火矢稽古之節、右入用之諸品、御天守方より御借渡^ニ相成来候處、遠在夫方不弁利^ニも有之、旁入用之幕類、其外共^ニ七品一式差出シ、会所願^ニ相成、往々一廉之弁利^ニ相成候由^ニ付被賞、役方數年出精、旁を以願之通、御郡代直触可被仰付哉。右之趣、如何体可被有御座哉。

(文化十一年)

六二 林原恵七 他

(九一〇一四)

御内意之覺

御郡代直触^ニ而病死仕候林原市左衛門梓

松山手永佐野村庄屋

林原恵七

当戊四十歳

右恵七父市左衛門儀、数代庄屋役之家筋^ニ而、明和三年十二月祖父次助跡佐野村庄屋役申付、相勤居申候處、天明八年十月不埒之儀有之、庄屋役指除、跡庄屋之儀^者、悴恵七^ニ申付置候處、尚又寛政四年八月庄屋再役申付、当年迄前後都合四十六年手全^ニ相勤、悴相勤居候内^者、内分^者市左衛門引讀、世話仕居申候由、然處及老衰、病氣指発、何分庄屋役難相勤、断願出候付、当三月差免置申候處、無程同月病死仕候。

一 右市左衛門儀、庄屋役手全相勤、村中取計宜、御年貢・諸出米銀等、各別出精相勤、万端質素を相守、御百姓之風儀宜旨^ニ而被賞、安

永六年六月無苗^ニ而、御郡代直触^ニ被仰付置候處、寛政九年十月苗字御免^ニ而、御惣庄屋直触^ニ被召直、寛政十二年六月役方多年致出精、零落之村方、諸事心を用、御免方取計等廉直^ニ有之、御年貢・諸出米錢無滞相納、諸公役等速^ニ相勤候旨^ニ而被賞、鳥目老實文被為拝領候。文化四年五月役方多年相勤、村方零落^ニ付而、取計筋心遣多有之候處、格別出精相勤候旨^ニ而、刀被成御免、御郡代直触被仰付候。

一 右恵七儀、寛政元年三月親跡佐野村庄屋役申付、相勤居申候處、病氣差発申候^ニ付、同四年八月庄屋役断願出候付、指免置候處、尚又当二月親跡庄屋役申付、出精相勤申候。右之通親市左衛門儀、結構^ニ被仰付、出精相勤申候^ニ付、右村方之儀、零落之上、多人數之所柄^ニ而、諸事取計筋、心勞多、平日繁雜^ニも御座候處、格別出精仕、村中抑揚行届、御免方取計等之儀^者、廉直^ニ仕、御年貢、諸出米錢・諸公役等^者速^ニ相納せ、數十年来出精相勤申候間、右勤方^ニ被対、乍恐恵七儀、親跡直^ニ御郡代直触^ニ被召出被下候様。

松山会所下代

久右衛門

当戊四十三歳

右久右衛門儀、天明七年四月松山会所^江呼出、寛政二年七月会所小頭^ニ申付、同十年三月会所詰^ニ召直、文化三年四月御免方受込申付置、宇土御知行所諸御用向之儀も受込申付置候處、文化八年七月下代役^ニ申付、当年迄都合二十八諸事手全^ニ出精相勤申候。寛政四年津波之節、潮留御普請、昼夜相詰、各別相勤、其後本御普請^ニ茂罷出、始末出精相勤候旨^ニ而、同五年六月被賞、鳥目老實文被為拝領候。同八年洪水後、水留・潮留、其後本石垣御普請等之節、出精仕候段、御間御間届^ニ相成候段、同十年六月申渡候。文化四年七月役

方多年諸事手全ニ出精相勤候旨ニ而、礼服・傘・菅笠・小脇差等、御免被仰付置候。右之通追々結構ニ被仰付、弥以出精相勤居、近年ニ至、会所向諸御用、内外共ニ各別繁雜ニ茂御座候處、出精相勤、其上請免被仰付候砌より、御免方受込申付置、諸帳面等之しらべ方折合候迄、主ニ成、出精相勤、宇土御知行所之儀ニ而、御免方受込申付置、各別出精仕、下代役ニ申付候ニ而、當用筋之儀も引受、出精相勤、惣体至ニ而、氣衝御座候者ニ而、所々御普請等之節、其外當時專御用ニ相立申候間、乍恐被賞、苗字御免ニ而、御惣庄屋直触ニ被仰付被下候様。

松山会所詰御免方附

定次

当戊四十七歳

右定次儀、天明五年八月より寛政十年八月迄、村々帳書相勤居申候處、同年九月会所詰申付、文化八年七月より御免方受込申付置、当年迄十八年出精相勤、村帳書共ニ都合三十ヶ年、諸事手全ニ相勤申候。尤受免以後、諸事之手数茂相増、各別骨折強、其上近年宇土御知行所御用受込申付置、村々無類之零落ニ付ハ、高地片付兼、程々御難題筋願出、右取扱等厚心を用、其外御年貢・諸出米錢、諸拝借返納取立并御損引方万端様ニ成取計各別出精相勤申候間、乍恐被賞、礼服・小脇差等、御免被仰付被下候様。

松山会所根拟定会詰兼帶

新助

当戊三十一歳

右新助儀、寛政十年六月会所江呼出、享和三年三月小頭役ニ申付、文化五年十二月定詰小頭ニ申付、同八年七月会所詰ニ操上、当四月根拟本役・会所詰兼帶ニ申付置、当年迄都合十七年諸事手全ニ出精相

勤申候。惣体松山会所之儀ハ、往還宿駅を受、臨時之諸御用多、当前之勤後、至ニ而繁雜ニ有之、其上請御免以後、各別諸御用手数多、年増御用繁ク相成申候處、纔之小給ニ而、昼夜相詰、役方厚心懸、各別出精相勤居申候。

一 文化四年正月より御仕立櫓式万五千本植立方被仰付、櫓方御銀等茂被為拝借、右仕立方受込申付置、苗之儀、櫓方より御出方を以、仕立方被仰付、年々心懸仕立方仕、去ル末年迄ニ御受合、前之木数、夫々植立相済、跡植繼万端、前後各別出精相勤居申候。

一 文化三年正月より、在受御作事方受込申付置、会所御用毛・井樋小屋、其外所々上下之御番所御作事・御繕等受持、色々手入多御座候處、立走り厚世話仕、諸事手堅、米錢・諸品受拂等、嚴重ニ取計出精仕、昼夜心懸厚ク相勤居申候間、何卒被賞、礼服・小脇差等御免被仰付被下候様。

松山会所詰小頭

彦太

当戊三十二歳

右彦太儀、寛政四年十二月より会所江呼出、同十一年十一月小頭ニ申付、文化五年十二月定詰小頭ニ操上、当年迄都合廿三年出精相勤居申候。惣体松山会所之儀、前条申上候通、往還宿駅を受、臨時之御用多、平日之勤後、繁雜ニ御座候上、受御免以後ハ、別ニ諸御用繁ク骨折心遣強、昼夜会所江相詰出精仕、其上宇土御知行所諸御用受込、助勤申付置、諸御取立返納物取立方等、年々難渋仕、必多度村々江罷出、各別出精相勤居申候間、何卒被賞、礼服・小脇差等、御免被仰付被下候様。

松山会所小頭

次右衛門

当戊七十三歳

右次右衛門儀、明和四年十月松山会所小頭ニ申付、当年迄四十八年手全ニ出精相勤申候。寛政四年津浪之節、潮留御普請昼夜相詰各別相勤、其後本御普請ニ罷出、始末出精相勤候ニ付、寛政五年六月被賞、鳥目壹貫五百文被為拜領候。

一 役方数十年手全ニ相勤、寛政八年洪水後、水留・潮留、其後本石垣御普請等出精仕候旨ニ而、同十年六月鳥目五百文被為拜領候。

一 役方数十年心懸能、精勤仕候旨ニ而、享和三年十二月被賞、礼服・傘・小脇差等、御免被仰付置候。右之通数十年出精相勤、別而津波・洪水以後ハ、所々塘手等及大破、御手入万端勤稜繁雜ニ有之、其上近年新堤堀方、或者古堤浚方等、年々余計之御普請も仕、新地築立夫仕彼是各別骨折強御座候處、乍老体昼夜心懸厚、出精相勤居申候間、何卒四十八年之年勞ニ被對、苗字御免ニ而、御惣庄屋直触ニ被仰付被下候様。

右之通何れ茂出精相勤、所々之堤等水保方茂宜敷罷成、当夏之干損茂薄、松山手永之儀者、御免茂請除候程ニ御座候間、宜被成御參談被下候様、乍恐於私奉願候。左候ハ、何れ難有仕合奉存、弥以出精仕、外々之者共勵合ニ相成、会所向一統出精之競ニ茂可相成と奉存候間、重宜被仰付被下候様奉願候。此段御内達仕候。以上

十月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

惠七儀、達之通ニ而、父市左衛門儀、庄屋役四十六年之内、全勤四十二年相勤、右ニ付而ハ、追々被賞、御郡代直触被仰付置候

處、果申候ニ付、俾右勤勞ニ被對、直ニ親跡御郡代直触ニ被仰付

候様、達之通ニ候ヘ共、其通ニハ難被仰付、極り之通、無苗ニ而、御惣庄屋直触可被仰付哉。

右付礼之通、正月廿七日及達候。

会所下代勤勞ニ而、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付儀者、四十五年以上之極ニ而、久右衛門儀、其年数ニ至り不申候付、見合可被置哉。

見合

会所詰と申者、先下代之類ニ准可申、二十五年以上礼服・小脇差御免之極ニ而、定次儀、会所詰已来十九年ニ相成候付、見合可被置哉。

見合

但帳書より三十年之由、書面之通ニ御座候得ハ、帳書之儀八年数ニ加ヘ不申候。

新助儀、右同断、年数浅、見合可被置哉。

見合

彦太儀、右同断、見合可被置哉。

見合

次右衛門儀、四十八年之勤ニ而者、見合有之候間、苗字御免、御惣庄屋直触可被仰付哉。

右付礼之通、正月廿七日及達候。

六三 万七 他

(九一二〇一四)

御内意之覚

郡浦会所誌

万七

当戊五拾四歳

右者 安永五年八月会所見習ニ呼出、全八年三月小頭役申付、寛政五年津波之節、精勤仕候旨ニ而、島目老實文被為拝領候、全十年四月会所誌ニ召置御免方定附ニ申付候、寛政十一年郡浦手永御田叔藏御繕并同所会所帳藏門屏建方等之節、入目錢之内寸志差出候ニ付、全十二年十二月麻上下・小脇差被成御免候、安永五年より当年迄都合三十九年相勤申候、尤受免後別ニ御用も相増、諸事手全ニ精勤仕候間年巧旁ニ被對、乍恐被賞苗字御免御惣庄屋直触被召置被下候様、

郡浦手永前越村

尉七

当戊三拾二歳

女房

当戊二十九歳

右尉七儀孝心ニ有之、第一御法度筋能相守、家内賤敷子供育ニ至迄深ク心を用、御年貢諸上納物等速ニ相納、兼ニ農業拔群出精仕公役等之節も成長ケ下人者遣不申、自身ニ相勤候由、且又村内病災等ニ而、耕作手後之者有之節、懇ニ申談加勢仕候由、父伊右衛門儀者、去ル文化五年病死仕、当時母迄存生ニ居申候由之處、平生眼疾有之、朝夕之介抱より医師を招候候迄、心之及丈力を尽、何事も機嫌ニ背不申、日奈久・栃ノ木等之温泉等江も望ニまかせ、早速ニ連越申候由、猶又父存命ニ而罷在候節、村内より質地ニ預リ置候地方受返申候處、右地代聊も其身之用ニ遣イ不申、事毎ニ母之差図を受、父伊右衛門石碑を調へ、或者扨前打敷等を求メ、追善之外露程も遣不申由、右尉七女房是亦姑江孝心ニ有之、起臥之介抱より繕物等ニ至迄心を用、姑之氣ニ背不申段、偏ニ尉七孝心より右之通可有之儀者相聞候得共、聊も夫婦遺戾之情無御

座混ラニ孝道を尽候儀、先者於農家拔群之者共ニ付、乍恐如何様とそ被賞被下候様。

同手永石橋村

清左衛門

当戊四拾九歳

女房

当戊四拾九歳

右清左衛門夫婦孝心ニ有之、何事も父母之機嫌ニ背不申、父久兵衛去ル寅年より七箇年之間中風仕、身体不叶罷成、二便も乍臥座仕、右之穢一ト通之義ニ而無之、猶又午年より母儀も療症ニ而、打臥同前身体不叶ニ罷成、是亦二便も清左衛門同様ニ而兩親共ニ朝夕之穢余計ニ御座候を、少も無懈洗濯仕、寢床に残ル穢無之様心を用申候由、然処母者去々春八拾六歳ニ而相果、父去々冬八拾四歳にて相果申候、兩親共ニ數箇年身体不叶ニ御座候得共、起臥之介抱ハ不及申、二便之穢等ハ夜毎ニ人目を忍洗濯仕、隣家之者も存不申事七箇年程之間ニ而、素より家貧敷御座候、清左衛門儀初ハ奉公仕、身代錢を以兩親を養居申候得共、存分之孝養難叶存候哉、庄屋ニ願村肝煎を勤、昼夜介抱仕、殊ニ、父久兵衛義ハ酒を好居申候故、纔之糧物之内ニ而も、売代替毎日酒を勤メ、母ハ甘キ品を嗜居候故、日々飴等を給せ居申候由、右兩親共ニ去々春冬近々ニ相果候所、葬送造用一式も皆借立取當、清左衛門夫婦并兩人之男子示合、山稼等ニ而去正月ニ至、悉皆銀主江返済仕候由、將又同人儀、去年者旦那寺三寶院江月十日之半季奉公仕、勤之間兩親之墓參、水花等を相備、忌日年回等之追善寺僧并親共存生之友等を相招、懇ニ相當申候由、右之通拔群之孝心於所柄、偏ニ規則と可相成者ニ付右同断、

同手永下恵里村

伊右衛門

当五十四歳

妹 たひ

当戊四十一歳

右伊右衛門并妹たひ儀、老母へ孝心^ニ有之、何事も母之氣^ニ背不申、初伊右衛門儀奉公仕、身代を以孝養仕居申候処、去々春より引込増々孝心厚仕其身^者、妻をも迎不申、妹たひハ縁付をも不仕、只母を慰メ勞り候。存念之外無他事、母当年八拾四歳程之極老^ニ、近年^者立居も不自由^ニ罷成、朝夕之起臥二便之通ヒ兩人力を尽し、介抱仕候様子偏^ニ稚子を取扱候様有之、寒暖之砌^者就中心を用申候由、然処去秋作之儀、無類之不取実^ニ付、難波^ニ迫り、当年^者宇土御家中^ニ奉公仕候所、主人よりも右孝心を感候と相聞、四五日越宿元江老母見舞^ニ差越申候由、各別之孝心^ニ付、右同断。

同手永波多村

九左衛門

当戊七十七歳

右九左衛門儀手全成者^ニ、於村方頭百姓当年迄都合五十四箇年相勤、兼^而農業拔群出精仕、諸上納物等速^ニ相納、村方之儀諸事懇^ニ世話仕申候、去ル享和三亥五月依寸志之訳、小脇差・傘被成御免、文化八年六月御田米直^ニ差上候^ニ付、御間御聞届^ニ相成申候、右之通村役人五十年余相勤、手厚村方之世話をも仕候事^ニ付、乍恐此節被賞、御惣庄屋直触^ニ被仰付被下候様。

同手永下網田村拂頭 宇七

当戊五十七歳

右宇七儀親代迄^者、零落之御百姓^ニ、宇七若年之比父病死仕、母を育、農業拔群出精仕、其上質素専^ニ相心得候故、逐年身台立直、生得律儀者^ニ、御年貢諸上納等速^ニ相仕舞、近辺若者共を誘ヒ、農業を励

せ、聊も怠候儀無御座、享和二年之比、村方不作打続、零落之者多罷成、諸上納相滞難波仕候を見兼、隣家^ニ貸置候錢幣貫目余捨方仕、其外前後近々近辺^江、右頼捨方仕或^者難波者共^ニ連々糧物等を見繼来申候由、右之通宇七より恩儀を受候者共打重り、宇七儀何卒御褒美等有之かしと、何れも唱候由^ニ御座候得共、勿論其身^者右様之届聊も無御座、殊^ニ前条之通近々村方難波之者^江糧物をも貢ギ、且老貫目余之捨方をもいたし遣、彼是寄特之至^ニ付、乍恐被賞礼服・小脇差・合羽・傘御免被仰付被下候様。

同手永下網田村

平助

当戊六十七歳

右平助儀先年津浪之節迄^者兄作左衛門と同居仕、同人を助ケ、高地を作廻仕居申候処、作左衛門夫婦両親共津浪^ニ溺死仕、家居も流失仕、受持之田畑悉皆荒地^ニ相成、生殘候者^者平助并^者作左衛門子供兩人、姉^者九歳、弟ハ七歳^ニ罷成候者共^ニ、都合三人^ニ御座候処平助右兩人之嬰兒を養育仕、早速より荒地開明^ニ取懸り、昼夜を不分出精仕、亡兄作左衛門受持之高地分只耆人^ニ良田と成シ、村郷之手引と成候故、半^者進兼居申候人氣も被引立、依之荒地開明候者も多有之たる由、惣体平助儀生後不具者^ニ、右之手指無御座、耕作仕候節も、右之手^者鐵之柄^ニ附ケ添左手迄之働^ニ御座候得^者人並^ニ者^ニ遙^ニ劣可申所、朝^者未明より暮果候迄暫も無油断相働候事故、畢^而人並^ニ者^ニ拔群越申候由、然処甥姪兩人成長仕候^ニ随ひ、相応之業を仕習せ諸共^ニ働立候^ニ付、衣食住共無難波罷暮、姪ハ五六年前戸口浦村^ニ縁付仕せ、甥喜八^ニ者^ニ姫を取、亡兄跡式を守り立居申候、右之通^ニ付平助受持之田畑^者各別^ニ手入行届、村郷之者何も驚入候程^ニ有之、勿論御年貢諸出米銀速^ニ上納仕、兼^而質素を相守候故、当時^ニ至候^而者^ニ身台も愈以宜罷成申候、右之通拔

群之精農ニ付、乍恐如何様被賞被下候様。

同手永下網田村 平左衛門

当戊六拾三歳

右平左衛門儀高地受持、農業出精相勤居申候処、先年之津浪ニ而女房子供溺死家居流失仕、受持之田畑荒地ニ罷成、生殘候者ハ幼少之甥と其身迄ニ而御座候処、右甥を撫育仕、早速より荒地開明ニ取懸り、夜白相励無程受持之高地悉ク良田ト成シ、同村平助を同村郷之手引と成、何となく右兩人ニ被誘、荒地開明候者も余計ニ有之、且平日質素を相守候故、大變後身台向も速ニ立直シ申候由、其後甥文左衛門江姫を取、家内三人何も出精仕候故、年増暮方も罷罷成居申候、第一御年貢之儀年々念を入候者ニ而、数十年弘立候御米御蔵ニて忝儀も別方ニ逢不申、殊ニ諸上納毎年村方寄番皆済仕来申候、同村平助同様之精農ニ付右同断。

同手永井樋方小頭 幸助

当戊八十歳

右幸助儀、宝曆四年より式十七箇年村帳書申付、天明元年五月井樋方小頭転役申付、寛政八辰夏洪水後、石手御普請之節出精仕候段、御間御間届ニ相成、当年迄都合六拾一年相勤、旧巧之者ニ御座候間相善之御賞美被仰付被下候様、左様ニ御座候ハ、最早年罷寄候ニ付、休メ申付度奉存候。

右之通御座候間、何れも夫々御賞美被仰付被下候様、於私奉願候。以上

十月

御郡方

御奉行衆中

片山九郎兵衛

万七儀惣年数今年四十年ニ而、苗字御免御惣庄屋直触ハ四十五年以上ニ而、被仰付候間、無苗ニ而御惣庄屋直触可被仰付哉。

右付札之通正月廿七日及達候。

尉七夫婦孝心之様子書面之通ニ付、尉七江七百文妻江五百文程可被下置哉。

右同断

清左衛門夫婦孝心候様子委細書面之通ニ而、両親長病ニ而汚穢之物をも洗清め、且死後之追善も慈ニいたし候様子ニ付、旁清左衛門江寄賞文、妻江七百文程可被下置哉。

右同断

伊右衛門并妹たひ孝心之様子、書面之通ニ付、七百文完可被下置哉。

右同断

九左衛門儀達之通ニ而、頭百姓五十年余相勤、見合も有之候付、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

右同断

宇七儀達之通ニ候得共、礼服・小脇差等御免之儀ハ難相成、農業精勤御年貢諸上納速ニ相納、其外貸シ方等捨遣候旁ニ付、鳥目七百文程も可被下置哉。

右同断

平助儀精農之様子、書面之通に付、鳥目七百文程可被下置哉。

右同断

平左衛門儀精農之様子、書面之通ニ而、右平助見合ニ斟酌を以、同五百文可被下置哉。

右同断

幸助儀帳書已来之年数六十年余^{ニ而}、小頭以来三十四年^ニ相成申候、帳書等相勤候^{ニ而}、年数被賞無之、小頭已来三十四年^{ニ而}ハ、礼服ハ小脇差御免之見合^ニ候得共、最早八十歳^ニ罷成、此節被指免事^ニ付、鳥目七百文程可被下置哉。

右同断

本紙之通^ニ候处、八十歳迄相勤、先ハ稀なる者^ニ付年勞之場を別段被賞無苗^{ニ而}御惣庄屋直触可被仰付哉。

右同断

六四 喜十郎

(九一二〇一四)

御内意之覚

町独礼^{ニ而}病死仕候宇土町塩飽屋徳兵衛俸

喜十郎

当戊三十三歳

右喜十郎親徳兵衛儀、宝曆十二年午十二月より親跡宇土本二町目丁頭役相勤、天明二年五月別当代役被仰付、同三年正月別当本役^ニ被仰付、寛政元酉年迄都合貳拾八年丁頭、別当役相勤申候处、同年八月町独礼^ニ被仰付、別当役之儀^者被成御免、町独礼^{ニ而}居申候处、当四月病死仕候。然处親徳兵衛儀、数十年来追々寸志差出、御巡見様御本宿自勤^{ニ而}相勤、遊行上人本宿を^茂相勤、且宇土御知行所馬瀬村・松原村・江部村・築籠村各別零落難渋^ニ付^而、拝借返納之内^ニ鳥目壹貫目寸志差出申度、且右御知行所郡浦手永綱引村零落之者共^江、数十年貸付置候鳥目元利都合三拾貳貫目余、此節捨遣申度、去年九月奉願候处、願之通被仰付候間、何卒此節繼目被立下、苗字・

刀御免^{ニ而}町独礼^ニ被召出被下候様奉願候。前條之通、追々余計之銭

高差出申候。跡之儀^ニ付、各別之御食議被成下、幾重^ニも宜敷被仰付被下候様、偏^ニ於私^茂奉願候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

文化十一年十月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

宇土町独礼徳兵衛と申者相果、俸喜十郎民力強方、付^而鳥目壹貫文指出、其上追々在中^ニ貸置候員^{（實）}三拾貳貫八拾目余、元利共捨方仕候。尤捨方分^者惣高之内より貳割引、残分貳ツ割^ニメ、壹ツ拾貳貫八百目余^{ニ而}、独礼繼目^者八貫目^ニ被極置候^ニ付、喜十郎儀、親跡町独礼相続可被仰付哉。

本文御郡代書面^ニ苗字・刀御免被仰付候様、達之通有之候へ共、引繼之外新^ニ被仰付儀ハ難相成候付、本行之通可被仰付哉。

熊本町^ニ准候町ハ、熊本町町人同様御取扱^ニ極候事。寛政七

年六月

右付礼之通、五月廿五日申渡

(文化十二年)

六五 岡村万蔵

(九一二〇一四)

御内意之覚

土席浪人格^{ニ而}病死仕候

宇土町居住岡村弥八郎俸

岡村万蔵

当亥十五歳

万歳親岡村弥八郎儀、御類焼寸志寄貫五百目・御手当寸志米代四百六拾五匁、都合寄貫九百六拾五匁寸志差上申候處、追而繼目之節被立下候旨、文化八年十一月御書附を以申渡置候。

一 右万歳儀文学之儀者、宇土町宝性院門弟^{ニ而}出精仕、武芸之儀者、宇土御家中藤竹文右衛門門弟^{ニ而}稽古仕居、至極篤実之者^{ニ而}、生立^{おこ}宜敷御座候上、相統之儀^{ニ付而}ハ、前文之通御書附を以、申渡置候筋^茂御座候間、旁以親同前土席浪人格被召出被下候様、於私^茂奉願候。此段宜敷被成御參談可被下候。以上

三月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

万歳儀、達之通^{ニ而}、父岡村弥八郎寸志差出候付^{而者}、追而繼目

被立下段、及達置候付、父同前土席浪人格^ニ可被召出哉。

右付礼之通、六月廿八日申渡候。

亥六月廿八日申渡

六六 庄右衛門 他

(九一二〇一四)

御内意之覚

泰山手^(松)永松山村

庄右衛門

一 錢六百拾九匁五分

当亥五十七歳

右庄右衛門高祖父松山庄左衛門と申者、松手^(山松手)永御惣庄屋も相勤候者

^{ニ而}、其子弥左衛門代役儀被差除、人畜被仰付、其孫弥左衛門と申者、庄屋役相勤候内、右庄右衛門出生仕、兼々申聞置候者、為冥加

年年々作初穂米穀之内考儀・錢老匁完困置、追而寸志^ニ差出候様遺言仕、相果候^{ニ付}、其趣相守、去ル午年迄作初穂之内米穀都合三拾三俵・錢三拾三匁貯置候を、乍恐差上申度、内意願出申候^{ニ付}、何卒願之通被召上、泰山手永鰥寡^(松)・孤独御救恤御備之内^ニ被為差加置被下候様、去々年五月奉願候處、願之通被召上候^{ニ付}、右之錢辻相納、泰山手永鰥寡・孤独御備之内、指加置申候。庄右衛門儀、右^{ニ付}、内望之筋等聊無御座候得共、親遺言を相守、農業出精仕、格別御難題等不奉願、右之通数十年來心懸貯置、寸志^ニ差上、且先祖之訳^茂有之者^{ニ付}、旁被対、乍恐礼服御免被仰被下候様。

同手永松原村

一 錢四百拾匁

武助

当亥三十七歳

右^者宇土御知行所泰原村之儀、至^而之零落所^{ニ而}御座候處、去々年格別難波^{ニ而}種子粃所持不仕者共、都合十人有之、種子浜時候^ニ差向候得共、如何体^{ニ茂}才覚之手段無御座、何れ^茂当惑仕居申候處、右難波之様子、武助承付、種子浜時候後^{レニ}相成候^{而者}、難相濟ト奉存、其身も漸可也^ニ押移居申候中より、右之錢辻、右十人之者共へ配当仕、無恙御百姓取続申候。是以毛頭内望之筋等無御座候得共、貧民^ニ力を添候者^ニ御座候間、乍恐傘・小脇差等御免被仰被下候様。右之通、何れ^茂至^而寄特之者共^{ニ而}御座候付、不聞御内意仕候間、可然様被成御參談可被下候。以上

三月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

庄右衛門、乍初穗寸志六百拾九匁余指出候付、傘・小脇差御免之儀、達之通候得共、前文員数ニテ者、傘迄御免之極ニ付、傘可被成御免哉。

武助儀、達之通候得共、青貫目以上ニテ、傘・小脇指御免之極ニ而、四百目余ニ而者、傘迄御免之極ニ付、武助江傘可被成御免哉。

一 御郡御目附付御横目聞方書付相替儀無之、署。
右付礼之通、七月十一日及達候。

六七 楊元逸 他

(九一〇—四一)

御内意之覚

御郡医師波多村居住

楊元逸

当戊五十三歳

元逸儀寛政十二年五月、親跡相統仕、御郡医師ニ被仰付、当年迄都合拾五ヶ年御郡並之御用出精仕候。寛政四年四月津浪之節、療治方出精仕候ニ付、金子被為拜領、文化二年正月附方会出精仕候ニ付而、御銀被為拜領候。惣療治方心懸能、當時郡浦手永戸馳波多三角浦大田尾赤瀬右五ヶ村ニ懸、竈数三百三拾軒余療治仕候。尤村方ニ而、至極難渋之者江者、折節施薬を茂仕、且又去秋以来、三角浦村疫疾流行仕、下作零落之村方之上、就中困窮仕候者共煩付、冬ニ至り候而も一衣不着之者共ニ付、薬用仕候而も、謝礼之心当も無之押移り候ニ付、元逸并愛甲三恵兩人江申合、右村病人共江施薬仕せ候処、病人数拾八人請持療治仕候

内、式人病死仕殘拾六人全快仕候。其節施薬数貳千三拾包施薬仕、右之通療治方茂手広仕、三角浦村江者、余計之施薬を茂仕候事ニ付、いか様とそ御賞美被仰付被下候様。

御郡医師並

中村居住

愛甲三恵

当戊三拾七歳

三恵儀去十月家督被仰付、御郡医師並ニ被仰付、御郡並之御用出精相勤申候。文化二年療治出精仕、多年附方会相勤候ニ付、於再春館御銀被為拜領候。同六年学業篤志療治習熟手広致出精、附方会数年無怠慢出席仕候ニ付御銀被為拜領候。當時者、親同様近方之医師并附方会相誘、各別ニ心懸出精仕候。尤松山郡浦兩手永ニ而、十ヶ村余其外天草郡ニ懸療治方手広出精仕、村方ニ而、至極難渋之者ハ折節施薬を茂仕且又去秋以来三角浦村疫疾流行仕候ニ付而茂、病人数貳拾八人請持療治仕候処、何れ茂全快仕、其節服薬数四千五百九拾七包、并広東人參掛目八匁四分人馬平安数貳百貳拾六包膏薬五拾五付、引薬付薬八拾包程施薬仕、委細者前条楊元逸同様之儀ニ付差有申候。右之通手広療治仕大造之施薬をも仕候事ニ付、乍恐如何様とそ被賞被下候様。

御郡代直触医師

下網田村居住

伊藤玄柳

当戊四十四歳

玄柳儀、寛政十年十二月御郡代直触ニ被仰付、当年迄十七ヶ年御郡並之御用、無懈相勤申候。文化四年正月家業心懸能、療治方篤志ニ有之、多年附方会等相勤、出精仕候ニ付、於再春官御銀二両被為拜領候。尤至極難渋之者江者、施薬を茂仕、且又去夏両網田・長浜三ヶ

村之内、疫疾流行仕候節、療治方出精仕、服藥數老万五千貳百九拾五貼^并御種子人參掛目八匁程、施藥仕候。右之通家業心懸宜敷、大造之施藥を^茂仕候^{ニ付而者}、零落之村方一稜之為合^ニ相成候事^{ニ付}、乍恐被賞、御郡医師並^ニ被召直被下候様。

御郡代直触戸口村

居住

江上桂寿

当戊四十五歳

桂寿儀、寛政四年十月親跡相統仕、御郡代直触醫師被仰付、当年迄都合貳拾三年御郡並之御用、無懈怠出精仕候。且家業心懸能、療治出精多年附方会相勵、学問進歩^{ニ付}、銀子被為拝領候。附方会之儀^茂、今以無懈怠出席仕候。惣体平日療治懸之村々、戸口・網田・下網田・赤瀬・長浜五ヶ村^ニ懸ヶ、三百貳拾軒余、專療治仕、至極難渋之者^{江考}折節施藥を^茂仕、且又去夏疫疾流行之節、両網田・戸口・長浜療治懸候^{ニ付}、服藥數三万四千貳百五拾六包、御種子人參掛目三拾八匁七分、犀角掛目壹匁分施藥仕候。右之通余計之施藥を^茂仕、屹度所柄之為合^ニ相成候事^{ニ付}、乍恐被賞、御郡医師並^ニ被召直被下候様。

御郡代直触醫師

下網田村居住

糸石寿軒

当戊四十一歳

寿軒儀、文化四年二月御郡代直触醫師被仰付、当年迄都合十ヶ年御郡並之御用、無懈怠相勤申候。文化二年正月家業心懸能、療治出精仕、附方会等相勵候段、御家老衆御聞届^ニ相成候段、御達^ニ相成候^{ニ付申渡候}。文化十年正月附方会數年出精篤志^ニ御座候^{ニ付}、銀子三兩被為拝領候。附方会之儀、今以無懈^{（茂）}出席仕候。網田・下網田・戸

口・長浜等、平日專療治仕、其外中村・赤瀬・里浦・郡浦方、右村々^ニ懸ヶ候^而、臨時^ニ罷越、療治仕候。且村方^ニ而^{至極難渋之者}江考折節施藥を^茂仕、且又去夏両網田・戸口村等、疫病流行之節、病人數三拾六人療治仕、服藥數八千貳百八拾三包施藥仕候。右之通所柄屹度為合^ニも相成候事に付、如何様とそ被賞被下候様。

右之通御座候。尤何れ^茂兼々再春官出席をも仕、惣体零落之村方^ニ而^{就中困窮仕候者共へハ}、藥用仕候^{而茂}謝礼之儀を不任、心底疫疾相煩イなから、間に^者其儘^ニ而^{押移り候様之者も有之}、夫等之儀^者村役人共心配行届不申儀^ニ而^{御座候得共}、医師中も兼々難渋之者^者施藥仕候^者当前之儀と相心得、平日いづれも専ラ右之心配仕故歟、前條元逸列之者共、余計之施藥をも仕候儀^{ニ付}、何分此節^者別段御食議を以、願之通被仰付被下候様、於私奉願候。左候ハ、御郡中一統^ニ相響、いづれも競勵可仕と、此段不聞御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

十月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

元逸儀、達之通^{ニ付}、金子貳百足程可被下置哉。

三惠儀、達之通^{ニ付}、金貳百足程可被下置哉。

本希^{（茂）}之通、達有之候へ共、玄柳儀、当春相果候段、達有之、相しらへ不申候。

桂寿儀、右同断。治療習熟、学問篤志且又余計之施藥をもいたし候付、旁御郡医師並可被仰付哉。

寿軒儀、達之通^{ニ付}、銀三兩程も可被下置哉。

右付札之通、八月九日申渡候。

六八 伊藤玄圭

(九一〇一四)

御内意之覚

郡浦手永下網田村居住

御郡代直触^{ニ而}病死仕候伊藤玄柳悴

伊藤玄圭

当亥二十四歳

右玄圭親伊藤玄柳儀、去ル寛政十年十二月親跡御郡代直触^{ニ而}被仰付、去戌年迄十七ヶ年医業出精仕、御郡並之御奉公、無懈怠相勤申候内、附方会等数年出精仕候由^{ニ而}、文化四年正月於再春官銀子被為拜領、且又去々冬以来、一統難波^{ニ付而ハ}、余計之施薬を^茂仕候处、其後相煩、去ル二月病死仕候。右悴伊藤玄圭儀、帆足玄齡門弟^ニ相成、彼方^江数年相詰居、再春館^{江茂}折々出席仕、医業心懸能、當時^{而者}、下網田村^江引取、専療治方出精仕、一稜所柄之為合^ニも相成、惣体人物も宜敷御座候間、直^ニ親同前御郡代直触被仰付被下候様有御座度、於私^茂奉願候。此段不聞御内意御達仕候間、可然様被成御参談可被下候。以上

六月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

玄圭儀、治療篤志^{ニ而者}、丁科^ニ相当申候付、親通^{ニ者}難被仰付、

苗字御免・御惣庄屋直触可被仰付哉。

右付札之通、十二月十日沙汰

(文化十三年)

六九 河野寿助

(九一〇一四の二)

御内意之覚

御郡代直触^{ニ而}、宇土郡郡浦手永会所詰

河野寿助

当子五十九歳

右^者當時迄御郡代直触^{ニ而}、会所詰相勤居申候。然処去冬三角浦村、長浜村御救立被仰付、三角浦拝借返納、其外諸事根拟之儀、同村居住一領一足緒方彦三悴緒方伴右衛門相勤、漁師仕入等^者、松合村草野安右衛門^江相談仕、安右衛門より仕入仕管^ニ御座候。然処長浜村之儀^者、会所より三里程^茂引放、網引・網田・網水・笠岩方^江接申候所柄^{ニ而}、長浜村零落^{ニ付而者}、近郷富家之者共、又^者御家中之家来等より錢を貸付、稠敷取立、庄屋共より相断申候^{而茂}、一通^{ニ而者}聞入不申哉^ニ相聞、煩敷筋^茂御座候由、内分承候儀^茂御座候处、此筋御救立被仰付候^{ニ付而者}、村方^茂競立居候折柄^{ニ而}、主^ニ成、長浜村^江引越、一村一家内同様^ニ世話仕候者無御座候^{而者}、成立兼可申奉存候間、右河野寿助儀、数十年会所詰相勤、生得美質^ニ有之、仕事向^者少鈍ク御座候得共、筆算^茂達者^ニ仕、指はまり相勤候氣向^ニ相成申候ハ、屹度村方立直可申候。其上寿助儀^者、惣体勝手向も兎や角仕、少々造酒等も仕候得共、子共兩人居申候^而、随分宿本之儀^者、寿助居不申候共、支不申候間、右寿助^江根拟申付候ハ、長浜村^江引越、漁業等余産之仕入^茂仕、屹度村方之助^ニ相成可申候。第一近郷之煩敷筋^茂押へ、旁別段之御食儀^を被為持、在勤中地土^ニ被仰付被下候

様。左様ニ御座候得者、弥以得競差はまり相勤、長浜村屹度成立之基ニ相成可申奉存候。其上郡浦之儀、津々浦々余計ニ抱候而、防禦之御家人、手足不申、長浜村ニ者、一人茂御家人居不申、自然之節御用ニ相立可申候。旁御別段之御食儀を以、長浜村御救立根拟、在勤中地土ニ被仰付被下候様、重疊奉願候。此段宜被成御参談可被下候以上。

二月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

寿助儀、達之通ニ付、在勤中地土可被仰付哉。

右付札之通、五月十九日及達。

七〇 井上甚平

(九一〇—四の二)

御内意之覚

諸役人段ニ而、唐物抜荷改方御横目

并御郡代手附横目、宇土人馬所横

目、当分津口・陸口見拟役兼帶

井上甚平

右井上甚平儀、先祖根元^著、有之候由、中古松山手永三日村御百姓ニ成、元祿二年甚平曾祖父庄右衛門と申者^江、三日村庄屋役申付、夫より代々庄屋役相続仕来申候處、右甚平儀、親庄右衛門庄屋役勤居候内、明和四年より頭百姓役相勤居、筆算等^茂達者ニ仕、惣体正直ニして、才力^茂御座候ニ付、同七年三月松山会所小頭申付、根拟役・会所詰と操上々相勤居候内、親庄右衛門病死仕候ニ付、甚平儀、親

跡庄屋役相続申付、天明元年五月迄在役^者八年、十四年相勤居候内、村方世話厚仕、押抱宜敷、諸御達筋行届、出精相勤候ニ付、私共限賞美申付、尚以出精相勤居申候。

一 右甚平儀、庄屋役出精相勤居候處、天明元年五月在勤中、一領一疋格被召出候ニ付、井樋方助役申付候。

一 同年十一月飽田・詫摩・下益城・宇土・灰石井樋御用・網津村石場見拟役兼帶申付候。

一 津浪一件ニ付而、井樋御普請之節、昼夜相詰、格別出精仕候旨ニ而、寛政五年三月作紋麻上下着具・金子貳百疋被為拝領候。

一 同七年十月井樋方助役持懸ニ而、手附横目役当分申付候。

一 同八年二月数役相勤候ニ付、灰石場見拟之儀、断願出候ニ付、指免申候。

一 洪水後所々御普請所へ罷出、諸事申談等出精仕候旨ニ而、同年八月金子貳百疋被為拝領候。

一 同十年在勤中、一領一疋ニ被仰付候ニ付、手附横目定役申付候。

一 御才覚銀一件ニ付、心遣イ仕候旨ニ而、同年五月金子貳百疋被為拝領候。

一 役方多年手金ニ相勤候旨ニ而、享和二年四月一領一疋・土席被仰付候。

一 請免ニ付而、御用繁多ニ有之、一役者断願出候ニ付、同三年井樋方助役^者差免申候。

一 御才覚錢被返下候殘、寸志差上、且役方心懸能、出精相勤、旁被賞、文化元年八月作紋御小袖一ツ被為拝領候。

一 在中請免ニ付而、出精相勤候旨ニ而、同年三月作紋麻上下一具被為拝領候。

一 同二年七月唐物拔荷改方御横目被仰付、在勤中諸役人段被仰付候
ニ付、手附横目役ニモ、直ニ兼帶申付候。

一 同年閏八月宇土人馬所横目当分兼帶申付候。

一 多年出精相勤、役前厚心を用、各別御用ニ相立候旨ニ而、同八年五月諸役人段本席ニ被仰付候。

一 同十年四月津口・陸口見以兼帶被仰付候。

一 西本願寺より宗意しらへ方ニ付而、御使僧罷下り候一件之御用、各別致出精候旨ニ而、金子百足被為拜領候。

一 公義御困初一件ニ付而、出精仕候旨ニ而、同十二年六月金子百足被為拜領候。

右之通ニ而、明和四年より当年迄、在役共都合五十年御奉公出精相勤居申候内ニ者、私共限賞美申付候儀、追々御座候而、今以壯ニ精勤仕居、身分之儀、近々結構ニ被仰付候ニ付而ハ、弥以競を得出精仕、別而請免以後者、諸御用多、必多度立合筋見聞方、万端出統勝ニ而、日夜出精仕、数役心懸厚、專御用ニ相立、誠ニ格別之勤勞ニ而御座候間、何卒別段被賞、此上身分進席被仰付被下候様、乍恐於私奉願候。此段被聞、御用達仕候間、可然様被成御參談可被下候。以上

三月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

甚平儀、達之通ニ而、惣年数五十年相勤、且天明元年以来、難渋之者取救として、追々差遣候米高式拾石程有之、是又寄特之至ニ付、旁被賞、歩御小姓列可被仰付哉。

右付札之通七日伺、同十日申渡。

一 御郡御目附付御横目(御目附)聞方之書付も有之候得共、申立通格別不相

替候付、打略候事。

七一 小山己三郎

(九一〇—四二二)

松山手永御惣庄屋ニ而、病死仕候小山改藏粹

小山己三郎

当子三十二歳

右己三郎儀、生質実貞成者ニ而、才力茂有之、筆算等も達者ニ仕、且文化元年より親小山改藏病中故障等之節、代役御免被仰付、文化十年十二月より郡浦典太病氣ニ付、助役被仰付、彼方江相詰、手永内頻々打廻り、出精相勤申候處、翌五月典太病氣快罷成申候ニ付、彼方助役之儀者被成御免、当年迄代役十三年相勤申候處、兼而慎方宜敷、平日会所役人・村庄屋等江、諸御用申談等、熟和御座候ニ付、手永中も諸方宜敷様子見聞仕候。右之通数年代役も相勤、御用向能吞込居、一体物馴候者之儀ニ付、乍恐此節親改藏跡、松山手永御惣庄屋并御代官兼帶被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。尤同役中申談仕候處、何レも存寄之筋無御座候間、宜敷被成御參談可被下候。以上

六月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

松山手永御惣庄屋ニ而、病死仕候小山改藏粹

小山己三郎

右己三郎儀、実貞成ル人物之由ニ而、筆算等達者ニ仕、才力茂有之様子ニ而、文化元年より御惣庄屋代役を、御免被仰付置、去ル西十二

月より翌五月迄、郡浦典太病中付^而、助役を^茂相勤、於彼方も出精相勤候由、數年代役相勤申候付、御免方之儀^茂吞込居、往々御用^ニ相立、可申人物之様子、委細御郡御目附付御横目聞方、付^而之通^ニ御座候。依之親跡松山手永御惣庄屋・御代官兼帶被仰付、御知行高式拾石被下置^ニ而可有御座と奉存候。御存寄無御座候ハ、選舉方^江可被差廻哉。

御郡方

付札

小山改藏儀ハ、所々御惣庄屋相勤、御知行下地式拾石被下置、追々勤功^ニ而式拾石兩度^ニ被増下、都合四拾石^ニ而御座候得共、根元松山手永^者踏出式拾石之御知行、追々被下置候見合有之、此節已三郎儀、本行之通相しらへ候事。

已三郎儀しらへ之通^ニ付、松山手永御惣庄屋・御代官兼帶被仰付、御知行高式拾石可被下置哉。

右付札之通、七月廿七日及達。

御郡御目附付御横目聞方書付ハ、御郡代申立通不達替候故扣署。

(文化十四年)

七二 積 庄助、正垣常右衛門

(九一二〇一五)

唐物方御横目・御山支配役・御郡代手附横目・津口陸口見以役兼帶

積 庄助

当子五十八歳

右^者安永七年親跡一領一疋被召出、御郡並之御用、無懈怠相勤居申候处、天明二年郡浦手永之内、中村と申所、金山大槻仙助堀方有之節、右見以申付置候处、同五年右見以役断願出候^ニ付、差免置申候处、寛政四年手附横目役^并并樋方助役兼帶申付、文化二年唐物拔荷改方御横目被仰付、在勤中諸役人段被召直、同五年并樋方助役差免宇土郡御山支配役^ニ転役被仰付、同十一年津口・陸口見以役兼帶申付置候。右之内繁雜之御役、數々相勤候内、津波・洪水・本願寺御使僧一件・公義御囲組一件等、厚致心配、津波・洪水之節^者、別段致出精候旨^ニ而、作御紋麻上下^并并金子等、其時々被為拜領候。

右之通安永七年より当年迄三十九年相勤、請御免以来^者、別^而御免方立合、其外諸御用^茂相増候得共、惣体才力も有之者^ニ而、聊^茂勞仕不申、當時^ニ而ハ諸事別^而引以候様子^ニ相聞申候間、乍恐數十年之勤功劳被对、進席被仰付被下候様。

塘方助役赤石場見以・手永見以兼帶

正垣常右衛門

当子六十七歳

右^者安永七年親跡老領老足被召出、御郡並之御奉公、無懈怠相勤居申候处、天明五年郡浦手永中村之内、金山大槻仙助堀方之節、見以役申付置候处、同七年金山堀方被差止候間、同年九月より塘方助役申付、寛政八年網津村赤石場見以兼帶申付、生得廉直^ニ而、諸事實素^ニ相心得候者^ニ付、当春以来手永見以^ニ而、会所出会も仕、數々繁雜之役儀相勤候内、津波・洪水之節^者、格別致出精、其外笹原^并并新聞方、追々新地築立之節迄も、一郡塘方助役一人^ニ而相勤、家事も差

置、数十年精勤仕候内^ニ者、作御紋麻上下^并金子等、其時々被為拝領候。

右之通、安永七年より当年迄都合三十九年相勤申候。尤塘方助役申付候以来、一昨年迄数十年之間、松山・郡浦両手永六十里之間、大小之御普請勞も繁、近年^者別^而新堤・新井手堀方等、数十日詰切り、日夜之勤方心懸能、村々滞留中^茂、諸造用看略仕候様、厚心を用、其上当春以来^者、手永見以申付、会所元^{江茂}出勤仕、内外厚心配仕、往々ハ風俗も引直シ可申と見込申候程^ニ而、手全出精相勤申候間、乍恐数十年之勤勞旁被対、進席被仰付被下候様。

右兩人之者共、数十年御役一偏^ニ打懸、連々不勝手御座候得共、一向家事之幕方等^ニ者、指構不申、精逸^ニ出精相勤、奇特之者共^ニ御座候間、不閑御内達仕候間、宜敷被成御参談可被下候。左様御座候ハ、當時別^而引以申付置候折柄^ニ付、旁以外々^茂勵^ニ相成可申候間、可然被仰付可被下候。以上

子

十月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

覚

郡浦手永御山支配役^并唐物抜荷改方御横目

御郡代手附横目・津口・陸口見以役兼帶

積 庄助

右庄助儀、安永七年親跡一領一疋被召出、御郡並之御用相勤居申候処、天明二年以後^者、別紙書面之通、加役申付^ニ相成、當時前条之御

役相勤、当年迄惣年数三十九年相勤候由、受免後者、御免方一卷御用筋相増、数々御役繁雜有之候得共、惣体氣働有之人物^ニ而、何れ之御役^茂無間拔出精相勤候様子^ニ相聞申候。尤去ル子年津浪・辰年洪水・午年御才覚錢一件、受免後、諸立会、本願寺御使僧宗意しらへ一件、公義御困糶一件、右臨時之御用筋之節、各別精勤仕候旨^ニ而、追々被賞、作御紋麻上下両度、金子五度被下置候由^ニ御座候。

同手永塘方助役^并網津石場見以役。

手永見以兼帶

正垣常右衛門

右常右衛門儀、安永七年親跡一領一疋被召出、天明五年已後、別紙書面之通、加役申付有之、當時前条之御役方相勤、御郡並之御奉公共、都合三十九年相勤候由、惣体廉直成人物^ニ而、質素を相守、諸御普請等之節、御出方筋^者勿論、村々滞留中、費々間敷儀無之様^ニと、万端心を用候由、去々年迄^者、宇土郡^{江茂}塘方助役者人^ニ而、数十年之間両手永御普請を引受、心勞仕、当春以来^者、郡浦手永見以役申付^ニ相成、村々頻々打廻り、会所^{江茂}出勤いたし、何れ之御役^茂精勤仕候様子^ニ相聞申候。尤去ル子年津浪、辰年非常之洪水、跡塘手御普請、且新開・笹原両材之新地御築立等^ニ付^而、始末出精、且又数年來精勤仕候旨^ニ而、追々被賞、作御紋麻上下両度・金銀等度々被下置候様子^ニ御座候。

右兩人身分之儀、為御聞方被差出、承合候趣、書付を以、御達申上候。以上

子

十一月

伊藤多加右衛門[㊟]

正月廿五日申渡。

庄助儀、惣年数三十九年之内、唐物技荷改方御横目、今年迄十三年出精相勤、諸事引以候段、達之通^ニ付、諸役人段本席可被仰付哉。

常右衛門儀、勤勞之様子、達之通^ニ付、在勤中諸役人段可被仰付哉。

右付札之通、正月廿五日申渡。常右衛門ハ及達。

七三 佐田源次 他

(九一〇一五)

御内意之覚

宇土郡一領一疋

佐田源次

当子四拾五歳

右^者文化二年親跡一領一疋^ニ被召出、当年迄十二ヶ年御郡並之御奉公、無懈怠相勤申候。然処近年病身^ニ罷成、御奉公難相勤御座候間、乍恐御奉公御断申上度願出申候間、承札申候処、願出之通相違^茂無御座、願之通被成御免候様。

右佐田源次養子

佐田曾八

当子廿四歳

右曾八儀、惣体人物宜、筆算^茂太体^ニ有之、炮術中村三左衛門門弟・劍術村上大右衛門門弟・居合野田三郎兵衛門弟・弓^茂見惣兵衛門門弟^ニ出精仕、家柄之者^ニ御座候間、乍恐親源次跡一領一疋直^ニ右曾八^ニ相談被仰付被下度、於私奉願候。此段宜被成御参談可被下候。以上

文化十三年十一月

御郡方

御奉行衆中

覚

宇土郡一領一疋^ニ而郡浦手永中村居住

佐田源次

四十五歳

右^者病身相成、御奉公難相勤、御改願差出候由、右養子佐田曾八炮術劍術等出精いたし、人物等之様子承合候処、右源次儀、文化二年五月親跡一領一疋相統被仰付、御郡並之御用相勤居候処、近年病身相成、一領一疋難相勤候^ニ付、当九月御改願書差上置候。当年迄都合十二年無懈怠相勤候由相聞申候。

右佐田源次養子

佐田曾八

二十七歳

右曾八儀手全成者^ニ而、炮術劍術居合弓本書之通御座候。出精いたし候由、且筆算等^茂相応仕候。人物宜相聞申候。一領一疋家柄之者^ニ御座候。往々御願置之御用可相立人物之由承申候。右為御聞方被差出候^ニ付、承合候趣、御達申上候。以上

子十二月

大賀久次

源次儀願之通一領一疋可被成御免哉。

曾八儀達之通^ニ而、数代一領一疋被仰付候家筋之者^ニ付、親跡一領一疋可被召出哉。

御内意之覚

松山手永曾畑村庄屋

茂七

当丑七十三歳

右茂七儀、親茂平と申者、曾畑村庄屋役申付置、数十年来相勤、老衰仕候ニ付、安永六年酉九月より、右茂七江代役申付置候処、天明八年迄十二年代役相勤居申候処、同年十二月親跡庄屋役相統申付、当年迄三十年相勤、代役ともニ者、都合四十一年手全出精相勤申候。

一 右茂七儀、役方数年心懸能出精相勤、村方江之教示等、行届候旨ニ而、被賞、文化三年寅十二月、礼服・小脇差御免被仰付候。

右之通御賞美を被仰付候ニ付而者、弥以役儀出精仕、相勤居申候。

右茂七儀、兼而役方心懸厚、格別手全成者ニ而、御年貢・諸出米銭・諸公役等ニ至迄、手堅取計候ニ付、村中帰服仕、諸上納物等茂、

年々相濟、其外不作之年柄、御損引等願出候節、高究下見等之取計、格別廉直ニ仕出、一体村中江之申諭等茂行届、其上請免ニ付而者、格別心遣茂強御座候処、農業万端出精仕候ニ付、零落之村方ニ御座候得者、兎哉角と押移せ、御難題等に茂相成不申、当所之御用速ニ相勤、

出精仕候者ニ而、手永中庄屋役之内ニ者、格別之者ニ御座候間、何卒被賞、苗字御免之御惣庄屋直触被仰付被下候様、奉願候。左候ハ、

弥以出精仕、外々庄屋共励に茂相成可申奉存候。此段見込之趣、不

闕御内達仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

六月
御郡方
片山九郎兵衛

御奉行衆中

茂七儀、四十一年相勤、年数見合茂御座候間、苗字御免・御惣庄屋直触可被仰付哉。

右同断

七四 茂七

(九一二〇一五)

寛

松山手永曾畑村庄屋

茂七

七十三歳

右者庄屋役数年出精相勤候由、承合候処、右茂七父茂平、庄屋相勤居申候処、親代役安永六年九月被申付候。天明八年十二月親跡庄屋被申付候。文化三年十二月出精相勤候旨ニ付、礼服・小脇差御免被仰付候。村高六百四拾九石五斗余・竈数六拾五軒、惣人数三百式拾人程。以前者零落村ニ而、有之候処、右茂七庄屋役以来、農業相誘、教示等仕候処、出精いたし候ニ付、年々御年貢・諸出銀・諸公役等速ニ有之、諸事取計筋手堅有之候ニ付、村中帰服いたし、本書之通御座候。当年迄代役・本役共都合四十一年、役方心懸厚、手全、各別出精相勤候由、相聞申候。右為御聞方被差出、承合候趣、御達申上候。以上

丑八月

大賀久次

七五 桑原文七

(九一二〇一五)

御尋候付申上寛

桑原文七、祖父以来代々丁内其外難波之者共、長雨降統、商売も相成不申、取統兼候時分、且節季ニ至、年越之手当無之至貧之者共へ

ハ、毎年糧米配當仕候由、大概一度ニ米三・四俵、又ハ年柄ニより式・三俵完、一ヶ年ニ兩度程、年々配當被仕候由、其外救売等^茂有之候様子ニ御聞込ニ相成、右ハ祖父何某代、何之何年より何某代迄何十年程、米穀類何程取救被申候哉。私共見聞之趣、委數可申上旨、奉得其意候。右ハ桑原文七祖父作平次と申仁、手全成ル人^{ニ而}、質・造酒兩職仕被申儀ニ候得共、長雨降続、商売等^ニも罷出得不申、取統兼候時分、見計且又年越等之手當無之、至^而貧窮之者共^ニハ及深更、内方之下男共^ニ持せ、極内密ニ米穀遣シ被申儀ハ、及承居申候。勿論桑原文七養父桑原作平次・同文七代、去年迄ハ米穀之増減ハ御座候由ニ候得共、前々之振合^ニて、配當御座候段及承申候。極々内分之取計筋ニ御座候得ハ、年數・米高之處、表向^ニハ相分り不申候間、桑原米次郎方承合申候處、祖々父代之儀ハ一向存不申由。尤祖父并親文七代、去年迄ハ右損難波之砌ハ、夜更候^而、米杯配方御座候。勿論極内分心持^ニて之取計筋ニ御座候間、俵數等帳面ニ扣申統^ニても無御座と被申候。右之通之儀^ニて、米穀之員數ハ相分不申、尤米次郎祖々父作平次代よりハ數十ヶ年ニ相成申候と奉存候。右御尋^ニ付、私共見聞仕候趣覺書を以申上候。以上

文化十四年四月

宇土町別當

才兵衛[㊟]

藤本茂作[㊟]

井上甚平殿

覺

桑原文七病死いたし候由、右倅桑原米次郎人物等承合候處、文七父

桑原作平次、追々寸志之依訳、麻上下一具被為拜領候。且苗字・刀被成御免候處、猶寸志之依訳八人扶持被下置候處、文化二年五月病死仕候^ニ付、右文七儀、同三年七月、追々寸志之依訳、父同前八人扶持被下置候。同六年五月、村々質・地代錢余計捨方仕候處、同七年七月土席浪人格被仰付、桜御紋御小袖褌ツ被為拜領候。当正月病死仕候。然処父作平次代より文七代迄、宇土町之内、至貧のもの取統兼候^ニ付、節季至年越手當無之者^{江者}、毎年糧米内密^{ニ而}配當いたし、取救來候由、惣體數十年之儀相聞申候。取救候米高等^者、扣置不申候^ニ付、相分兼候得共、相違之儀^者無之由、至貧之者共、一稜取救相成候。父作平次より倅文七迄、寸志之依訳被賞候趣、且取救等之儀、本書之通御座候。右兩人死後至篤実成様子、取柄^{ニ而}相唱申候。

土席浪人格^{ニ而}病死仕候桑原文七倅、宇土町居住

桑原米次郎

二十四歳

右米次郎儀、手全成者^{ニ而}、劍術・炮術稽古仕候。捕手之儀、目錄相伝相濟候由、筆算等相応いたし候。所柄^{ニ而}人物唱^{茂宜}、相聞申候。右為御聞方被差出、承合候趣、御達申上候。以上

丑

七月

大賀久次

御内意之覺

土席浪人格^{ニ而}病死仕候宇土町居住

桑原文七悴

桑原榮次郎

当丑二十四歳

右榮次郎祖父作平次と申者、安永六年松山手永村々難波^ニ付、為取救錢六百四拾五匁、寸志指出申候處、影踏之儀、家内共^ニ宿所^ニ而、踏方被仰付置候。

一 右作平次儀、天明四辰年凶作^ニ而、村々難波仕候^ニ付、為取救錢貳貫目寸志差出申候處被為賞、翌巳正月無苗^ニ而、御郡代直触^ニ被仰付候。

一 天明五巳年、御手伝御用^ニ付、錢三百五拾目寸志差出申候。

一 同七末年、御巡見様御本宿御繕^ニ付、錢壹貫目寸志差出、且難波之者共取救、又^者米救壳等仕候^ニ付、翌申五月苗字・刀御免被仰付候。

一 寛政元年、御上金^ニ付而、錢四百目寸志差上、四ヶ年^ニ相納申候。

一 同四子年津波^ニ付而、村々為取救、粟八俵差出、薄着之者共^江古布子三ツ、且塘筋破損所潮留之節、夫方為氣附酒肴斗五升差出申候處、奇特之儀、御間^ニ御聞届^ニ相成候段、翌丑六月、御書附を以申渡候。

一 同八辰年洪水^ニ而、郡浦手永新開村潮塘破損所御普請御入目之内、錢壹貫目寸志差上申候處、作御紋麻上下一具被為拜領候。

一 享和二戌年、御銀所預潰方^ニ付、各別寸志錢拾三貫五百六拾目并御才覚銀代錢御返済式拾貳貫四百四拾目、都合三拾六貫目一同寸志差上申候處、翌亥七月より八人扶持被為下置候。

一 文化二丑年、若殿様、御入部^ニ付而、為冥加錢百目寸志^ニ差上申候處、奇特之儀、御満足被為、思召上候旨、同四年一統御書附を以申渡候。右之通追々結構^ニ被仰付置候處、右作平次儀、文化二年五月

病死仕候^ニ付、同三年七月養子文七儀、追々寸志之訖^ニ被對、親同前苗字・刀御免之御郡代直触^ニ被召出、八人扶持直^ニ被為下置旨被仰渡候。

一 右文七儀、龍口、御屋敷御類焼^ニ付而、錢六貫目寸志差上、且御手当寸志米九石六斗代錢^ニ而九百三拾目并松山手永不作^ニ付而、御損引下米不足分^ニ錢七貫百目、都合拾四貫三拾目、文化七年正月迄^ニ、追々寸志差上、尚又文化六年五月、村々實地代錢拾八貫六百三拾五匁捨方仕候處、同七年子七月士席浪人格^ニ被仰付、桜御紋御小袖一ツ被為拜領旨、御目錄を以被仰渡候。

右之通、追々結構^ニ被仰付置候處、文七儀、当正月病死仕候。右文七儀、前々より身上向、兎哉角仕居候^ニ付、祖父以来代々丁内至^而難波之者共^江永雨降続、商賈^等相成不申、取統兼候時分、且節季^ニ至、年越之手当無御座、至貧之者共^江每年糧米配当仕、取救米候由及承申候間、重疊承札申候得共、根元内分之憐情より取救儀^ニ而、勿論扣等も無御座、暇と分兼申候得共、奇特之者^ニ付、別当共口書相添、御達仕候。右之通祖父代より追々余計^ニ寸志差上、取救等仕、數代奇特之者^ニ御座候。且又武芸之儀も心懸能、捕手^者無双流宇土御家中武藤伝兵衛門弟^ニ而、目錄相伝仕居、炮術^者有馬流右同林原半次門弟^ニ而稽古仕、長刀之儀^者右同渡並素内門弟^ニ而稽古仕、惣体人物も宜、筆算等^茂相応^ニ仕、往々御用可相立人柄と見聞仕候。然處當時^ニ而者、難波仕、繼目寸志等も格別指出得不申候得共、追々之寸志彼是被為對、何とそ相応被召出、御扶持方之儀^茂少減^ニ而被為拜領被下候様、乍恐於私奉願候間、重疊宜被成御參談可被下候。以上

五月

御郡方

御奉行衆中

片山九郎兵衛

覚

御目見医師橋本宗俊

橋本宗甘

栄次郎儀、達之通^ニ而、父桑原文七ハ寸志之訳^ニ而、土席浪人

格^ニ被仰付置、八人扶持被下置候処、当月相果申候。然処

繼目^ニ被立下程之寸志も差出置不申候付、栄次郎儀、諸役人

段被召出、御扶持方ハ八人扶持之内、世滅極之通、四人扶持

可被下置哉。

土席浪人格之跡^者、諸役人段被召出極^ニ御座候。

但追々所柄難洩之者取致^ニ、米錢等聊立差遣、且武芸心懸候

段も、御間^ニ承届候段、及達可申哉。

右付札之通、十二月七日申渡

右付札之通、十二月九日沙汰。

宗俊儀、願之通御目見医師可被成御免哉。宗甘儀、達之通^ニ而、学問熟練、治療習熟いたし、丙科^ニ相当仕候付、御郡医師並被召出、八代御郡代之支配可被召加哉。

七七 森内甚兵衛、河野慶蔵

(九一二〇一五)

七六 橋本宗俊

(九一二〇一五)

覚

郡浦手永網田村庄屋^ニ而、同所皿山請込・在勤中御

惣庄屋直触

森内甚兵衛

四十二歳程

口上之覚

私儀、病氣罷成、御奉公難相勤体^ニ御座候付、御目見医師御断申上

度奉願候。忝橋本宗甘儀、当年三十六歳罷成申候。此者家業相統被

仰付被下候様奉願候。以上

文化十四年七月

橋本宗俊

岡田宗雪老

村井玄斎老

片山文寿老

此願^ニ岡田別添書有之候へ共

扣署

右甚兵衛身分之儀、別紙御郡代衆書面之趣を合、承合申候処、郡浦会所見習^ニ罷出候以来、小頭役相成、当時網田村庄屋役并同所皿山請込被仰付置、在勤中苗字御免・御惣庄屋直触被仰付置候。筆算共^ニ達者^ニ仕、惣体気働^茂有之、書馴候人物之様子^ニ而、宇土町宿駅小頭^ニ被召仕^ニ相成候^而も、可然人物^ニ相聞申候。勤之年数・功業等、御郡代衆書面之通、相違無御座、相聞申候。

同手永手場村居住、在勤中地主、河野寿助俸

河野慶藏

三十五歳程

右慶藏儀、前文別紙之趣ニ付、承合申候處、享和元年より文化七年迄、郡浦会所小頭役十ヶ年程、相勤申候由、筆算・武芸等稽古仕、當時御山見拟助勤三角浦村庄屋後見被申付、心懸能出精相勤候様子ニ御座候。生得柔和ニ相見、物馴候人物之様子ニ而、森内甚兵衛跡、網田村庄屋并皿山受込被仰付候而、可然人物之様子ニ相聞申候。右見聞仕候趣、書付御達申上候。以上

丑

十一月

内田嘉助

御内意之覚

郡浦手永網田村庄屋ニ而、同所皿山請込、在勤中御惣庄屋直触

森内甚兵衛

当丑四十歳

右甚兵衛儀、手全成者ニ付、寛政三年より郡浦会所見習ニ呼出、同六年同所小頭役申付、相勤居申候處、同八年夏洪水ニ而、而新開村川塘破損所潮留并本築等共始末、出精仕候段、御間ニ御聞届相成候旨、御達御座候間、及其達申候。同十二年郡浦会所御田極蔵等建方ニ付而、御入目錢之内ニ寸志差出候ニ付被賞、傘・蓑笠被成御免候。文化三年網田村庄屋役申付、同八年閏二月、同所皿山御用請込兼帶被仰付、在勤中苗字御免・御惣庄屋直触被仰付、当年迄都合式拾七ヶ年出精相勤居申候。然処宇土宿駅請込小頭嘉平と申者、去冬病死仕、右跡

役之儀、早速申付不申候而ハ、繁雜之役前年足不申候得共、相応之人物無御座、惣体右宿駅之儀者、繁劇之御用向ニ而、弁舌等宜敷、機転能者ニ而無御座候而者、難相勤儀ニ御座候。然処右甚兵衛儀、數十年役儀ニ而相勤居、万端吞込能、氣働宜敷者ニ而、專皿山御用出精相勤居申候得共、前文之通之儀ニ而差寄甚兵衛より外ニ、宿駅請込可申付人物無御座候間、網田村庄屋役之儀者、転役ニ而宇土宿駅請込申付度奉存候間、乍恐皿山請込之儀者被成御免被下候様奉願候。将又甚兵衛儀、前条之通見込を以、転役申付候儀ニ御座候間、乍恐苗字御免之御惣庄屋直触持懸ニ而、転役被仰付被下候様奉願候。右之通、片山九郎兵衛より申立。

書面之通ニ付、森内甚兵衛儀、網田皿山受込可被成御免哉。尤苗字持懸之儀ハ、於選舉方御會議可被及と奉存候。

御郡方

甚兵衛儀ハ、御献上御用之皿山受込被仰付候付、在勤中苗字御免・御惣庄屋直触ニ被仰付置候。然処此節宇土宿駅受込申付候人柄無之、右甚兵衛儀、氣働宜者ニ而、右受込申付度由、書面之通ニ付、宿駅役人ニ転シ候而者、右在勤中之苗字ハ上り申答ニ御座候ハ共、人才を以被転候もの、苗字上り候而者、迷惑可仕候間、皿山御用も七ヶ年無申分、庄屋役以来ハ廿七ヶ年、出精相勤候付、別段を以、やはり苗字御免・御惣庄屋直触ニ而可被差置哉。

右付札之通、十二月十二日沙汰。

七八 積 庄助、西山武左衛門

(九一二〇一五)

覚

郡浦手永中村居住、御山支配役・唐物拔荷改方

御横目・御郡代手付横目役兼帶

積 庄助

五十九歳程

右庄助儀、御山支配役出精相勤候様子^ニ御座候。然処御横目役之儀^者、事^ニより届兼候儀茂御座候^而者、難相濟儀^ニ付、御断申上候内存之趣^ニ相聞、尤^ニ茂相聞申候間、御山支配一役被仰付候^而、可然哉^ニ見聞仕候。

松山手永永尾村居住、一領一疋・御郡代手付横

目当分役

西山武左衛門

五十五歳程

右武左衛門儀、松山会所前後数十年相勤居、村庄屋役^を、数年相勤申候處、文化八年寸志之詔を以、一領一疋被仰付置候處、去三月御郡代手付横目当分役被申付、相勤居申候。武左衛門儀、手全成人物之様子^ニ而、右之通会所向相勤申候^ニ付、諸御用筋吞込能、才力^茂有之様子^ニ而、無抜目出精相勤候様子^ニ相聞申候。

右兩人身分為御聞方被差出候^ニ付、承合申候處、御郡代衆書面之趣、相違無御座、相聞申候間、書付御達申上候。以上

丑 十一月

内田嘉助

御内意之覚

御山支配役・唐物拔荷改方御横目・御郡代手付

横目

積 庄助

当丑五十九歳

右^者多役相勤居申候處、郡浦手永之儀^者、至^而手広数役相勤居申候^而者、御山仕立方等届兼候儀^茂可有御座と見聞仕候間、唐物拔荷改方御横目之儀^者被成御免、御山支配役一遍^ニ被仰付被下候様。

松山手永永尾村居住、一領一疋・手附横目役当
分 西山武左衛門

当丑五十五歳

右武左衛門儀、安永七年松山会所小頭役申付、相勤居申候處、天明六年永尾村庄屋役^ニ転役申付、尚又寛政十年松山会所詰^ニ転役申付、文化六年下代役^ニ申付、三十三年相勤居申候處、同八年追々之勤功且寸志之詔を以、一領一疋^ニ被召出候^ニ付、会所下代役之儀^者差免、御郡並之御奉公無懈怠相勤居申候。然処右武左衛門儀、惣体才力も有之、筆算等^茂達者^ニ仕候間、去三月以来手附横目当分役申付、網田皿山御用専^ニ相勤、遠方必多度通勤仕、其外兩手永見聞方且立合御用等、繁雜^ニ御座候處、諸事吞込能、役方心懸能、格別出精相勤、前後四十年精勤仕申候間、右庄助跡役之儀^者乍恐右武左衛門^江、在勤中諸役人段被召置、唐物拔荷改方御横目被仰付被下候様奉願候。右願之通被仰付被下候ハ、御山仕立方^江も相届、且網田皿山御用錢出入立合、其外兩手永見聞^茂相届、屹度御郡中^茂取拟^ニ相成可申と奉存候間、不閑御内意仕候間、宜敷被成御參談可被下候。以上

七月

片山九郎兵衛

御郡方

御奉行衆中

庄助儀、達之通^ニ付、唐物技荷改方被成御免、御山支配役一篇可被仰付哉。

武左衛門儀、達之通^ニ付、唐物技荷改方御横目被仰付、在勤中諸役人段可被仰付哉。

右付札之通、十二月十五日沙汰。

(文政三年)

七九 郡浦典太

(九一〇一八)

御内意之覚

郡浦御惣庄屋

郡浦典太

右^者先御惣庄屋郡浦三郎右衛門儀、病氣差発、御役御断申上候節、実子新五左衛門儀、幼年^ニ御座候間、右典太を養子仕、相統奉願、新五左衛門成長仕候上、御用^ニ相立可申人物^ニ茂、相成申候ハ、猶又典太跡引讓可申と相合居申候様子^ニ而、直^ニ三郎左衛門跡御惣庄屋被仰付、相勤居申候處、典太儀先年大病後、些不氣根^ニ罷成、乍恐御役御断申上度、尤新五左衛門儀、最早当年二十三歳^ニ罷成申候間、此者を直^ニ相統被仰付被下候様、内意歎出申候。依之内輪委敷承札申候處、是迄諸事差はまり、精勤仕候儀^ニ者御座候得共、前文之次第相違^茂無御座、尤典太儀相統被仰付候以来、新五左衛門成長之後、人物次第^ニ者相統可奉願との内存有之、旁右之通歎出申候様子^ニ相聞、彼は無余儀次第^ニ御座候。然処同人儀、前条之通^ニ而、当御

役之儀^者、屈兼候意味^茂御座候得共、惣体^者、壮健成者^ニ而、山野之駈廻り等^者、随分出来可仕見込^ニ御座候間、乍恐丸山弥平次病死跡河江・廻江・杉嶋御山支配役被仰付被下候様。

典太養子

郡浦新五左衛門

当辰二十三歳

右^者惣体手全成者^ニ而、文化十二年正月御惣庄屋代役を^茂御免被仰付、其以来御役辺之心懸^茂厚ク、夫^ニ応シ、諸御用筋取計^茂手馴、筆算等^茂達者^ニ仕、最早御惣庄屋被仰付候^而茂、随分相勤可申見込^ニ御座候。殊更同人儀、郡浦血脉^者之^ニ茂御座候間、旁乍恐典太儀、前段之通転役被仰付被下候ハ、同人跡直^ニ郡浦御惣庄屋被仰付、御知行高三十石被下置、御代官兼帯を^茂被仰付被下候様。

右之趣、敬次郎^江者勿論、外同役共^江茂、衆儀仕候處、何れ^茂存寄之節無御座、同意仕候。右之通被仰付被下候ハ、於典太^茂別^而難有奉存、弥以差はまり精勤可仕、新五左衛門儀^者、前文之通血脉之者^ニ而、典太相統以来、会所役人以下村役人^ニ至迄成長仕候儀を相待居申候程之儀^ニ付、此節引統御惣庄屋被仰付候ハ、一統其望を得、人氣^茂落着可申と奉存候間、乍恐不閑御内達仕候条、重疊可然様被成御参談可被下候。以上

辰

正月

西浦九兵衛

御郡方

御奉行衆中

典太儀、本行之通達有之、聞方之趣且御郡方よりも、別紙之

通^ニ付、当役被成御免、諸役人段被仰付、杉嶋・廻江・河江
三手永・御山支配役闕跡被仰付、毎歳米拾五俵完可被下置哉。
新五左衛門儀、本行之通達有之、聞合之趣且御郡方よりも別
紙之通^ニ付、前段典太儀、転役被仰付儀^ニ候ハ、右跡郡浦手
永御惣庄屋^并御代官兼帯被仰付、御知行高三拾石可被下置
哉。

郡浦御惣庄屋

郡浦典太

右^者丸山弥平次跡河江手永御山支配^ニ転役被仰付被下度、西浦九兵
衛書面之通御座候。兼^而精勤ハ仕候得共、氣薄^ニも有之、繁雜之御惣
庄屋役ハ、追之内断^ニも仕候様子^ニ付、当役被成御免、諸役人段^ニ而、
河江手永御山支配役被仰付候ハ、勤料米拾五俵被下置候間、典太儀
も米拾五俵可被下置哉。

同人養子

郡浦新五左衛門

右^者手全成人物^ニ而、筆算達者^ニ仕、御惣庄屋役可相勤、才器之樣
子、御郡御目附付御横目見聞書も相添候通御座候。依之典太跡郡浦
手永御惣庄屋・御代官兼帯可被仰付哉。

但郡浦手永御惣庄屋御知行高三拾石之所柄^ニ御座候。親跡之儀
^ニ付、極通可被下置哉。

右之通御存寄無御座候ハ、選舉方へ差廻可申と奉存候事。

御郡方

本^者帝之通、相しらへ申候處、御口達之趣奉畏候。丸山弥平次儀
^者杉嶋・廻江・河江三手永御山支配役被仰付置候間、典太^茂
弥平次同様、右三手永御山支配役^ニ可被仰付哉。

覚

郡浦典太養子

郡浦新五左衛門

二十三歳

右^者手全成人物^ニ而、筆算達者仕、諸事吞込、御免方等手馴、御惣庄
屋被仰付候^而茂、可相勤者^ニ候哉。為御聞方被差出、承合候處、新五
左衛門儀、人物手全有之、筆算達者^ニ仕、文武芸之儀^茂相応相嗜、去
ル文化十二年より御惣庄屋代役御免被仰付置、典太病中故障等之節
^者罷出、精勤仕候由、惣体御用向心懸厚人物^ニ而、兼^而者^ニ会所^江被出、
諸しらへ方等^ニ手合、御免方之儀^者、鯨会所^江数十日引越、斎藤才七
申談、右一卷大造之諸帳面仕立、習熟仕候由、且八代御新地築立^ニ
付^而ハ、右御用懸^ニ而、必多度彼方^江罷越、出精仕居候様子御座候。
右之通諸事心懸能、御用筋手馴居候付、御惣庄屋被仰付候^而茂、無支
人物之様子相聞申候。右承合候趣、書付を以、御達申上候。以上
辰 二月 伊藤多加右衛門

八〇 加平 他

(九一二〇一八)

御内意之覚

郡浦手永綱引村庄屋

加平

当辰七十三歳

右^者惣体手全成者^ニ而、明和五年親在勤中庄屋代勤差免置申候處、

出精相勤申候付、天明七年七月親跡庄屋本役申付、寛政九年迄十一ヶ年相勤居申候処、病身^ニ罷成、役儀断願出申候間、願之通差免置候処、同十二年九月快復仕候付、猶又帰役申付、当年迄代勤十九年、本役三十三年、都合五十二年出精相勤申候。右之者^者、各別功勞等有之者^{ニ而者}、無御座候得共、数十年無怠相勤申候^{ニ付而者}、村方自然と服従仕、聊申分之筋^茂無之、数十年手全^ニ精勤仕候間、乍恐右年勞を被賞、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付被下候様。

右同村頭百姓

甚次郎

当辰七十四歳

右者、惣体手全成者^{ニ而}、明和七年親跡頭百姓申付、天明五年蔵頭兼帶申付候処、蔵頭之儀^者、寛政四年断願出、頭百姓迄相勤、役方心懸能、組内之者共、農務之誘^茂厚ク、諸上納等速^ニ相納、諸御用筋無懈怠取計、同村庄屋役替り目^茂五代^ニ亘り、当年迄都合五十一年出精相勤申候間、乍恐被賞、礼服・小脇差・合羽・傘等被成御免被下候様。

同手永石橋村頭百姓

弥七

当辰七十歳

右者、右同断。手全成者^{ニ而}、安永八年頭百姓申付、当年迄都合四十二年、役方無怠出精相勤、且自身農業之稼方^茂、各別心懸能、家内一和いたし、出精仕候^{ニ付而者}、村中壯年成者共、手本^{ニ茂}相成候程^{ニ有之由ニ付}、委敷承札申候処、相違^茂無御座候間、乍恐彼是被賞、吉凶礼麻上下御免被仰付被下候様。
右之通、何れ^茂被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。左御座候

ハ、其身^者勿論外々^{イロイロ}役人共勵^{ニ茂}相成可申と奉存候。此段不聞御内達仕候条、重畳可然様被成御参談可被下候。以上

辰

三月

西浦九兵衛

御郡方

御奉行衆中

覚

郡浦手永庄屋^并頭百姓、兩人申立之趣^{ニ付}、為御聞方被差出、打廻見聞仕候趣、左之通御座候。

同手永網引村庄屋

加平

七十三歳

右者、明和五年親跡庄屋役相勤候中、右代勤申付^ニ相成、其後天明七年親跡本役申付^ニ相成、相勤居申候由之処、寛政九年病身^{ニ付}、依願庄屋役差免^ニ相成候処、快服仕候^{ニ付}、同十二年帰役申付相成、右代役十九年・本役三十二年、前後代役共五十一年、多年手全出精相勤申候由、承申候。

同手永網田村頭百姓

甚次郎

七十四歳

右者、明和七年親跡頭百姓申付^ニ相成、暫蔵頭を^茂兼帶相勤居申候由之処、蔵頭役^者相断、頭百姓迄相勤、役前心懸能、勸農方相誘、御年貢・諸上納等、速^ニ相納、庄屋役五代亘り、当年迄五十一年、多年手全出精相勤候由、承申候。然処本紙^{ニ者}網引村之同村と相見申候得共、網引村^{ニ者}、甚次郎と申もの居不申、網田村^{ニ而}御座候。

同手永石橋村頭百姓

弥七

七十歳

右者、安永八年頭百姓申付相成、役前至^而心懸能、家内一和いたし、其身農業相稼、村方之もの^{江茂}、勸農方相倡、御年貢・諸上納等^茂速^ニ相納せ、当年迄四十二年、数十年手全出精相勤申候由、承申候。右之三人、数十年役前手堅相勤申候由^ニ付、相当之御賞美被仰付^ニ而可有御座、右見聞仕候趣、書附御達申上候。以上

辰 五月

丸山林次

加平儀、庄屋役三十三年^ニ相成、見合^茂御座候間、無苗・御惣庄屋直触可被仰付哉。苗字御免之儀^者、年数見合^ニ至り不申、見合可被置哉。

但庄屋役、無苗・御惣庄屋直触二十五年已上、苗字御免四十年已上

甚次郎儀、達之通頭百姓五十一年^ニ相成、見合^茂御座候間、礼服・小脇差・傘等可被成御免哉。

頭百姓通例五十一年以上^ニ而被賞、見合^ニ御座候。弥七儀四十二年^ニ相成、年数浅、礼服御免之儀、先見合可被置哉。尤精農之者之由^ニ者有之候へ共、格別之儀者相聞不申候間、御間聞届之及達可申哉。

右之通被仰付候。以上

文政三年五月

的場喜太郎

妹尾寛太

御内意之覚

松山会所詰^ニ而、馬場村庄屋兼帶

定次

当辰五十三歳

右者、於在々桑を仕立、養蚕いたし候様、御達之趣を以、委敷申達置候^ニ付^而者、御国産繁栄仕候様、御惣庄屋以下心配仕、手永中能被行候様、精々教諭仕、御山支配役申談、桑苗仕立方仕、当春式千五百本程^者、村々屋敷・畔又^者空地等之内^ニ植附せ、此迄猶苗木を仕立、無支所々^江植付被申候含^ニ居申候様子^ニ御座候處、近年御用筋^茂次第^ニ繁劇^ニ相成候^ニ付^而者、会所許より誘候迄^ニ而^者、届兼候儀^茂可有御座哉と奉存候間、右定次儀^者、是迄養蚕方少々試手馴居候様子^ニ付、右之者桑仕立^并養蚕誘方請込申付度奉存候。尤當時迄仕立来不申候事^ニ付、當時之身分^ニ而^者、申付候^而茂、自然と下方等閑之氣味^茂可有御座哉。依之恐多奉存候得共、在勤中御郡代直触被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。左候ハ、一統之氣受^茂嚴重^ニ有之、且其身難有奉存候處より、仕立方各別差はまり出精可仕と奉存候。此段不閣御内達仕候条、重畳可然様被成御參談可被下候。以上

辰

五月

西浦九兵衛

御郡方

御奉行衆中

定次儀、桑仕立^并養蚕誘方請込申付有之度由^ニ付、見合^茂御座候間、在勤中御郡代直触可被仰付哉。

覚

松山会所詰^ニ而、馬場村庄屋兼常

定次

五十三歳程

右定次儀、寛政十年九月松山会所詰申付^ニ相成、其後御免方付被申付、当年迄二十三年相勤候。年数之内^ニ者、勤之依功^ニ度々鳥目被為拜領候由、惣体手堅成人物之様子^ニ而、桑仕立・養蚕誘方請込被仰付度、御郡代書面之趣を以、承合申候処、右定次儀養蚕方、少々手馴居候様子^ニ相聞、会所向数年相勤、殊更御免方附相勤申候儀^ニ付、村々之地理^茂能存居申候様子^ニ御座候間、桑仕立・養蚕誘方請込被仰付候^而可相勤人物之様子^ニ相聞申候。右見聞仕候趣、書付御達申上候。以上

辰

七月

内田尉助

八二 中山武助

(九一〇一八)

御内意之覚

御郡代直触^ニ而、松山会所手代

中山武助

当辰六十一歳

右^者、安永三年五月松山会所見習^ニ呼出、同六年六月定詰小頭申付、其後追々操上申付、文化七年十二月手代^ニ申付、当年迄都合四十七年諸事手全^ニ出精相勤申候。

一 津波之節、荒地しらへ方数ヶ村^ニ而、手数懸候処、請込之勤前始末

無間拔、各別出精相勤候由^ニ而、被賞、寛政五年六月鳥目式貫文被為拜領候。

一 役方数年心懸能、致出精候由^ニ而、被賞、寛政六年十月礼服被成御免候。

一 洪水之節、各別致出精、水溜・潮溜・本途石垣御普請共^ニ厚心を用、取計致出精候由^ニ而、被賞、寛政十年六月鳥目五百文被為拜領候。

一 平日役方心懸能、諸御用無間拔取計、別^而近年御惣庄屋追々引替被仰付候^ニ付^而へ、諸事繁雜^ニ有之候処、心を用出精相勤候由^ニ而、被賞、寛政十二年十二月鳥目老貫五百文被為拜領候。

一 笹原村新開築立候節、下しらへ見分立会、或者塘手築立、且開明之上、地割等迄始末・出精相勤候^ニ付、文化元年八月支配限之内より鳥目老貫五百文差遣置申候。

一 役方心懸能、数年出精仕、且父中山茂左衛門五十年餘之勤勞、旁^ニ被対、文化三年七月苗字御免・御惣庄屋直触^ニ被仰付候。

一 龍口御類焼^ニ付^而、寸志差上申候処被賞、文化四年正月御郡代直触被仰付候。

一 御手当米、寸志差出、寄特之儀、御間御間届^ニ相成候段、御書付被渡下候。

一 大口村前新地築立候節、会所より遠方相隔居候処、数十度致往返、殊^ニ彼方^江役人引除居候^ニ付^而者、会所向当用も繁雜^ニ有之、且在中間敷時分、出夫之者^ハ、惣方^も行届、氣受能、彼是厚ク心配仕候^ニ付、文化十二年十一月支配限之内より鳥目老貫五百文差遣置申候。

一 御惣庄屋病中^ニ付^而、諸御用筋引請、昼夜会所^江相詰、諸御用請候節、臨時之御用共^ニ無間拔出精相勤、且御囲敷蔵建方^ニ付^而、種々思惟を察、大造之御普請丈夫^ニ出来仕、旁を以、文化十三年八月支配

限之内より八木^{（米のこ）}俵差遣置申候。

六十一歳程

右之通、数十年出精相勤候^{ニ付而者}、追々結構^ニ被仰付、弥以精勤仕居、御免以来^者、別^而御用向繁雜^ニ相成、諸帳面之しらへ方御免積等手入多、殊^ニ近年不作打続候^{ニ付而ハ}、余計之手数も懸申候處、一切根^ニ成相勤、其外臨時之御用も多、各別心懸骨折強御座候處、内外引受諸事無間拔申談、將又会所御用宅之儀、年久敷相成、極々痛損、只今分^{ニ而者}、最早危相見申候間、近年建替申度含^ニ御座候得共、諸出銀^ニ申付候以後、未余錢^茂出来不仕候付、御用錢貨殖之取計申付候處、武助一人^{ニ而}引受、色々心配仕、殖方之儀取行、毎歲種々之取組を以、油・糟^者或米・栗^{（マ）}等買入、受払等も手堅取計、万端行届、各別心配仕候^{ニ付}、年々殖方^ニ相成、追々臨時之御用^ニも相立、當時既御備も余程出来いたし、此上ハ不遠内見込之通、会所向も存分建直出来可仕と奉存候。

前条之通数十年会所之根^ニ成、一体之勤方拔群出精仕候^{ニ付}、彼是被賞、乍恐作紋麻上下一具被為拜領被下候様有御座度、於私奉願候。左御座候ハ、外々勵^者勿論其身涯分之規模^{ニ而}、此上弥以精勤可仕候間、重疊可然様被成御參談可被下候。以上

辰

五月

西浦九兵衛

御郡方

御奉行衆中

覚

御郡代直触^{ニ而}松山会所手代

中山武助

右武助儀、安永三年五月松山会所見習^ニ罷出、同六年六月定詰小頭被申付、其後追々繰上^ニ相成、文化七年十二月手代役申付^ニ相成、当年迄四十七年出精相勤、右年数之内、寛政六年十月役方数年心懸能出精仕候旨^{ニ而}被賞、礼服御免被仰付候。且親中山茂左衛門儀、御郡代直触^{ニ而}五十年余之勤勞、其身役方数年出精相勤、旁^ニ被対、文化三年七月苗字御免、御惣庄屋直触被仰付候。且又龍ノ口御屋舖御類焼^{ニ付}、寸志差上申候由之處、同四年正月御郡代直触被仰付、其外鳥目度々被為拜領候由、將又請免被仰付置候以来、諸帳面之しらへ御免積等、手数多御座候得共、若手之者共引廻シ、御免方之仕法立、教示仕、根^ニ成相勤、其外臨時之御用、内外引受無間拔申談、厚心配仕、各別骨を折、出精相勤候様子^ニ御座候。当年迄惣年数四十七年相勤、数年之勤勞を被賞、相応之御品被為拜領候ハ、弥以精勤仕可申と見聞仕候。右外承合申候處、御郡代書面之通、相聞申候間、書付御達申上候。以上

辰

七月

内田尉助

八三 嶋田源之助

(九一〇—九)

御内意之覚

御郡代直触^{ニ而}致病死候郡浦手永戸口浦村
嶋田源十倅

嶋田源之助

当辰四十四歳

右者 父源十儀、明和七年九月同手永戸口浦村庄屋代勤申付置候處、天明元年三月父喜兵衛跡庄屋本役申付、同三年八月上綱田村庄屋兼帶申付、相勤居申候處、寛政九年七月武藤勝平江同所皿山受込被仰付候節、源十儀、御郡代直触ニ被仰付、同人手附横目被仰付、戸口浦・綱田両村庄屋役之儀者、差免、右横目役迄相勤居申候處、文化二年皿山御置置ニ相成、焼物師共自勤ニ而、焼方被仰付、諸御役人者引払ニ相成、源十儀同様ニ而、横目役之儀者被差免置候處、猶又同三年皿山以前之通被仰付、其砌下綱田村庄屋役申付置候處、皿山横目役之儀者、再役被仰付、相勤居申候處、下綱田村零落ニ付而、繁雜ニ有之、皿山横目之儀者、届兼候由ニ而、御断、願之通被差免、庄屋役迄相勤居申候處、文化十二年三月老衰仕、断願出候間、願之通差免置申候。尤庄屋代勤十一年・本役四十八年都合五十九年相勤、去八月病死仕候。然処右綱田村庄屋相勤居候内、寛政四年四月津波之節、当日者郡浦会所江御用有之、罷出、暮比罷帰、自身儀者大難を遁レ申候得共、居村戸口浦之儀者、捻而波下ニ相成、第一家内上下式拾三人之内二十二人溺死仕、悴源之助十五歳ニ罷成、不慮ニ生残り、村方惣人数八百余人之内、残生之者纔貳百三十余人ニ而、十方ニ暮居候由之處、差寄戸口浦村庄屋、溺死いたし、右残生之者共世話仕候者、茂無之、不得止事隣村之庄屋ながら、右源十儀、父母・妻子其外從類共、捻而溺死いたし、愁歎無申計折柄ニ候へ共、其佩難押移、早速より御救等願出、且居所無之候ニ付、下綱田村之内西原と申所江、流レ材木等取集、造り続ケ、長屋を五ヶ所ニ作り建、右生残り居候者共入置、日々御救米被渡下候を、夫々配當いたし、尤生残り之者共、父残居候へハ、子溺死いたし、夫存生仕候得共、女房及死亡、父子・夫婦相揃候者連者、一向無御座、追々産業ニ取付、一家を立候儀、難相成

体ニ付、右源十自身媒酌を以、相遇を極メ、其者江付居候縁有之候を附属いたし、右之長屋を一々ニ廻り限、一家一軒を組立、右外御漬ニ相成候家五十三軒有之、其家々ニ付居候田畑者、相応ノ割渡、受持を極メ、且又戸口浦村庄屋舖之儀者、悉荒磯と相成、所々ニ大堤を見候様ニ相成居候を、同年六月初より村下浪請石垣を貳百間余築方并居屋敷床之地無シ等、余計之夫力ニ而出来可致處、余村之助夫を受不申、残生貳百余人之内壯健成者共を以、十月初迄ニ、普請夫々仕舞寄、同月末より家居造渡之竹木等相渡候ニ付、銘々ニ配當いたし、各造作ニ取懸り、十二月初ニ五十三軒、夫々出来、旧所引移セ、將又塘筋并田畑之荒地、余計ニ有之候處、漸々起シ方彼是甚以大造之儀ニ候處、始末各別相勤、心配仕候間、無程元々之通回復いたし、村方茂追々ニ竈、人盡も相増、近年ニ至候而者、大略以前ニ不相替繁昌仕候様ニ相成候儀、偏ニ右源十拔群差はまり、相勤候故之儀と奉存候。悴源之助儀、惣体手全成者ニ而、右大變後、諸御用繁雜有之候ニ付、同五年三月庄屋代勤申付、同九年十一月戸口浦村庄屋本役申付、猶翌月綱田村庄屋を兼帶申付、文化三年迄都合十ヶ年相勤居候處、両村之儀者、届兼、綱田村庄屋役者断願出申候間、願之通差免、戸口浦村迄相勤居、代勤共当年迄都合二十九年出精相勤申候。尤村庄屋相勤居候儀者、御座候得共、内々武芸を茂相嗜居候様子ニ付、承札申候處、炮術三破神伝流渡辺弥五七門弟ニ而、目錄相伝仕、両綱田村相門中誘方申談ニ相成居候由、劍術武藏流小崎平八門弟ニ而三ノ先相伝仕居、當時茂村方御用無之節者、折々内稽古茂いたし、相門誘方茂世話仕候様子ニ御座候。右之通若年より庄屋役手全ニ相勤、村方申分茂無之、一和いたし、内々者右之通武芸を茂相嗜居、旁寄特之儀ニ而親源十儀者、前文之通五十年余之年勞、殊ニ津波

ニ付而者、父母・妻子^茂致溺死、誠ニ不慮之大難、進退差迫申候折節
なから、御用を重シ、抜群相働、精勤仕候處、右ニ付而何ぞ御賞美筋
茂無御座様子ニ相見申候間、右勤勞ニ被對、乍恐此節悴源之助儀、親
跡御郡代直触被召出被下候様有御座度、於私奉願候。此段不聞御内
達仕候条、重疊可然様被成御參談可被下候。以上

辰

三月

西浦九兵衛

御郡方

御奉行衆中

覚

郡浦手永御郡代直触ニ而病死仕候嶋田源十
悴戸口浦村庄屋

嶋田源之助

四十四歳

右源之助申立之趣ニ付、為御聞方被差出、承合申候處、父源十儀明
和七年庄屋代勤申付ニ相成、天明元年親跡庄屋役申付ニ相成候以來、
網田村庄屋兼帯并皿山御横目進退、且庄屋再役申付ニ相成候處、老
衰仕候ニ付、断願ニ付、文化十二年差免相成、御郡代直触ニ而、御郡
並之御用共、去年迄代役共都合五十年相勤、同八月病死仕候。尤先
年網田村庄屋相勤居候内、津波之節、家内大勢之内父子兩人生殘申
候由、源十儀^者郡浦会所江罷出申候ニ付、大難を通、助印仕候儀^者、
偏役儀相勤居申候所より之儀と相心得候哉ニ而、愁歎中なから御用
向差はまり、大變之跡昼夜心配いたし、出精相勤申候様子、本紙ニ
委細相見候通、其節働拔群之功業相聞申候。悴源之助儀、寛政五年

網田・戸口浦兩村親源十庄屋代勤申付ニ相成候以來、同九年親跡庄
屋役申付ニ相成、其後依願、網田村之儀^者差免ニ相成、当年迄代勤共
二十八年相勤申候由、武芸等^茂相嗜申候由ニ而、師家より取柄相門中
倡方申付ニ相成居候由、惣体手全之人物ニ而、役前心懸能、出精相勤
申候由。然處父源十儀、津波之節拔群之功業、且五十年之勤功、旁
ニ付、悴源之助申立候通ニ茂被仰付ニ而可有御座哉。右見聞仕候趣、
書附御達申上候。以上

辰

五月

丸山林次

達之通ニ付吟味仕候處、村庄屋等勤勞ニ付而、苗字・刀御免被成
置、六十年余相勤候者、病死跡悴親同前引統被仰付候見合有之、
本行源之助父嶋田源十儀、庄屋役四十八年、代役以來五十八年相
勤、病死いたし候間、右引統之年数、見合ニ至り不申、達之趣難
及食議可有之候得共、書面之通、源十在勤中、寛政四年津波大變
後、村々取立ニ付而者、住居を初、余計之竈潰ニ相成候付而も、田
畑割渡、其外村下浪受之石垣・居屋敷地撫等之夫方手配、塘筋田
畑・荒地起方等、彼是之儀差はまり、抜群精勤之段、委細本帳之
通ニ而、聞方ニ茂拔羣之功業之由相見、源之助儀^茂、庄屋役二十四
年、代役共二十八年相勤、武芸も心懸候由、且又別紙書拔之通、
見合も御座候付、旁別段を以、達之通御郡代直触可被仰付哉。如
何程可有御座哉。
前議之趣、復考仕候處、本行源十儀、武藤勝平皿山受込被仰付候
付、同人手附横目被仰付候付而、御郡代直触被仰付置候間勤勞ニ
付而之進席ニ而無之、役ニ付而之席ニ付、横目役差免ニ相成候間、直
触ハ被召上等之處、其儀無之届兼候段、別紙内意之通ニ付、旁悴

源之助引統之儀者、見合可被置哉。然処同人儀、庄屋役廿四年、代役より廿九年、網田村庄屋兼常十年相勤候由、彼是を以、其身之勤勞^ニ而、無由・御惣庄屋直触^ニ者可被仰付哉。且又父源十儀、代役以来五十九年之内、本役四十八年^ニ相成、在勤中拔群之功勞茂有之、源之助儀、武芸^茂心懸候由、旁を以一等被進、苗字御免・御惣庄屋直触可被仰付哉。如何程可有御座哉。

源十儀、再議之通候処、御郡代より内意之趣御座候間、達見合置申候処、別^并渡辺弥五七門弟中、書面之通^ニ而、炮術心懸厚、在御家人中誘方宜、一稜之為^ニ相成候付^而者、万一出榎等難相成身分^ニ被仰付候へハ、勵を失ひ、且御家人中誘方も出来不申、近郷相門中競を失ひ申候間、親同様御郡代直触被召出候様、無余儀様子^ニ相聞、本行之通、源十儀、庄屋役四十八年、代役よりハ五十九年^ニ相成、在勤中拔群之功勞有之候得共、右^ニ付^而者、被賞も無御座、且其身之勤勞旁、別段を以、達之通御郡代直触可被仰付哉。如何程^ニ可有御座哉。

八四 吉田徳十郎

(九一三〇—九)

御内意之覚

宇土町居住、土席浪人格^ニ而、当春病死仕候

吉田清蔵養子

吉田徳十郎

当辰四十七歳

右^者養父吉田清蔵儀、父代寸志之訳^ニ被対、親跡町独礼被仰付、苗字^并刀年始門松建候儀共被成御免候。寛政六年十一月松山手永村々

御年貢難決^ニ付、米貳百五拾俵寸志差上、且又親跡相統被仰付候^ニ付、為冥加、同年十二月金子三千足為御慰^斗代指上、猶御上金被蒙仰候砌、鳥目五百目、寛政元年より同五年迄五ヶ年^ニ寸志差上申候処、同七年五月右稜々被賞、土席浪人格^ニ被仰付候。

一 享和二年十一月鳥目拾八貫六百目寸志差上、且御才覚銀代錢御返済、殘貳拾六貫四百目、都合四拾五貫目寸志^ニ差上申候処、翌年三月拾人扶持被下置候。

一 同三年五月御勘定所御用達被仰付、格別^ニ七人扶持被下置候。

一 同年七月錢六拾貫目亥子丑三ヶ年^ニ調達仕候様被仰付候^ニ付、御勘定所^江相納候。尤右之内九貫目三ヶ年^ニ寸志差上候様、御内意有之候由^ニ而、寸志^ニ差上申候由之処、文化元年八月九曜御紋付御帷子一被為拝領候。右寸志^ニ差上候殘五拾壹貫目^者、未如何様共不被仰付候。

一 同年十一月、宇土町独礼塩飽屋徳兵衛^江被仰付候御才覚銀之内、難決^ニ付、内輪之儀^者、清蔵より差替置申候由^ニ而、同人より御返済殘分錢六貫八百四拾目指上申候処、翌文化元年十月、今度関東筋川々御普請御用^并御才覚錢寸志指上、奇特之儀^ニ付、猶老人扶持被増下候。

一 文化二年六月若殿様初御入部^ニ付、正銀五拾枚寸志^ニ指上、御勘定所^江相納申候処、同年十一月九曜御紋付御帷子一被為拝領候。

一 同三年三月龍口御屋敷御類焼^ニ付、寸志錢貳拾貫目差上候内、七貫目^者御郡方^江上納仕、拾三貫目^者御勘定所^江上納仕、外^ニ御才覚御返済錢寸志之内貳貫五百目、文化元年十一月御預分共都合貳拾貳貫五百目寸志差上申候処同五年八月養子徳十郎^江五人扶持被為拝領候。

一 同六年魯西亜御手当米六拾俵代壹貫八百六拾目寸志差上申候処、
同八年六月徳目^ニ可被立下旨、御書附を以被仰渡候。

一 錢百四拾目、右魯西亜米代壹貫八百六拾目^ニ而、其砌被仰付候徳
目^ニ不足分、此節差出申候。委細^者別希御内話書附^ニ相認置申候通
^ニ御座候。

一 同十年二月、御用達御免被仰付候^ニ付、右^ニ付被下置候御扶持方
者、御引上被仰付、桜御紋御上下一具被為拝領候。

一 享和三年八月櫛苗為寸志錢百五拾目、水前寺蠟拟所^江差出、文化
元年八月、右同寸志として錢四百三拾目、同二年八月右同斷為寸志
錢七百四拾目、同三年六月右同七百五拾目指上、同年八月於江戸金
子貳百足差上申候由之處、九曜御紋附木綿御單物一ツ被為拝領候。

其後水前寺稻荷社永代為燈明料錢百六拾六匁六分六厘、為冥加寸志
差上申候由^ニ御座候。

右之通追々寸志差上結構被仰付置候處、清藏儀、去十二月病死仕候。
然処養子徳十郎儀惣体手全成者^ニ而人物^茂宜敷者清藏より差上置候

寸志錢不足分是迄差出不申候^ニ付、此節前文之通差出、貳貫目之高
^ニ全相成申候得共、乍恐當時之御振合を以勘考仕候得^者、不足可仕

候得共、前条之通文化六年差上申候魯西亜御手当米代之儀^者、其節
繼目^ニ可被立下旨、御書附を以被仰渡、其段申渡置、殊^ニ其時分同格

井上藤次郎儀^者、同様之寸志高差出置、無相違相統被仰付置候^ニ付、
徳十郎儀^茂、右之御見合を以、親跡無相違相統被仰付、御扶持方之

儀^茂、父子^江被下置候分、相応^ニ被為拝領被下候様有御座度、於私奉
願候。且又清藏儀、御用達被仰付置候節差出置候六拾貫目之内、九

貫目寸志^ニ被召上候殘分之儀^者、追^而奉願候筋^茂可有御座候間、彼是
可然様被成御參談可被下候。以上

辰

五月

御郡方

御奉行衆中

西浦九兵衛

徳十郎儀、達之通^ニ而、父清藏寸志之訳^ニよって、拾老人扶持
被下置、士席浪人格被仰付置、去冬相果申候。然処文化八年
清藏より壹貫八百六拾目之寸志錢差出候^而、繼目之節被立下
段、及達置申候。其砌者士席浪人格之繼目貳貫目、親同様相
統被仰付、見合有之、同町井上藤次郎儀も、文化八年頃貳貫
目之寸志^ニ而、親同様相統被仰付候。尤清藏差出置候繼目寸
志之儀^者、貳貫目^ニ不足仕候得共、其節内意之趣も有之、不足
分ハ追^而差出せ被申管之處、當時迄、其儀無之被届兼候由
^ニ而、不足分百四拾目、此節寸志差出被召上候段も、別紙内意
之通^ニ有之、當時^ニ而者、同格拾貫目^ニ而引繼被仰付候間、當
時之規矩^ニ者合兼申候得とも、一旦繼目被立下段、及達置、不
足分も上納相濟、御郡代内意之趣も無余儀相聞申候間、別段
を以、徳十郎儀、親同様士席浪人格可被仰付哉。且又御扶持
方之儀ハ、世滅御格之通、十一人扶持之内六人扶持可被下置
哉。

但文化五年父寸志之訳被対、徳十郎^江被下置候五人扶持^者
直々可被下置哉。

御内話之覚

宇土町居住士席浪人格^ニ而、病死仕候吉田清藏跡吉田徳十郎相統

之儀^ニ付ハ、別紙御内達仕候通^ニ御座候。然処繼目寸志高、當時^ニ見合申候得^者、余計不足御座候得共、右^者文化六年魯西亜米代^ニ實八百六拾目差上申候間、其節先役より選舉方根取中^江内意懸合申候處、右之錢辻繼目^ニ者、百四拾目程不足仕候間、此節^者御紋服^ニ而も被為拝領候方^ニ而可有之哉之段、申聞^ニ相成候由^ニ付、其趣極密、御惣庄屋より右清藏^江相含申候處、御紋服之儀^者追々被為拝領候付、右不足分^者追而差出可申候間、此節^者乍恐何卒繼目^ニ被立下候様との儀、申立候様子^ニ付、其段選舉方^江申談、右之主意を以、御内達仕候處、繼目^ニ可被立下旨、御書付被渡下、相渡置申候由、其前後同町居住右同格村上藤次郎親式貫目寸志差上、繼目^ニ可被立下旨、御書付右同様被渡下、無程病死仕候處、無相違相統被仰付置候儀^ニ付、清藏^茂、右同様之儀^ニ付、藤次郎御見合を以、無相違相統被仰付被下候^ニ而可有之段、此間猶又選舉方根取中^江申談仕候處、當時之御模様^ニ而者、難被為叶筋^ニ御座候得共、式貫目^ニ而相統被仰付候砌、右之通御書付被渡置候儀^ニ付、矢張藤次郎御見合を以、無相違可被仰付もの^ニ而可有之段、申聞^ニ相成候間、御惣庄屋より右^ニ付、伺候筋御座候間、右之趣極密含置申候儀^ニ御座候。然処前後不足分^者追而差出申答之處、當時迄其儀無御座、左御座候得^者、右不足分^者當時之御規矩合を以差出候様可申達哉^ニ、一旦勘考仕候得共、土席浪人格之繼目^者、式貫目と申、御規矩合之節、前後之錢辻差出、不足分^者無程善出申候答^ニ而、右之通右^者通、御書附を被渡置候儀^ニ而、其不足分是迄差出不申候儀、於其身届兼候儀^者、勿論^ニ御座候得共、右之御書附被渡置候儀^ニ付、何御差出候も無支身代^ニ而、無何心押移居申候様子^ニ相聞申候。左候得^者、御惣庄屋以上、先役より於私も甚以届兼為

申儀^ニ而、今更不足分、當時之御規矩合を以差出候様をハ、如何体^ニ難申聞御座候間、其節之不足百四目、此段差出候様申達、会所迄差出置申候間、此分^者矢張魯西亜御手当米代、会所^江備方被仰付置候内^ニ差加被下候様有御座度奉存候。相統之儀^者、本紙奉願候通、無相違相統被仰付被下候様、乍恐於私奉願候。其節内輪取組之次第不聞御内話仕候間、可然様被成御參談可被下候。以上

辰

五月
御郡方

西浦九兵衛

御奉行衆中

一 右繼目不足分百四拾目被召上、魯西亜御手当米代之内^ニ被召加段及達候返事扣畧之。

右九月朔日伺、同廿一日申渡

覚

宇土町居住土席浪人格^ニ而病死仕候

吉田清藏養子

吉田徳十郎

四十七歳程

右徳十郎養父吉田清藏儀、勝手向宜、米錢等追々寸志差上、其身結構^ニ被仰付置、拾老人扶持被下置、御用達被仰付置候節^者外^ニ七人扶持被下置候由、其外御紋服之御品々被為拝領候由、且養子徳十郎儀^茂、養父寸志之訳^ニよって、五人扶持被下置候。然処右清藏儀、去十二月病死仕候。依之繼目寸志等之様子、承合申候處、御郡代書面之通、出方之錢辻無相違相聞申候。右徳十郎家内睦敷、手全成人物

之様子ニ相聞申候。右承合候趣、書付御達申上候。以上

辰 七月

内田尉助

八五 中村小左衛門

(九一二〇一九)

御内意之覚

郡浦手永諸役人段塘方助役并赤石場見拟申付置候

中村小左衛門

当辰四十六歳

右者惣体^{マツ}簾直成者^{ニ而}、筆算等^茂相応^ニ仕候^ニ付、文化十三年塘増方助役助勤申付置候処、出精相勤申候間、文政元年塘方助役、本役申付、定例・不時御普請共^ニ無懈怠出精仕、第一夫仕イ等入念、村方氣請能、無甲乙召仕、厚ク心を用、精勤仕候。依之此節積庄助跡御山支配役被仰付被下候様有御座度奉願候。左候ハ、櫓見拟^茂兼帶可申付と奉存候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

辰

八月

西浦九兵衛

御郡方

御奉行衆中

小左衛門儀、達之通^ニ付、積庄助跡御山支配役可被仰付哉。
左候ハ、追々之見合を以、毎歳八木拾五俵可被下置哉。

右同断、十三日達

覚

郡浦手永前越村居住、諸役人段^{ニ而}、塘方助役并赤石場見拟兼帶

中村小左衛門

四十六歳

右身分之儀^ニ付、為御聞方被差出、承合候処、小左衛門儀、簾直成人物^{ニ而}、筆算相応^ニ仕、別紙書面之通、塘方助役并赤石場見拟申付^ニ相成候処、役前心懸能、定例・不時御普請共、出精仕、夫仕等入念、無甲乙召仕候^{ニ付而者}、村々氣請^茂宜様子御座候。惣体^{マツ}壯建^{ニ茂}有之、役方精勤仕候人物^ニ付、御山支配役被仰付候^{而茂}、無支人物之様子相聞申候。右承合候趣、書付を以、御達申上候。以上

辰

九月

伊藤多加右衛門

(文政四年)

八六 松山丈八

(九一二〇一〇)

御内意之覚

松山手永御惣庄屋并御代官兼帶

松山丈八

右者、文化十年六月砥用手永御惣庄屋并御代官兼帶被仰付置候。然処当年迄九ヶ年御役方心懸宜、精勤仕候付、追々之御見合を以、本苗御免被仰付被下候様有御座度、於私共^茂奉願候。此段宜被成御參談可被下候。以上

四月

宇土

御郡方

御奉行衆中

御郡代

丈八儀、達之通^{ニ而}、祇用手永御惣庄屋以来九年^ニ相成、別紙例書相添置候通^{ニ而}、功業も有之、各別出精^ニよってハ、右之年数^{ニ而}も、苗字^ノ之儀御免見合御座候。丈八儀ハ本行書面之通、各別出精と申迄^{ニ而}、功業之様子^ヲ申立無之候得共、去秋祇用手永より所替ハ、別段之筋^ニも有之由^{ニ而}、拔選之意味も可有之候間、此節苗字可被成御免哉。如何程可有御座哉。右付紙之通、六月十五日申渡。

〔別紙例書〕

御惣庄屋自分苗字御免之例

四年目 内田理三次
八年目 ^{〔八年前〕} □□平左衛門
九年目 南関七兵衛
十六年目 坂梨改藏
六年目 藤井常右衛門
同 ^{〔八年前〕} 永井宇七兵衛
同 ^{〔九年前〕} 芥川茂次右衛門
廿一年目 小山立助
以上

覚

松山手永御惣庄屋

松山丈八

右者 出精相勤候由申立之趣^ニ付、為御聞方被差出承合候処、右丈八儀、文化十年六月祇用手永御惣庄屋^并御代官兼帶被仰付置候処、去八月松山手永^江所替被仰付候。当年迄九年惣体

御役前吞込能、各別心懸厚、出精相勤候由、相聞申候。右承合候趣、御達申上候。以上

已

四月

大賀久次

八七 井上甚平

(九一〇一一)

御内意之覚

歩小姓列^{ニ而} 松山手永唐物技荷改方御横目^并御郡代手附横目・人馬所見拟役兼勤

井上甚平

右甚平儀、松山手永三日村庄屋役申付置候処、天明元年五月一領者正格被召出、井樋方助役被仰付候。同十一月飽田・詫摩・上下益城・宇土・灰石井樋御用、網津村石場見拟役申付候。寛政五年三月津波跡、諸々井樋御普請之節、昼夜相詰、各別出精仕候旨^{ニ而}、作紋麻上下者具被為拜領候。同八年二月依願灰石見拟之儀^者差免申候。同九年洪水後、所々御普請之節、諸事申談出精仕候旨^{ニ而}、金子貳百足被為拜領候。同十年二月御郡代手附横目申付、在勤中一領者正被仰付候。同年御才覚錢一件、心遣仕候旨^{ニ而}、金子貳百足被為拜領候。享和二年四月役方多年手全出精仕候旨^{ニ而}、一領者正本席被仰付候。文化元年八月御才覚錢被返下候残分、寸志差上、且役方心懸能、出精仕候旨^{ニ而}、作紋小袖一ツ被為拜領候。同年十二月請御免^ニ付、出精相勤候旨^{ニ而}、作紋麻上下者具被為拜領候。同二年七月唐物技荷改方御横目被仰付、在勤中諸役人段被仰付、私共手附横目役之儀^茂、直^ニ兼勤申付置候。同年八月宇土人馬所見拟当分申付候。同八年五

月役方多年厚心を用、各別御用^ニ相立候旨^ニ而、諸役人段本席被召直候。同十年四月津口・陸口見以役兼勤被仰付候。同十二年公義御用^ニ粗一件^ニ付、出精仕候旨^ニ而、金子貳百足被為拜領候。同十三年御奉公五十年数々之役前、格別出精仕候旨^ニ而、歩小姓列^ニ被仰付候。右之通進席被仰付候後、未年浅^ニ者御座候得共、数役格別心懸能、当年迄都合五十五年手全出精相勤申候間、追々之御見合を以、独礼^ニ進席被仰付被下候様有御座度、於私共奉願候。此段宜敷被成御参談可被下候。以上

四月

宇土

御郡方

御奉行衆中

御郡代

甚平儀、達之通^ニ而、惣年数五十五年之勤^ニ候得共、五十年之年功被賞、歩小姓列被仰付候以来、六年^ニ相成、此前之間進^ニ相見、且当役^ニ而独礼被仰付候例^ニ茂相見不申、御山支配役之内、木原才次・野田嶋右衛門拔群^ニ而独礼被仰付候例^ニハ御座候得共、本行甚平儀、拔群と申程之功業^ニ茂相見不申候、旁進席^ニ者在見合可被下哉。尤五十五年之年功容易類引へも相成申間敷候間被賞、作紋單羽織袴可被下置哉。

七月十五日申渡。

覚

松山手永三日村居住、歩御小姓列^ニ而、御郡代手付横目・人馬所見以役兼帶井上甚平儀、申立之趣^ニ付、為御聞方被指出、承合申候処、

庄屋役以来、当年迄都合五十五年相成、惣体手全成人物^ニ而、数役相勤申候内^ニ者、追々被為賞候趣^ニ者、委細別紙之通御座候。当年七十歳^ニ相成候由、未々壮健成様子相見^ニ申候。右之通見聞仕候趣、御達申上候。以上

已

六月

石原栄右衛門

番号	人 名	永青文庫番号	県立図書館番号
42	丈助	9-19-8	1237
43	藤井常右衛門	9-19-8	1237
44	江口理助	9-19-8	1240
45	江本松太郎	9-19-8	1242
46	拓植寿迪 他	9-19-8	1243
文化6年(1809)			
47	源蔵	9-19-9	1246
48	太平次	9-19-9	1247
49	藤本茂作	9-19-9	1250
文化7年(1810)			
50	井上源三郎 他	9-19-10	1256
51	小山改蔵	9-19-10	1256
52	次平	9-19-10	1258
53	松田三淳	9-19-10	1258
文化8年(1811)			
54	井上甚平	9-19-11	1260
55	吉田清蔵	9-19-11	1261
56	西山武左衛門	9-19-11	1261
57	拓植桂淳	9-19-11	1266
58	岡村弥八郎 他	9-19-11	1268
59	浦上真寿	9-19-12	1270
文化9年(1812)			
60	吉田戸次郎	9-20-1	1278
文化10年(1813)			
61	野田嶋右衛門 他	9-20-2	1284
文化11年(1814)			
62	林原恵七 他	9-20-4	1295
63	万七 他	9-20-4	1295
64	喜十郎	9-20-4	1298

番号	人 名	永青文庫番号	県立図書館番号
文化12年(1815)			
65	岡村万蔵	9-20-4	1298
66	庄右衛門 他	9-20-4	1299
67	楊元逸 他	9-20-4	1299
68	伊藤玄圭	9-20-4	1300
文化13年(1816)			
69	河野寿助	9-20-4-2	1302
70	井上甚平	9-20-4-2	1304
71	小山己三郎	2-20-4-2	1304
文化14年(1817)			
72	積 庄助 他	9-20-5	1308
73	佐田源次 他	9-20-5	1308
74	茂七	9-20-5	1312
75	桑原文七	9-20-5	1312
76	橋本宗俊	9-20-5	1312
77	森内甚兵衛 他	9-20-5	1312
78	積 庄助 他	9-20-5	1312
文政3年(1820)			
79	郡浦典太	9-20-8	1315
80	加平 他	9-20-8	1316
81	定次	9-20-8	1317
82	中山武助	9-20-8	1317
83	嶋田源之助	9-20-9	1318
84	吉田徳十郎	9-20-9	1318
85	中村小左衛門	9-20-9	1321
文政4年(1821)			
86	松山丈八	9-20-10	1328
87	井上甚平	9-20-11	1329

登録番号対照表

番号	人 名	永青文庫番号	県立 図書館 番号
寛政11年（1799）			
1	芥川喜左衛門 他	9-19-1	1183
2	武 三 他	9-19-1	1183
3	助 三 他	9-19-1	1185
4	野田四郎太夫	9-19-1	1185
5	松右衛門 他	9-19-2-1	1188
6	中山茂左衛門 他	9-19-2-1	1189
7	中山茂左衛門 他	9-19-2-1	1189
8	岡村弥八郎	9-19-2-1	1190
9	西山武左衛門 他	9-19-2-1	1190
寛政12年（1800）			
10	郡浦三郎左衛門 他	9-19-2-1	1192
11	江口儀兵衛	9-19-2-1	1192
12	平右衛門 他	9-19-2-1	1192
享和2年（1802）			
13	小田字七 他	9-19-2-2	1193
14	陣内綱次	9-19-2-2	1193
15	小山改蔵 他	9-19-2-2	1195
16	門田寿吉郎	9-19-2-2	1199
享和3年（1803）			
17	中熊新蔵	9-19-3	1200
18	安谷庄三郎 他	9-19-3	1203
19	宇土郡六三ヶ村	9-19-3	1203
20	吉田清蔵	9-19-3	1203
21	政右衛門	9-19-3	1207

番号	人 名	永青文庫番号	県立 図書館 番号
文化元年（1804）			
22	井上源三郎	9-19-4	1208
23	永井藤十郎	9-19-4	1210
24	中熊新蔵 他	9-19-4	1210
25	中村嘉右衛門	9-19-4	1210
文化2年（1805）			
26	久左衛門	9-19-4	1211
27	中村慶太	9-19-4	1211
28	久左衛門	9-19-5	1218
29	野田四郎太夫	9-19-5	1220
30	江口理助	9-19-6	1222
文化3年（1806）			
31	右山長左衛門	9-19-6	1224
32	日隈太郎右衛門	9-19-6	1224
33	門田久左衛門	9-19-6	1224
34	河野清左衛門	9-19-6	1225
35	佐田五郎八 他	9-19-6	1225
文化4年（1807）			
36	内田宅平	9-19-7	1225
37	野田四郎太夫	9-19-7	1229
38	松栄	9-19-7	1232
文化5年（1808）			
39	儀七	9-19-8	1235
40	茂右衛門	9-19-8	1235
41	恵三郎	9-19-8	1236

新宇土市史基礎資料 第一集

町在 (一) —寛政十一—文政四年—

発行 宇土市教育委員会(文化振興課)
熊本県宇土市蒲田町五一番地

発行日 平成七年三月三十一日

印刷 コロニー印刷
熊本市二本木三丁目一二—三七

